

非環式化合物または炭素環式化合物 (高分子化合物 C08;電気分解または電気泳動 法による有機化合物の製造 C25B3/00, C25B7/00)

注

(1) このサブクラスにおいては、下記の用語は以下に示す意味で用いる:

— “架橋” とは、オルト、ペリ、スピロ以外の少なくとも 1 個の結合の存在を意味する;

— 少なくとも 1 個の環原子を共有する 2 個の環は“縮合している”, すなわち “スピロ” および “架橋” は縮合しているものとみなす;

— “縮合環系” とは、すべての環が相互に縮合している環系のことである;

— 縮合環系の “環の数” とは、当該の環系を 1 個の非環式鎖に変換するのに必要な切断の数に等しい;

— “キノン” とは、6 員芳香環、もしくは 6 員芳香環からなる系 (縮合していてもしていなくてもよい) を含有する化合物から誘導された化合物で、それは 6 員芳香環の 2 個または 4 個の $\equiv\text{CH}$ 基を $>\text{C}=\text{O}$ 基で置換し、さらにこれに対応してそれぞれ 1 個または 2 個の炭素-炭素二重結合を取り除き、炭素-酸素二重結合を含めて交互二重結合を有する環または環系を与えるように残りの炭素-炭素二重結合を再配置するものである; これは、アセナフトキノンおよびカンファークキノンはキノンとみなされないということを意味する。[5]

(2) サブクラス C07C から C07K に適用するラストプレイス優先ルールを規定するクラス C07 に続くクラス注 (3) に注意すること。[8]

(3) 化合物の治療活性は、サブクラス A61P にさらに分類する。[7]

(4) このサブクラスに分類するとき、クロマトグラフィーに関係する一般分野の主題事項に関する限り、グループ B01D15/08 にも分類する。[8]

(5) このサブクラスにおいては、ラストプレイス優先ルールが適用される、すなわち各階層レベルにおいて相反する指示がない限り、プロセスはこのサブクラス内の最後の適切な箇所に分類する。[3]

(6) このサブクラスにおいては、相反する指示がない限り、“第 4 アンモニウム化合物” は、対応する非 4 級窒素化合物として分類する。[5]

(7) グ ル ー プ C07C1/00-C07C71/00 および C07C401/00-C07C409/00 の化合物の分類については、他の指示または C07C69/00 における C07C69/712 のように細展開から絶対的に誘導される場合を除いて [5]

— 化合物は分子全体を考慮して分類する (rule of the “whole molecule approach” = “分子全体によるアプローチ” の規則);

— 化合物は互いに多重結合で結合された炭素原子を含有しないとき、飽和であるとみなされる;

— 化合物は互いに多重結合で結合された炭素原子 (6 員芳香環を含む) を含有するとき、不飽和であるとみなされる。

(8) グループ C07C201/00-C07C395/00 の化合物、すなわち、官能基が “ラストプレイスルール” に従って決定された後の分類

付与については、その化合物を下記の法則に従って分類する:

— 化合物は官能基が結合している炭素原子の性質に従って分類する;

— 炭素骨格とは、カルボキシル基の炭素原子を除く 1 個の炭素原子または互いに結合した炭素原子から成る一本の鎖である; 炭素骨格は炭素以外の原子またはカルボキシル基の炭素原子との結合ごとに終結するものとみなす;

— 分子がいくつかの官能基を含有するときは、最初に決定された炭素骨格と同じ炭素骨格に結合している官能基のみについて検討する。

— 炭素骨格は、互いに多重結合によって結合する炭素原子を含まないとき、飽和であるとみなされる。

— 炭素骨格は、互いに多重結合によって結合する炭素原子 (6 員芳香環を含む) を含有するとき、不飽和であるとみなされる。[5]

サブクラス内の索引

炭素および水素のみを含有する化合物.....	
製造 1/00, 2/00, 4/00, 5/00, 6/00.....	
精製, 分離, 安定化 7/00	
化合物	
脂肪族 9/00, 11/00	
環式脂肪族; 芳香族 13/00, 15/00.....	
炭素およびハロゲンを含むし水素を有するかまたは有しない化合物	
製造 17/00	
化合物	
脂肪族 19/00, 21/00	
環式脂肪族, 芳香族 22/00, 23/00, 25/00.....	
炭素および酸素を含むし水素またはハロゲンを有するかまたは有しない化合物	
製造	
2 クラス以上の含酸素化合物の同時製法 27/00	
アルコール; フェノール 29/00; 37/00.....	
エーテルまたはアセタール; オキシ化合物 41/00; 45/00....	
キノン 46/00	
カルボン酸, その塩または酸無水物 51/00.....	
カルボン酸エステル 67/00.....	
炭酸エステルまたはハロゲン酸エステル 68/00.....	
化合物	
脂肪族的に結合した OH 基をもつもの 31/00, 33/00.....	
環式脂肪族的に結合した OH 基をもつもの 35/00.....	
芳香族的に結合した OH 基をもつもの 39/00.....	
エーテル類, アセタール, オルトエステル; アルデヒド; ケトン 43/00; 47/00; 49/00	
キノン 50/00	
カルボン酸	
非環式 53/00, 55/00, 57/00, 59/00.....	
環式 61/00, 62/00, 63/00, 65/00, 66/00.....	
エステル 69/00, 71/00	
炭素および窒素を含むし水素, ハロゲンまたは酸素を有するかまたは有しない化合物	
製造	
アミン 209/00	

ヒドロキシアミン, アミノエーテル, またはアミノエステル 213/00.....
 アミノアルデヒド, アミノケトン, アミノキノン 221/00.....
 アミノカルボン酸 227/00.....
 カルボン酸のアミド 231/00.....
 カルボン酸のニトリル 253/00.....
 ヒドラジンの誘導体 241/00.....
 炭素—窒素二重結合を含有する化合物, 例. イミン, ヒドラゾン, イソシアナート 249/00, 263/00.....
 カルバミン酸の誘導体 269/00.....
 尿素または誘導体 273/00.....
 グアニジンまたは誘導体 277/00.....
 ニトロまたはニトロソ化合物, または硝酸もしくは亜硝酸のエステル 201/00.....
 化合物.....
 炭素, または炭素と水素, に結合した窒素をもつもの.....
 アミン 211/00.....
 ヒドロキシアミン; アミノエーテル; アミノエステル 215/00, 217/00, 219/00.....
 アミノアルデヒド, アミノケトン, アミノキノン 223/00, 225/00.....
 アミノカルボン酸 229/00.....
 カルボン酸のアミド 233/00, 235/00, 237/00.....
 1 個以上の炭素—窒素二重結合を含有する化合物, 例. イミン 251/00.....
 カルボン酸のニトリル 255/00.....
 アミジン, イミノエーテル 257/00.....
 ヒドロキサム酸 259/00.....
 シアン酸またはイソシアン酸の誘導体 261/00, 265/00.....
 カルボジイミド 267/00.....
 カルバミン酸 271/00.....
 尿素 275/00.....
 グアニジン 279/00.....
 ハロゲンに結合している窒素をもつもの 239/00.....
 酸素に結合している窒素をもつもの.....
 ニトロまたはニトロソ化合物 205/00, 207/00.....
 亜硝酸エステルまたは硝酸エステル 203/00.....
 ヒドロキシルアミン 239/00.....
 オキシム 251/00.....
 他の窒素に結合している窒素をもつもの.....
 ヒドラジン, ヒドラジド 243/00.....
 セミカルバジン酸エステル, セミカルバジド 281/00.....
 アゾ化合物, ジアゾ化合物 245/00.....
 ヒドラゾン, ヒドラジジン 251/00, 257/00.....
 セミカルバジン 281/00.....
 N—ニトロまたはN—ニトロソ化合物 243/00.....
 相互結合している 3 個の窒素原子鎖を含有するもの.....
 トリアジン 245/00.....
 アジド 247/00.....
 窒素を含有するその他の化合物 291/00.....
 硫黄, セレンもしくはテルルとともに炭素を含有し水素, ハロゲン, 酸素もしくは窒素を有するかまたは有しない化合物...
 製造.....

硫酸またはスルホン酸の誘導体 303/00.....
 メルカプタン, チオフェノール, スルフィドまたはポリスルフィド 319/00.....
 スルホンまたはスルホキシド 315/00.....
 化合物.....
 酸素に結合している硫黄をもつもの.....
 亜硫酸または硫酸のエステル 301/00, 305/00.....
 スルホン酸または誘導体 309/00.....
 スルフェン酸またはスルフィン酸, または誘導体 313/00...
 スルホン, スルホキシド 317/00.....
 炭素に結合している硫黄をもつもの.....
 メルカプタン, チオフェノール, スルフィドまたはポリスルフィド 321/00, 323/00.....
 チオアルデヒド, チオケトン 325/00.....
 チオカルボン酸または誘導体 327/00.....
 チオ炭酸または誘導体 329/00.....
 チオシアナートまたはイソチオシアナート 331/00.....
 チオカルバミン酸または誘導体 333/00.....
 チオ尿素 335/00.....
 チオセミカルバジドまたはチオセミカルバジン 337/00...
 窒素に結合している硫黄をもつもの.....
 スルホン酸アミド 311/00.....
 スルフェン酸アミド, スルフィン酸アミド, スルフェニルカルバマートまたはスルフェニル尿素 313/00.....
 硫酸のアミド 307/00.....
 硫黄を含有するその他の化合物 381/00.....
 セレンを含有する化合物 391/00.....
 テルルを含有する化合物 395/00.....
 コレステロールの照射産物 401/00.....
 少なくとも 4 個の炭素原子を有する不飽和側鎖をもつシクロヘキサンまたはシクロヘキセンの誘導体 403/00.....
 プロスタグランジンまたは誘導体 405/00.....
 過酸化物; パーオキシ酸.....
 製造 407/00.....
 化合物 409/00.....

ファセット分類記号

適用範囲 (1/00~409/44)

化学物質名または化学構造式で記載された
有機低分子化合物自体の発明

炭化水素[3]

- | | |
|------|---|
| 1/00 | いずれも炭化水素でない 1 個またはそれ以上の化合物からの炭化水素の製造 |
| 1/02 | ・炭素の酸化物から (不明確な組成の液体炭化水素混合の製造 C10G2/00; 合成天然ガスの製造 C10L3/06) [5] |
| 1/04 | ・一酸化炭素と水素とから |
| 1/06 | ・有機化合物, 例. 炭化水素, の存在下 |
| 1/08 | ・イソ合成 |
| 1/10 | ・一酸化炭素と水蒸気とから |
| 1/12 | ・二酸化炭素と水素とから |

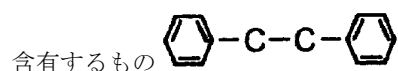
1/20	・異種原子として酸素原子のみを含有する有機化合物を原料とするもの	2/40	・・・・共役ジエンの[3]
1/207	・カルボニル化合物から[5]	2/42	・ディールス・アルダー反応以外の環化を伴うホモまたはコオリゴマー化[3]
1/213	・・・・エステルの開裂によるもの[5]	2/44	・・・・共役ジエンのみの[3]
1/22	・還元によるもの	2/46	・・・・接触のプロセス[3]
1/24	・水の脱離によるもの	2/48	・・・・炭素-炭素三重結合を含有する炭化水素のみの[3]
1/247	・環状エーテルの開裂によるもの[3]	2/50	・ディールス・アルダー反応[3]
1/26	・異種原子としてハロゲン原子のみを含有する有機化合物を原料とするもの	2/52	・・・・接触のプロセス[3]
1/28	・閉環によるもの	2/54	・不飽和炭化水素の飽和炭化水素への付加または芳香環以外に不飽和結合をもたない6員芳香環を含有する炭化水素への付加によるもの[3]
1/30	・1つの分子からハロゲン化水素の脱離によるもの	2/56	・非環式炭化水素への付加[3]
1/32	・酸素またはハロゲン以外の異種原子を含有する化合物またはそれら異種原子を酸素またはハロゲンとともに含有する化合物を原料とするもの[3]	2/58	・・・・接触のプロセス[3]
1/34	・ホスフィンとアルデヒドまたはケトンとの反応, 例. ウィッティッヒ反応[3]	2/60	・・・・ハライドを用いるもの[3]
1/36	・エステル開裂によるもの(C07C1/213, C07C1/30が優先)[3, 5]	2/62	・・・・酸を用いるもの[3]
2/00	少ない数の炭素原子を含有する炭化水素からの炭化水素の製造[3]	2/64	・6員芳香環の炭素原子への付加[3]
2/02	・不飽和炭化水素相互の付加によるもの[3]	2/66	・・・・接触のプロセス[3]
2/04	・組成が明確な不飽和炭化水素のオリゴマー化で環化の生起しないもの[3]	2/68	・・・・ハライドを用いるもの[3]
2/06	・・・・アルケンの, 例. 1個の炭素-炭素二重結合を有する非環式炭化水素[3]	2/70	・・・・酸を用いるもの[3]
2/08	・・・・接触のプロセス[3]	2/72	・6員芳香環を含有する炭化水素中の非芳香族炭素原子への付加[3]
2/10	・・・・金属酸化物を用いるもの[3]	2/74	・水添を同時に伴う付加によるもの[3]
2/12	・・・・結晶性アルミノシリケートを用いるもの, 例. 分子ふるい[3]	2/76	・部分的な水素の脱離を伴う炭化水素の縮合によるもの[3]
2/14	・・・・無機酸を用いるもの; 酸の塩または無水物を用いるもの[3]	2/78	・部分燃焼によるプロセス[3]
2/16	・・・・硫黄の酸; それらの塩; 硫黄酸化物[3]	2/80	・電気的手段によるプロセス[3]
2/18	・・・・リンの酸; それらの塩; リン酸化物[3]	2/82	・酸化カップリング[3]
2/20	・・・・ハロゲンの酸; それらの塩[3]	2/84	・・・・接触の[3]
2/22	・・・・金属ハライド; それらの有機化合物との錯体[3]	2/86	・炭化水素と非炭化水素相互の縮合によるもの[3]
2/24	・・・・金属を用いるもの[3]	2/88	・成長反応および脱離反応によるもの[3]
2/26	・・・・水素化物または有機化合物を用いるもの(C07C2/20が優先)[3]	4/00	多い数の炭素原子を含有する炭化水素からの炭化水素の製造[3]
2/28	・・・・イオン交換樹脂を用いるもの[3]	4/02	・単一の炭化水素または個々に成分の明らかな炭化水素混合物または通常ガス状の炭化水素留分の分解によるもの[3]
2/30	・・・・金属-炭素結合を含有するもの; 金属水素化物[3]	4/04	・熱のプロセス[3]
2/32	・・・・錯体, 例. アセチルアセトネート[3]	4/06	・接触のプロセス[3]
2/34	・・・・金属-炭化水素錯体[3]	4/08	・分子から脂肪族部分または環式脂肪族部分を離脱させることによるもの[3]
2/36	・・・・ホスフィン, アルシン, スチビン, ビスマシン[3]	4/10	・非環式炭化水素から[3]
2/38	・ジエンまたはアルキンの[3]	4/12	・6員芳香環を含有する炭化水素から, 例. プロビルトルエンからビニルトルエン[3]
		4/14	・芳香族-脂肪族結合における開裂[3]
		4/16	・・・・熱のプロセス[3]
		4/18	・・・・接触のプロセス[3]
		4/20	・・・・反応系中で水素が生成するもの, 例. 水蒸気から[3]
		4/22	・解重合によってもとの単量体を製造するもの, 例. ジシクロペンタジエンからシク

- ロペンタジエン[3]
- 4/24 ・多芳香族基置換脂肪族化合物における脂肪族—脂肪族結合の開裂によるもの、例. 1,4—ジフェニルブタンからスチレン[3]
- 4/26 ・多芳香環式化合物における縮合してない6員芳香環相互の結合の開裂によるもの、例. ビフェニルからベンゼン[3]
- 5/00 同数の炭素原子を含有する炭化水素からの炭化水素の製造
- 5/02 ・水素添加によるもの
- 5/03 ・・非芳香族炭素—炭素二重結合の[3]
- 5/05 ・・・部分水添[3]
- 5/08 ・・炭素—炭素三重結合の
- 5/09 ・・・炭素—炭素二重結合へ[3]
- 5/10 ・・6員芳香環の
- 5/11 ・・・部分水添[3]
- 5/13 ・・異性化を同時に伴うもの[3]
- 5/22 ・異性化によるもの（水素添加を同時に伴うもの C07C5/13）
- 5/23 ・・炭素—炭素不飽和結合の転位[3]
- 5/25 ・・・炭素—炭素二重結合の移動[3]
- 5/27 ・炭化水素骨格における炭素原子の転位[3]
- 5/29 ・・・環数は変化しないで環構成炭素原子数が変化するもの[3]
- 5/31 ・・・環数が変化するもの[3]
- 5/32 ・遊離水素の生成による脱水素によるもの[2]
- 5/327 ・・非芳香族炭素—炭素二重結合のみの生成[3]
- 5/333 ・・・接触的プロセス[3]
- 5/35 ・・炭素—炭素三重結合のみの生成[3]
- 5/367 ・・6員環から6員芳香環の生成、例. エチルシクロヘキサンの脱水素によるエチルベンゼンの製造[3]
- 5/373 ・・異性化を同時に伴うもの[3]
- 5/387 ・・・6員環以外の環状化合物から6員芳香環を含有する化合物の製造[3]
- 5/393 ・・・6員芳香環への環化を伴うもの、例. n—ヘキサンの脱水素によるベンゼンの製造[3]
- 5/41 ・・・・接触的プロセス[3]
- 5/42 ・水素受容体による脱水素によるもの[2]
- 注**
- ・(1) このグループにおいては:
- 注**
- ・一触媒の還元が同時に起こる場合、その触媒は受容体の一部を形成しているものとみなす[3]
- 注**
- ・還元された受容体を取得するために添加する化合物は受容体に属するものとみなさない。[3]
- 注**
- ・(2) 反応系中で受容体が生成する場合または反応系中で還元された受容体の再生が生起する場合の受容体はその添加物質に基づいて分類される。[3]
- 5/44 ・・ハロゲンまたはハロゲン含有化合物を受容体として用いるもの[2]
- 5/46 ・・硫黄または硫黄含有化合物を受容体として用いるもの[2]
- 5/48 ・・酸素を受容体として用いるもの[2]
- 5/50 ・・有機化合物を受容体として用いるもの[2]
- 5/52 ・・・炭化水素を受容体として用いるもの、例. 炭化水素の不均化、すなわち $2\text{CnHp} \rightarrow \text{CnHp} + \text{q} + \text{CnHp} - \text{q}$ [2]
- 5/54 ・・C07C5/44—C07C5/50のグループの2以上に分類される少なくとも2つの化合物を含有する受容体を用いるもの[3]
- 5/56 ・・・酸素およびハロゲンまたはハロゲン含有化合物のいずれか一方のみを含有するもの[3]
- 6/00 再分配反応による異なった数の炭素原子を含有する炭化水素からの炭化水素の製造[3]
- 6/02 ・不飽和炭素—炭素結合における複分解反応[3]
- 6/04 ・・炭素—炭素二重結合における[3]
- 6/06 ・・・環式炭素—炭素二重結合における[3]
- 6/08 ・飽和炭素—炭素結合における転化によるもの[3]
- 6/10 ・・6員芳香環を含有しない炭化水素における[3]
- 6/12 ・・6員芳香環を含有する炭化水素のみの[3]
- 7/00 炭化水素の精製、分離または安定化; 添加剤の使用[5]
- 7/04 ・蒸留によるもの[3]
- 7/05 ・・補助化合物を用いるもの[3]
- 7/06 ・・・共沸蒸留によるもの
- 7/08 ・・・抽出蒸留によるもの
- 7/09 ・分別凝縮によるもの[3]
- 7/10 ・抽出によるもの、例. 液剤を用いる液状炭化水素の精製または分離[3]
- 7/11 ・吸収によるもの、例. 液剤を用いるガス状炭化水素の精製または分離[3]
- 7/12 ・吸着によるもの、例. 固体吸着剤を用いる炭化水素の精製または分離[3]
- 7/13 ・・分子ふるい技術によるもの[2, 3]
- 7/135 ・ガスクロマトグラフィーによるもの[3]
- 7/14 ・結晶化によるもの; 結晶の精製または分離[3]
- 7/144 ・薄膜を用いるもの、例. 選択的透過[3]
- 7/148 ・少なくとも1つの化合物の化学的变化をひきおこす処理によるもの[3]
- 7/152 ・・付加物または錯体を生成することによ

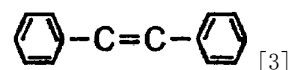
	るもの[3]	13/02	・単環式炭化水素またはそれらの非環式炭化水素誘導体
7/156	・ ・ ・銅塩の溶液を用いるもの[3]	13/04	・ ・ ・3 員環をもつもの
7/163	・ ・ ・水素添加によるもの[3]	13/06	・ ・ ・4 員環をもつもの
7/167	・ ・ ・炭素—炭素三重結合を含有する化合物の除去のためのもの[3]	13/08	・ ・ ・5 員環をもつもの
7/17	・ ・ ・酸または硫黄酸化物を用いるもの[3]	13/10	・ ・ ・ ・シクロペンタン環をもつもの
7/171	・ ・ ・硫酸または発煙硫酸[7]	13/11	・ ・ ・ ・不飽和炭化水素基で置換されたものの[2]
7/173	・ ・ ・有機金属化合物を用いるもの[3]	13/12	・ ・ ・ ・シクロペンテン環をもつもの
7/177	・ ・ ・混合物中の少なくとも 1 つの化合物の選択的低重合または選択的高重合によるもの[3]	13/15	・ ・ ・ ・シクロペンタジエン環をもつもの[3]
7/20	・添加剤の使用, 例. 安定化のためのもの[3]	13/16	・ ・ ・6 員環をもつもの
9/00	非環式飽和炭化水素	13/18	・ ・ ・ ・シクロヘキサン環をもつもの
9/02	・ 1-4 個の炭素原子を有するもの[5]	13/19	・ ・ ・ ・不飽和炭化水素基で置換されたものの[2]
9/04	・ ・ ・メタン（汚泥の処理による製造 C02F11/04）[5]	13/20	・ ・ ・ ・シクロヘキセン環をもつもの
9/06	・ ・ ・エタン	13/21	・ ・ ・ ・ ・メンタジエン[2]
9/08	・ ・ ・プロパン	13/23	・ ・ ・ ・シクロヘキサジエン環をもつもの[3]
9/10	・ ・ ・4 個の炭素原子を有するもの[5]	13/24	・ ・ ・7 員環をもつもの
9/12	・ ・ ・ ・イソブタン	13/26	・ ・ ・8 員環をもつもの
9/14	・ 5-15 個の炭素原子を有するもの	13/263	・ ・ ・ ・シクロオクテンまたはシクロオクタジエン環をもつもの[3]
9/15	・ ・ ・鎖状炭化水素[3]	13/267	・ ・ ・ ・シクロオクタトリエンまたはシクロオクタテトラエン環をもつもの[3]
9/16	・ ・ ・分枝鎖状炭化水素	13/271	・ ・ ・9-11 員環をもつもの[3]
9/18	・ ・ ・ ・5 個の炭素原子を有するもの[5]	13/273	・ ・ ・12 員環をもつもの[3]
9/21	・ ・ ・ ・2, 2, 4—トリメチルペンタン[3]	13/275	・ ・ ・ ・不飽和の 12 員環[3]
9/22	・ 16 個以上の炭素原子を有するもの	13/277	・ ・ ・ ・ ・シクロドデカトリエン環をもつものの[3]
11/00	非環式不飽和炭化水素	13/28	・多環式炭化水素またはそれらの非環式炭化水素誘導体
11/02	・ ・ ・アルケン	注	
11/04	・ ・ ・エチレン	・非隣接二重結合を最大数有する縮合 6 員環のみからなる環系は 15/00 のグループに分類する。[3]	
11/06	・ ・ ・プロペン	13/32	・ ・ ・ ・縮合環をもつもの
11/08	・ ・ ・4 個の炭素原子を有するもの[5]	13/34	・ ・ ・ ・ ・4 個の炭素原子を含有するビスシクロ環系をもつもの
11/09	・ ・ ・ ・イソブテン[3]	13/36	・ ・ ・ ・ ・5 個の炭素原子を含有するビスシクロ環系をもつもの
11/10	・ ・ ・5 個の炭素原子を有するもの[5]	13/38	・ ・ ・ ・ ・6 個の炭素原子を含有するビスシクロ環系をもつもの
11/107	・ ・ ・6 個の炭素原子を有するもの[5]	13/39	・ ・ ・ ・ ・7 個の炭素原子を含有するビスシクロ環系をもつもの[3]
11/113	・ ・ ・ ・メチルペンテン[3]	13/40	・ ・ ・ ・ ・ ・ビスシクロヘプタン環構造をもつものの[3]
11/12	・ ・ ・アルカジエン	13/42	・ ・ ・ ・ ・ ・ビスシクロヘプテン環構造をもつものの[3]
11/14	・ ・ ・アレン	13/43	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・非環式不飽和炭化水素基により置換されているもの[3]
11/16	・ ・ ・4 個の炭素原子を有するもの	13/44	・ ・ ・ ・ ・8 個の炭素原子を含有するビスシクロ環系をもつもの
11/167	・ ・ ・ ・1, 3—ブタジエン[3]	13/45	・ ・ ・ ・ ・9 個の炭素原子を含有するビスシクロ環系をもつもの[3]
11/173	・ ・ ・5 個の炭素原子を有するもの[3]	13/465	・ ・ ・ ・ ・ ・インデン;完全または部分水素化さ
11/18	・ ・ ・ ・イソプレン[3]		
11/20	・ ・ ・ ・1, 3—ペンタジエン[3]		
11/21	・ ・ ・アルカトリエン;アルカテトラエン;他のアルカポリエン[2, 3]		
11/22	・炭素—炭素三重結合を含有するもの		
11/24	・ ・ ・アセチレン（湿式法によるアセチレンガスの製造 C10H）[5]		
11/28	・炭素—炭素二重結合と炭素—炭素三重結合とを含有するもの		
11/30	・ ・ ・ブテニン		
13/00	6 員芳香環以外の環を含有する環式炭化水素またはそれらの環と 6 員芳香環とを含有する環式炭化水素		

- れたインデン[3]
- 13/47 ・・・・10個の炭素原子を含有するビシクロ環系をもつもの[3]
- 13/48 ・・・・完全または部分水素化されたナフタレン[3]
- 13/50 ・・・・デカヒドロナフタレン[3]
- 13/52 ・・・・アズレン;完全または部分水素化されたアズレン[3]
- 13/54 ・・・・3個の縮合環を有するもの
- 13/547 ・・・・少なくとも1個の環は6員環でなく,他の環は高々6員環であるもの[3]
- 13/553 ・・・・インダセン;完全または部分水素化されたインダセン[3]
- 13/567 ・・・・フルオレン;完全または部分水素化されたフルオレン[3]
- 13/573 ・・・・3個の6員環をもつもの[3]
- 13/58 ・・・・完全または部分水素化されたアントラセン[3]
- 13/60 ・・・・完全または部分水素化されたフェナントレン[3]
- 13/605 ・・・・架橋環系をもつもの[3]
- 13/61 ・・・・架橋インデン, 例. ジシクロペントジエン[3]
- 13/615 ・・・・アダマンタン[3]
- 13/62 ・・・・4個以上の縮合環をもつもの
- 13/64 ・・・・架橋環系をもつもの[3]
- 13/66 ・・・・4個の環を含有する縮合環系[3]
- 13/68 ・・・・架橋環系をもつもの[3]
- 13/70 ・・・・少なくとも2個の互に縮合していない芳香環系が,その芳香環の非隣接位置において炭素鎖により形成された環構造で結合された縮合環系をもつもの, 例. シクロファン[3]
- 13/72 ・・・・スピロ炭化水素[3]
- 15/00 環部分として6員芳香環のみを含有する環式炭化水素[2]
- 15/02 ・単環式炭化水素
- 15/04 ・・・・ベンゼン
- 15/06 ・・・・トルエン
- 15/067 ・・・・C₈H₁₀炭化水素[3]
- 15/073 ・・・・エチルベンゼン[3]
- 15/08 ・・・・キシレン[3]
- 15/085 ・・・・イソプロピルベンゼン[3]
- 15/107 ・・・・少なくとも6個の炭素原子を含有する飽和側鎖をもつもの, 例. 洗剤アルキレート[3]
- 15/113 ・・・・各々少なくとも6個の炭素原子を含有する少なくとも2個の飽和側鎖をもつもの[3]
- 15/12 ・非縮合多環式炭化水素
- 15/14 ・・・・すべてのフェニル基が直接結合しているもの[3]
- 15/16 ・・・・1個の非環式炭素原子に結合する少な

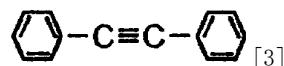
- くとも2個のフェニル基を含有するもの
- 15/18 ・・・・少なくとも1個の次式で示される基を



- 15/20 ・縮合多環炭化水素
- 15/24 ・・・・2個の環を含有するもの
- 15/27 ・・・・3個の環を含有するもの[3]
- 15/28 ・・・・アントラセン[3]
- 15/30 ・・・・フェナントレン[3]
- 15/38 ・・・・4個の環を含有するもの[3]
- 15/40 ・不飽和炭化水素基で置換されたもの[3]
- 15/42 ・・・・単環式のもの[3]
- 15/44 ・・・・炭素—炭素二重結合を含有する炭化水素置換基[3]
- 15/46 ・・・・スチレン;環がアルキル化されたスチレン[3]
- 15/48 ・・・・炭素—炭素三重結合を含有する炭化水素置換基[3]
- 15/50 ・・・・非縮合多環式のもの[3]
- 15/52 ・・・・次式で示される基を含有するもの



- 15/54 ・・・・次式で示される基を含有するもの



- 15/56 ・・・・縮合多環式のもの[3]
- 15/58 ・・・・2個の環を含有するもの[3]
- 15/60 ・・・・3個の環を含有するもの[3]
- 15/62 ・・・・4個の環を含有するもの[3]

炭素とハロゲンを含有し水素を有するかまたは有しない化合物

- 17/00 ハロゲン化された炭化水素の製造
- 17/007 ・炭素とハロゲン, または炭化物とハロゲンから[6]
- 17/013 ・ハロゲンの付加によるもの[6]
- 17/02 ・・・・不飽和炭化水素へ[6]
- 17/04 ・・・・ハロゲン化された不飽和炭化水素へ[6]
- 17/06 ・・・・水素のハロゲンによる置換と組み合わせたもの
- 17/07 ・ハロゲン化水素の付加によるもの[6]
- 17/08 ・・・・不飽和炭化水素へ[6]
- 17/087 ・・・・ハロゲン化された不飽和炭化水素へ[6]
- 17/093 ・ハロゲンによる置換によるもの[6]
- 17/10 ・・・・水素の(不飽和炭化水素へのハロゲンの付加と組み合わせたもの C07C17/06)[6]
- 17/12 ・・・・芳香族化合物の環における[6]
- 17/14 ・・・・芳香族化合物の側鎖における[6]

17/15	・補助剤として酸素を用いるもの, 例. オキシクロリネーション[2, 6]	19/04	・クロロホルム[6]
17/152	・炭化水素の[3, 6]	19/041	・四塩化炭素[6]
17/154	・飽和炭化水素の[3, 6]	19/043	・クロロエタン[6]
17/156	・不飽和炭化水素の[3, 6]	19/045	・ジクロロエタン[3, 6]
17/158	・ハロゲン化された炭化水素の[3, 6]	19/05	・トリクロロエタン[3, 6]
17/16	・水酸基の[3, 6]	19/055	・テトラクロロエタン[3, 6]
17/18	・カルボニル基の酸素の[6]	19/07	・ヨウ素を含有するもの[2]
17/20	・他のハロゲンによるハロゲンの[6]	19/075	・臭素を含有するもの[6]
17/21	・ハロゲンの原子数の増加を同時に伴うもの[6]	19/08	・フッ素を含有するもの
17/23	・脱ハロゲン化によるもの[6]	19/10	・さらに塩素を含有するもの[6]
17/25	・ハロゲン化された炭化水素からのハロゲン化水素の脱離によるもの[6]	19/12	・2 個の炭素原子を有するもの[6]
17/26	・炭素骨格中の炭素原子数の増加を伴う反応によるもの	19/14	・さらに臭素を含有するもの[6]
17/263	・縮合反応によるもの[6]	19/16	・さらにヨウ素を含有するもの[6]
17/266	・炭化水素とハロゲン化された炭化水素の[6]	21/00	ハロゲン原子を含有する非環式不飽和化合物[5]
17/269	・ハロゲン化された炭化水素のみの[6]	21/02	・炭素—炭素二重結合を含有するもの
17/272	・付加反応によるもの[6]	21/04	・クロロアルケン
17/275	・炭化水素とハロゲン化された炭化水素の[6]	21/06	・塩化ビニル
17/278	・ハロゲン化された炭化水素のみの[6]	21/067	・アリルクロライド; メタリルクロライド[3]
17/281	・一種の化合物のみの[6]	21/073	・ジクロロアルケン[3]
17/30	・ディールス—アルダー合成によるもの	21/08	・塩化ビニリデン[3]
17/32	・環状化合物へのハロゲン化されたアルキル基の導入によるもの	21/09	・ジクロロブテン[3]
17/35	・分子内の炭素またはハロゲン原子数の変化しない反応によるもの[6]	21/10	・トリクロロエチレン
17/354	・水素添加によるもの[6]	21/12	・テトラクロロエチレン
17/357	・脱水素によるもの[6]	21/14	・臭素を含有するもの
17/358	・異性化によるもの[6]	21/16	・臭化クロチル
17/361	・炭素原子数の減少を伴う反応によるもの[6]	21/17	・ヨウ素を含有するもの[5]
17/363	・カルボキシル基の脱離によるもの[6]	21/18	・フッ素を含有するもの
17/367	・解重合によるもの[6]	21/185	・テトラフルオロエチレン[5]
17/37	・ハロゲン化された炭化水素の不均化によるもの[6]	21/19	・ハロゲン化されたジエン[3]
17/38	・分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用	21/20	・ハロゲン化されたブタジエン[3]
17/383	・蒸留によるもの[6]	21/21	・クロロブレン[3]
17/386	・補助化合物を用いるもの[6]	21/215	・3 個以上の炭素—炭素二重結合を有するハロゲン化されたポリエン[3]
17/389	・固体への吸着によるもの[6]	21/22	・炭素—炭素三重結合を含有するもの
17/392	・結晶化によるもの; 結晶の精製または分離[6]	22/00	非環式炭素原子に結合しているハロゲン原子を含有する環式化合物[5]
17/395	・少なくとも 1 個の化合物の化学的变化をひき起す処理によるもの[6]	22/02	・環内に不飽和結合をもつもの[5]
17/42	・添加剤の使用, 例. 安定化のためのもの[3, 6]	22/04	・6 員芳香環を含有するもの[5]
19/00	ハロゲン原子を含有する非環式飽和化合物[5]	22/06	・トリクロロメチルベンゼン[5]
19/01	・塩素を含有するもの[6]	22/08	・フッ素を含有するもの[5]
19/03	・クロロメタン[6]	23/00	6 員芳香環以外の環に結合している少なくとも 1 個のハロゲン原子を含有する化合物
		23/02	・ハロゲン化された単環式炭化水素
		23/04	・3 員環をもつもの
		23/06	・4 員環をもつもの
		23/08	・5 員環をもつもの
		23/10	・6 員環をもつもの
		23/12	・ヘキサクロロシクロヘキサン
		23/14	・7 員環をもつもの
		23/16	・8 員環をもつもの

23/18	・ハロゲン化された多環式炭化水素	330	・C ₃ , 4 不飽和酸, エステル, アルデヒドの製造
23/20	・いづれの環も芳香族性を有しない縮合環系を有するもの	340	・酸素のみによる酸化によるもの
23/22	・・・4 個の炭素原子を含有するビシクロ環系をもつもの	350	・酸素以外の酸化剤によるもの (例. O ₂ +他の酸化剤, O ₃)
23/24	・・・5 個の炭素原子を含有するビシクロ環系をもつもの	27/02	・有機酸エステルのケン化
23/26	・・・6 個の炭素原子を含有するビシクロ環系をもつもの	27/04	・酸素を含む化合物の還元によるもの (C07C29/14 が優先)
23/27	・・・7 個の炭素原子を含有するビシクロ環系をもつもの [5]	27/06	・炭素の酸化物の水素添加によるもの
23/28	・・・飽和ビシクロ環系 [5]	27/08	・・・移動触媒を用いるもの
23/30	・・・単不飽和ビシクロ環系 [5]	27/10	・炭化水素の酸化によるもの
23/32	・・・8 個の炭素原子を含有するビシクロ環系をもつもの	27/12	・・酸素を用いるもの
23/34	・・・ハロゲン化された完全または部分水素化されたインデン	300	・・・汎用性のあるもの
23/36	・・・ハロゲン化された完全または部分水素化されたナフタレン	310	・・・(シクロ) アルカンの酸化
23/38	・・・3 個の縮合環をもつもの	320	・・・・ホウ素化合物存在下に酸化をおこなうもの
23/40	・・・・ハロゲン化された完全または部分水素化されたフルオレン	330	・・・(シクロ) オレフィンの酸化
23/42	・・・・ハロゲン化された完全または部分水素化されたアントラセン	340	・・・芳香環のアルキル側鎖の酸化 (アルケニル側鎖の酸化→330)
23/44	・・・・ハロゲン化された完全または部分水素化されたフェナントレン	350	・・・クメン法 (ヒドロペルオキシド経由のフェノールとケトンの同時製法)
23/46	・・・4 個以上の縮合環を有するもの	27/14	・・・完全ガス状反応
25/00	6 員芳香環に結合している少なくとも 1 個のハロゲン原子を含有する化合物	A	C ₃ , 4 オレフィンの酸化
25/02	・ハロゲン化された単環式芳香族炭化水素	Z	その他のもの
25/06	・・モノクロロベンゼン [3]	27/16	・・他の酸化剤を用いるもの
25/08	・・ジクロロベンゼン [3]	27/18	・アルキンをアルデヒド, ケトンまたはアルキレンオキシドに付加することによるもの
25/10	・・トリクロロベンゼン [3]	27/20	・オキシ反応によるもの
25/12	・・ヘキサクロロベンゼン [3]	27/22	・・このプロセスに特有の触媒を用いるもの
25/125	・・ハロゲン化されたキシレン [2, 3]	27/24	・・移動触媒を用いるもの
25/13	・・フッ素を含有するもの [2, 3]	27/26	・精製; 分離; 安定化
25/18	・ハロゲン化された多環式芳香族炭化水素	27/28	・・蒸留によるもの
25/20	・・ジクロロジフェニルトリクロロエタン (DDT)	27/30	・・・共沸蒸留によるもの
25/22	・・縮合環をもつもの	27/32	・・・抽出蒸留によるもの
25/24	・不飽和側鎖をもつハロゲン化された芳香族炭化水素	27/34	・・抽出によるもの
25/28	・・ハロゲン化されたスチレン [3]	29/00	6 員芳香環に属していない炭素原子に結合している水酸基または O—金属基をもつ化合物の製造

炭素および酸素を含有し水素またはハロゲンを有するかまたは有しない化合物 [2]

27/00	2 クラス以上の酸素を含む化合物を同時に製造することから成るプロセス	29/03	・不飽和炭素—炭素結合に水酸基を付加することによるもの, 例. H ₂ O ₂ を用いるもの [3]
310	・(ヒドロ) ペルオキシドの分解	29/04	・・炭素—炭素二重結合の水和によるもの
320	・CO 含有ガス [例. CO+H ₂ , CO+O ₂] との反応によるもの	29/05	・・・鉍酸中で吸収生成物を形成しそれを加水分解することによるもの [3]
		29/06	・・・酸が硫酸であるもの [3]
		29/08	・・・酸がリン酸であるもの [3]
		29/09	・加水分解によるもの (有機酸エステルの加水分解 C07C27/02) [3]
		29/10	・・エーテル (環状エーテルを含む) の, 例. オキシラン
		29/12	・・鉍酸エステルの [3]

29/124 ・・・・ハロゲン化物の[3]
 29/128 ・アルコール分解によるもの（有機酸エス
 テルのアルコール分解 C07C27/02）[3]
 29/132 ・酸素含有官能基の還元によるもの[3]
 29/136 ・・>C=O 含有基の, 例. -COOH[3]
 29/14 ・・・・-CHO 基の[3]
 29/141 ・・・・水素または水素含有ガスによるも
 の[5]
 29/143 ・・・・ケトンの[5]
 29/145 ・・・・水素または水素含有ガスによるも
 の[5]
 29/147 ・・・・カルボン酸またその誘導体の[5]
 29/149 ・・・・水素または水素含有ガスによるも
 の[5]
 29/15 ・炭素の酸化物の還元のみによるもの[3]
 29/151 ・・水素または水素含有ガスによるもの[5]
 29/152 ・・・・用いられる反応器に特徴のあるもの
 [5]
 29/153 ・・・・用いられる触媒に特徴のあるもの[5]
 29/154 ・・・・銅, 銀, 金またはその化合物を含有
 するもの[5]
 29/156 ・・・・鉄族金属, 白金族金属またはその化
 合物を含有するもの[5]
 29/157 ・・・・白金族金属またはその化合物を
 含有するもの[5]
 29/158 ・・・・ロジウムまたはその化合物を
 含有するもの[5]
 29/159 ・・水素または水素含有ガス以外の還元剤
 によるもの[5]
 29/16 ・還元と組み合わせたオキシ反応によるも
 の
 29/17 ・炭素—炭素二重結合または三重結合の水
 素添加によるもの[3]
 29/19 ・・6 員芳香環における[3]
 29/20 ・・・・水酸基が置換している非縮合環にお
 ける[3]
 29/32 ・OH 基の生成を伴わない炭素原子数の増加
 する反応によるもの[3]
 29/34 ・・水酸基またはその鉱酸エステルの関与
 する縮合反応によるもの, 例. Guerbet 反
 応[3]
 29/36 ・水酸基の生成を伴う炭素原子数の増加す
 る反応によるもの。水酸基の誘導体, 例. O
 —金属基, を中間体として経由する場合
 も含む[3]
 29/38 ・・アルデヒドまたはケトンとの反応によ
 るもの[3]
 29/40 ・・・・炭素—金属結合を含有する化合物と
 のもの[3]
 29/42 ・・・・炭素—炭素三重結合を含有する化合
 物とのもの, 例. 金属アルキンとのもの
 [3]
 29/44 ・付加反応により炭素原子数が増加するも

の, 例. 少なくとも 1 つの炭素—炭素二重
 結合または三重結合が関与する反応
 (C07C29/16 が優先) [3]

29/46 ・・ジエン合成によるもの[3]
 29/48 ・水酸基の形成を伴う酸化反応によるもの
 [3]
 29/50 ・・分子状酸素のみを用いるもの[3]
 29/52 ・・・・無機ホウ素化合物の存在下, 必要に応
 じて形成された中間体の加水分解を伴う
 もの[3]
 29/54 ・・・・炭素—金属結合を含有する化合物を
 原料とし, O—金属を水酸基に変換するも
 の[3]
 29/56 ・異性化によるもの[3]
 A オキシラン環→不飽和アルコール
 B 2 重結合の移動
 C

CIS

CIS \rightleftharpoons TRANS _{TR}

ANS

Z その他

29/58 ・ハロゲンの脱離によるもの, 例. 水素化分
 解, 離脱によるもの (C07C29/124 が優先)
 [3]
 29/60 ・水酸基の脱離によるもの, 例. 脱水による
 もの (C07C29/34 が優先) [3]
 29/62 ・ハロゲンの導入によるもの; ハロゲン原子
 を他のハロゲン原子で置換するもの[3]
 29/64 ・水酸基とハロゲンを同時に導入するもの
 [3]
 29/66 ・・次亜ハロゲン酸（その場で形成される
 場合も含む）の炭素—炭素不飽和結合へ
 の付加によるもの[3]
 29/68 ・金属アルコラートの製造
 (C07C29/42, C07C29/54 が優先) [3]
 29/70 ・・水酸基を O—金属基に変換すること
 によるもの[3]
 29/72 ・・炭素—金属結合の酸化によるもの[3]
 29/74 ・分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[3]
 29/76 ・・物理的处理によるもの[3]
 29/78 ・・・・凝縮または結晶化によるもの[3]
 29/80 ・・・・蒸留によるもの[3]
 29/82 ・・・・共沸蒸留によるもの[3]
 29/84 ・・・・抽出蒸留によるもの[3]
 29/86 ・・・・液—液処理によるもの[3]
 29/88 ・・少なくとも 1 つの化合物の化学的変性
 をひきおこす処理によるもの[3]
 29/90 ・・・・水素のみを使用するもの[3]
 29/92 ・・・・連続的変換および再生によるもの[3]
 29/94 ・・添加剤の使用, 例. 安定化のためのもの
 [3]

31/00	非環式炭素原子に結合した水酸基または 0—金属基をもつ飽和化合物	33/04	・炭素—炭素三重結合を有する非環式アルコール
31/02	・非環式一価アルコール	33/042	・・1 個の三重結合を有するもの[3]
31/04	・・メタノール	33/044	・・・アルキンジオール[3]
31/08	・・エタノール	33/046	・・・・ブチンジオール[3]
31/10	・・3 個の炭素原子を含有するもの	33/048	・・二重結合および三重結合を有するもの[3]
31/12	・・4 個の炭素原子を含有するもの	33/05	・6 員芳香環以外の環を含有するアルコール[2]
31/125	・・5 ないし 22 個の炭素原子を含有するものの[3]	A	単環式のもの [5 員環以上→33/12-33/16]
31/13	・飽和環を含有する一価アルコール[2, 3]	B	縮合環系
31/133	・・単環式のもの[3]	C	・2 環
31/135	・・・5 または 6 員環を有するもの; ナフテンアルコール[3]	D	・・[2, 2, 1]系
31/137	・・縮合環系を有する多環式のもの[3]	E	・3 環
31/18	・非環式多価アルコール	Z	その他
A	5 価アルコール [例、キシリット]	33/12	・・5 員環を含有するもの[3]
Z	その他のもの	33/14	・・6 員環を含有するもの[3]
31/20	・・二価アルコール	33/16	・・7 員環以上の環を含有するもの[3]
A	エチレングリコール	33/18	・環部分として 6 員芳香環のみを含有する一価アルコール[3]
B	ブタンジオール [1, 4—; 1, 3—; 1, 2—; 2, 3—]	33/20	・・単環式のもの[3]
Z	その他のもの	33/22	・・・ベンジルアルコール; フェニルエチルアルコール[3]
31/22	・・三価アルコール, 例. グリセリン[3]	33/24	・・縮合環系を有しない多環式のもの[3]
31/24	・・四価アルコール, 例. ペンタエリスリトール[3]	33/26	・環部分として 6 員芳香環のみを含有する多価アルコール[3]
31/26	・・六価アルコール	33/28	・環部分として 6 員芳香環のみを含有し, 芳香環以外に不飽和結合を有するアルコール[3]
31/27	・飽和環を含有する多価アルコール[3]	33/30	・・単環式のもの[3]
31/28	・金属アルコラート	33/32	・・・桂皮アルコール[3]
31/30	・・アルカリ金属またはアルカリ土類金属アルコラート	33/34	・6 員芳香環および他の環を含有する一価アルコール[3]
31/32	・・アルミニウムアルコラート	A	非縮合環のみからなるもの
31/34	・ハロゲン化アルコール	B	縮合環をもつもの
31/36	・・フッ素以外のハロゲン[3]	Z	その他
31/38	・・ハロゲンとしてフッ素のみを含有するものの[3]	33/36	・6 員芳香環および他の環を含有する多価アルコール[3]
31/40	・・パーハロゲン化されたもの[3]	33/38	・6 員芳香環および他の環を含有し, 芳香環以外に不飽和結合をもつアルコール[3]
31/42	・・ハロゲン化された非環式多価アルコール[3]	33/40	・ハロゲン化されている不飽和アルコール[3]
31/44	・・飽和環を含有するハロゲン化アルコール[3]	33/42	・・非環式のもの[3]
33/00	非環式炭素原子に結合する水酸基または 0—金属基をもつ不飽和化合物	33/44	・・6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
注		33/46	・・環部分として 6 員芳香環のみを含有するもの[3]
このグループにおいては, 6 員芳香環およびその他の環からなる縮合環系においては, ベンゼン環の二重結合は縮合している非芳香環の不飽和結合とはみなさない。例. 1, 2, 3, 4—テトラヒドロナフタレン環は芳香環以外が飽和であるとみなす。[3]		33/48	・・・芳香環以外に不飽和結合を有するものの[3]
33/02	・炭素—炭素二重結合を有する非環式アルコール	33/50	・・6 員芳香環および他の環を含有するものの[3]
33/025	・・ただ 1 個の二重結合を有するもの[3]	35/00	6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合している少なくとも 1 個の水酸基または 0—金属基をもつ化合物[2]
33/03	・・・β—位に有するもの, 例. アリルアルコール, メタリルアルコール[3]		
33/035	・・・アルケンジオール[3]		

- 35/02 ・単環式のもの
- 35/04 ・・3 または 4 員環を含有するもの
- 35/06 ・・5 員環を含有するもの
- 35/08 ・・6 員環を含有するもの
- 35/12 ・・・メントール
- 35/14 ・・・環に結合している 2 個以上の水酸基を有するもの
- 35/16 ・・・・イノシトール
- 35/17 ・・・環以外にのみ不飽和結合を有するもの[3]
- 35/18 ・・・環に少なくとも不飽和結合を有するもの[3]
- 35/20 ・・7 または 8 員環を有するもの
- 35/205 ・・9-12 員環を含有するもの, 例. シクロデカノール[3]
- 35/21 ・多環式のもの, 非縮合環に結合している少なくとも 1 つの水酸基をもつもの[2]
- 35/22 ・多環式のもの, 縮合環系に結合している少なくとも 1 つの水酸基をもつもの[2]
- 35/23 ・・2 個の環をもつ縮合環系に水酸基を有するもの[3]
- 35/24 ・・・5 個の炭素原子を含有する縮合環系のもの[3]
- 35/26 ・・・・ピシクロペンタジエノール[3]
- 35/27 ・・・6 個の炭素原子を含有する縮合環系のもの[3]
- 35/28 ・・・7 個の炭素原子を含有する縮合環系のもの[3]
- 35/29 ・・・・[2.2.1] 系[3]
- 35/30 ・・・・ボルネオール; イソボルネオール[3]
- 35/31 ・・・8 個の炭素原子を含有する縮合環系のもの[3]
- 35/32 ・・・[4.3.0] 系の縮合環系のもの, 例. インデノール[3]
- 35/34 ・・・[5.3.0] 系の縮合環系のもの, 例. アズレノール[3]
- 35/36 ・・・[4.4.0] 系の縮合環系のもの, 例. 水素化されたナフトール[3]
- 35/37 ・・3 個の環をもつ縮合環系に水酸基を有するもの[3]
- 35/38 ・・・フルオレン骨格から誘導されるもの[3]
- 35/40 ・・・アントラセン骨格から誘導されるもの[3]
- 35/42 ・・・フェナントレン骨格から誘導されるもの[3]
- 35/44 ・・4 個以上の環をもつ縮合環系に水酸基を有するもの
- 35/46 ・環に結合した水酸基の 0—金属誘導体[3]
- 35/48 ・ハロゲン化された誘導体[3]
- 35/50 ・・少なくとも 2 個の環を有するアルコール[3]
- 35/52 ・・縮合環系を有するアルコール[3]
- 37/00 6 員芳香環の炭素原子に結合している水酸基または 0—金属基をもつ化合物の製造
- 37/01 ・6 員芳香環に結合している官能基を水酸基によって置換することによるもの, 例. 加水分解によるもの[3]
- 37/02 ・・ハロゲンの置換によるもの[3]
- 37/04 ・・SO₃H 基またはその誘導体の置換によるもの[3]
- 37/045 ・・環に結合した窒素をもつ基の置換によるもの[3]
- 37/05 ・・・NH₂ 基の置換によるもの[3]
- 37/055 ・・環に結合した酸素をもつ基, 例. エーテル基の置換によるもの[3]
- 37/06 ・非芳香族 6 員環の転換によるものまたはその場で芳香族 6 員環を生成する環の転換によるもの, 例. 脱水素反応
- 37/07 ・・同時に環における C=O 基の還元を伴うもの[3]
- 37/08 ・ヒドロパーオキシライドの分解によるもの, 例. クメンヒドロパーオキシライド
- 37/11 ・炭素原子数の増加する反応によるもの[3]
- 37/14 ・・付加反応によるもの, すなわち, 少なくとも 1 個の炭素—炭素不飽和結合が関与する反応[3]
- 37/16 ・・フェノールまたはアルコールの水酸基またはそれらから誘導されるエーテルまたは鉱酸エステル基が関与する縮合反応によるもの[3]
- 37/18 ・・ハロゲン化された化合物のハロゲン原子が関与する縮合反応によるもの
- 37/20 ・・アルデヒドまたはケトンを用いるもの
- 37/48 ・置換されていてもよい炭化水素基と他の化合物との交換によるもの, 例. トランスアルキル化反応[3]
- 37/50 ・炭素原子数の減少する反応によるもの (C07C37/01, C07C37/08, C07C37/48 が優先) [3]
- 37/52 ・・多環式芳香族化合物の開裂によるもの, 例. ポリフェノールアルカン[3]
- 37/54 ・・・リグニンまたは亜硫酸塩廃液の加水分解によるもの[3]
- 37/56 ・・カルボキシル基またはアルデヒド基を水酸基によって置換することによるもの[3]
- 37/58 ・分子状酸素を用いて 6 員芳香環の CH 基に直接水酸基を導入する酸化反応によるもの[3]
- 37/60 ・分子状酸素以外の酸化剤またはそれらと分子状酸素との混合物を用いて 6 員芳香環の CH 基に直接水酸基を導入する酸化反応によるもの[3]
- 37/62 ・ハロゲンの導入によるもの; ハロゲン原子

	を他のハロゲン原子によって置換することによるもの[3]	39/18	・芳香環以外に不飽和結合を有する単環式のもの
37/64	・6員芳香環の炭素原子に結合するO—金属基を有するO—金属化合物の製造[3]	39/19	・炭素—炭素二重結合を含有するが炭素—炭素三重結合は含有しないもの[3]
37/66	・水酸基のO—金属基への転換によるもの[3]	39/20	・ヒドロキシシスチレン[3]
37/68	・分離;精製;安定化;添加剤の使用[3]	39/205	・環部分として6員芳香環のみを含有し、環以外に不飽和結合を有する多環式のもの[3]
37/70	・物理的処理によるもの[3]	39/21	・少なくとも1個の水酸基を非縮合環に有するもの[3]
37/72	・液—液処理によるもの[3]		
37/74	・蒸留によるもの[3]		
37/76	・水蒸気蒸留によるもの[3]		
37/78	・共沸蒸留によるもの[3]		
37/80	・抽出蒸留によるもの[3]		
37/82	・固—液処理によるもの;化学吸着によるもの[3]	39/215	<div> $\text{HO}-\text{C}_6\text{H}_4-\text{C}(\text{I})=\text{C}(\text{I})-\text{C}_6\text{H}_4-\text{OH}$ </div> <p>構造を含有するもの, 例. ジエチルスチルベストロール[3]</p>
37/84	・結晶化によるもの[3]	39/225	・少なくとも1個の水酸基を縮合環系に有するもの[3]
37/86	・化学的変性をひきおこす処理によるもの(化学吸着C07C37/82)[3]	39/23	・6員芳香環および他の環を含有し、芳香環以外に不飽和結合を有する多環式のもの[3]
37/88	・添加剤の使用, 例. 安定化のためのもの[3]	39/235	・6員芳香環に結合している水酸基の金属誘導体[3]
39/00	6員芳香環の炭素原子に結合している少なくとも1個の水酸基またはO—金属基をもつ化合物	39/24	・ハロゲン誘導体
注		39/26	・環の炭素原子に結合しているハロゲンを含有する単環式で1個の水酸基を有するもの
このグループにおいては、6員芳香環と他の環との縮合環系においては、ベンゼン環の二重結合はベンゼン環に縮合する非芳香環の不飽和結合とはみなさない。[3]		39/27	・すべてのハロゲン原子が環についているもの
39/02	・芳香環以外に不飽和結合を有しない単環式のもの	39/28	・ハロゲンが1個の塩素原子であるもの
39/04	・フェノール	39/30	・ハロゲンが2個の塩素原子であるもの
39/06	・アルキル化フェノール	39/32	・ハロゲンが3個の塩素原子であるもの
39/07	・アルキル基としてメチル基のみを含有するもの, 例. クレゾール, キシレノール[3]	39/34	・ハロゲンが4個の塩素原子であるもの
39/08	・ジヒドロキシベンゼン;それらのアルキル誘導体	39/36	・ペンタクロロフェノール
39/10	・ポリヒドロキシベンゼン;それらのアルキル誘導体 (C07C39/08が優先)	39/367	・6員芳香環のみを含有する多環式, 非縮合のもの, 例. ハロゲン化ポリ(ヒドロキシフェニル) アルカン[3]
39/11	・非環式的に結合している水酸基を含有するアルキル化ヒドロキシベンゼン, 例. サリゲノール[3]	39/373	・すべての水酸基を非縮合環に有し、芳香環以外に不飽和結合を有するもの[3]
39/12	・芳香環以外に不飽和結合を有しない多環式のもの	39/38	・少なくとも1個の水酸基を、2個の環を含有する縮合環系に有するもの
39/14	・少なくとも1個の水酸基を、2個の環を含有する1個の縮合環系に有するもの[3]	39/40	・少なくとも1個の水酸基を、3個以上の環を含有する縮合環系に有するもの[3]
39/15	・すべての水酸基を非縮合環に有するもの[3]	39/42	・6員芳香環および他の環を含有するもの[3]
39/16	・ビス(ヒドロキシフェニル) アルカン;トリス(ヒドロキシフェニル) アルカン[3]	39/44	・6員芳香環の炭素原子に結合している水酸基の金属誘導体[3]
39/17	・6員芳香環とともに他の環を含有するもの[2]	41/00	エーテルの製造; <div> $\text{>C} \begin{array}{l} \text{O-} \\ \text{O-} \end{array} \text{C}$ </div>

	$\begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ -\text{C} < \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ $\begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{C} < \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$
	基, 基または
	基をもつ化合物の製造[3]
41/01	・ エーテルの製造[3]
41/02	・ ・ オキシランからのもの[3]
41/03	・ ・ ・ オキシラン環と水酸基との反応によるもの[3]
41/05	・ ・ 不飽和化合物への化合物の付加によるもの[3]
41/06	・ ・ ・ 有機化合物のみの付加によるもの[3]
41/08	・ ・ ・ ・ 炭素—炭素三重結合への[3]
41/09	・ ・ 水酸基を含有する化合物の脱水によるもの[3]
41/14	・ ・ エーテル基の酸素原子に結合する有機基を他の有機基によって交換することによるもの, 例. トランスエーテル化によるもの[3]
41/16	・ ・ 鉱酸または有機酸のエステルと水酸基またはO—金属基との反応によるもの[3]
41/18	・ ・ エーテル基の酸素結合を生成しない反応によるもの[3]
41/20	・ ・ ・ 炭素—炭素二重結合または三重結合の水素化によるもの[3]
41/22	・ ・ ・ ハロゲンの導入によるもの; ハロゲン原子を他のハロゲン原子によって置換することによるもの[3]
41/24	・ ・ ・ ハロゲンの脱離によるもの, 例. HClの脱離[3]
41/26	・ ・ ・ 水酸基または O—金属基の導入によるもの[3]
41/28	・ ・ ・ アセタールからのもの, 例. 脱アルコール分解によるもの[3]
41/30	・ ・ ・ 炭素原子数の増加によるもの, 例. オリゴマー化によるもの[3]
41/32	・ ・ 異性化によるもの[3]
41/34	・ ・ 分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[3]
41/36	・ ・ ・ 固—液処理によるもの; 化学吸着によるもの[3]
41/38	・ ・ ・ 液—液処理によるもの[3]
41/40	・ ・ ・ 物理的状态の変化によるもの, 例. 結晶化によるもの[3]
41/42	・ ・ ・ ・ 蒸留によるもの[3]
41/44	・ ・ ・ 化学的変性をひきおこす処理によるもの (化学吸着によるもの C07C41/36) [3]
41/46	・ ・ ・ 添加剤の使用, 例. 安定化のためのもの[3]
41/48	$>\text{C} < \begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ $\begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{C} < \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ 基をもつ化合物の製造[3]

41/50	$>\text{C} < \begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ $\begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{C} < \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ 基を生成する反応によるもの[3]
41/52	・ ・ ・ ハロゲンのみの置換によるもの[3]
41/54	・ ・ ・ 不飽和炭素—炭素結合への化合物の付加によるもの[3]
41/56	・ ・ ・ アルデヒド, パラホルムアルデヒド, またはケトンの縮合によるもの[3]
41/58	・ ・ 分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[3]
41/60	$-\text{C} < \begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ $\begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{C} < \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ 基または 基をもつ化合物の製造[3]
43/00	エーテル; $>\text{C} < \begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ 基, $-\text{C} < \begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ 基または $\begin{array}{c} \text{O}^- \\ \\ \text{C} < \text{O}^- \\ \\ \text{O}^- \end{array}$ 基をもつ化合物
43/02	・ エーテル
43/03	・ ・ すべてのエーテル基の酸素原子が非環式炭素原子に結合しているもの[3]
43/04	・ ・ ・ 飽和エーテル[3]
A	製法に特徴を有するもの
B	触媒に特徴を有するもの
C	化合物
D	CH ₃ OCH ₃ 及びその製法
E	CH ₃ OC(CH ₃) ₃ 及びその製法
Z	その他
43/06	・ ・ ・ ・ ジエチルエーテル[3]
43/10	・ ・ ・ ・ ポリヒドロキシ化合物の[3]
43/11	・ ・ ・ ・ 2 ≤ n ≤ 10 の—O— (C—C—O—) n 単位を含有するポリエーテル[2, 3]
43/115	・ ・ ・ ・ 炭素環を含有するもの[3]
43/12	・ ・ ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
43/13	・ ・ ・ ・ 水酸基または O—金属基を含有するもの (C07C43/11 が優先) [3]
A	製法に特徴を有するもの
B	触媒に特徴を有するもの
C	化合物
D	ポリオール化合物
Z	その他
43/14	・ ・ ・ 不飽和エーテル[3]
43/15	・ ・ ・ ・ 非芳香族炭素—炭素二重結合のみを含有するもの[3]
43/16	・ ・ ・ ・ ・ ビニルエーテル[3]
43/162	・ ・ ・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]

- 43/164 6 員芳香環を含有するもの[3]
 43/166 芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
 43/168 6 員芳香環および他の環を含有するもの[3]
 43/17 ハロゲン含有するもの[2, 3]
 43/172 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
 43/174 6 員芳香環を含有するもの[3]
 43/176 芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
 43/178 水酸基または O—金属基を含有するもの[3]
 A 製法に特徴を有するもの
 B 触媒に特徴を有するもの
 C 化合物
 D ポリオール化合物
 Z その他
 43/18 . . エーテル基の酸素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの
 A 製法に特徴を有するもの
 B 触媒に特徴を有するもの
 C 化合物
 Z その他
 43/184 . . . 非縮合環の炭素原子に結合しているもの[3]
 43/188 . . . 不飽和エーテル[3]
 43/192 . . . ハロゲン含有するもの[3]
 43/196 . . . 水酸基または O—金属基を含有するもの[3]
 43/20 . . エーテル基の酸素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの
 A 製法に特徴を有するもの
 B 触媒に特徴を有するもの
 C 化合物
 D 縮合環含有化合物
 Z その他
 43/205 . . . 芳香環が非縮合環であるもの[3]
 A 製法に特徴を有するもの
 B 触媒に特徴を有するもの
 C 化合物
 D ビフェニル基含有化合物
 Z その他
 43/21 . . . 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
 43/215 . . . 6 員芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
 43/225 . . . ハロゲン含有するもの[3]
 A 製法に特徴を有するもの
 B 触媒に特徴を有するもの
 C 化合物
 D ビフェニル基含有化合物
 Z その他
 43/23 . . . 水酸基または O—金属基を含有するもの[3]
 A 製法に特徴を有するもの
 B 触媒に特徴を有するもの
 C 化合物
 D ポリオール化合物
 E ハロゲン含有化合物
 F ビスフェノール A0 付加物誘導体及びその製法
 G 2, 3, 5—置換ヒドロキノン誘導体及びその製法
 Z その他
 43/235 . . エーテル基の酸素原子が 6 員芳香環の炭素原子および 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[3]
 43/243 . . . 6 員芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
 43/247 . . . ハロゲン含有するもの[3]
 43/253 . . . 水酸基または O—金属基を含有するもの[3]
 43/257 . . エーテル基の酸素原子がともに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[3]
 A 製法に特徴を有するもの
 B 触媒に特徴を有するもの
 C 化合物
 D Ar—O—Ar 以外のエーテル基含有化合物
 Z その他
 43/263 . . . 芳香環が非縮合環であるもの[3]
 43/267 . . . 他の環を含有するもの[3]
 43/275 . . . すべてのエーテル基の酸素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[3]
 43/285 . . . 6 員芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
 43/29 . . . ハロゲン含有するもの[3]
 A 製法に特徴を有するもの
 B 触媒に特徴を有するもの
 C 化合物
 D Ar—O—Ar 以外のエーテル基含有化合物
 Z その他
 43/295 . . . 水酸基または O—金属基を含有するもの[3]
 A 製法に特徴を有するもの
 B 触媒に特徴を有するもの
 C 化合物
 D Ar—O—Ar 以外のエーテル基含有化合物
 Z その他

43/30 . $\text{>C} \begin{smallmatrix} \text{O} \\ \text{O} \end{smallmatrix} \text{—C}$ 基をもつ化合物

注

・アセタールの炭素原子は $\text{>C} \begin{smallmatrix} \text{O} \\ \text{O} \end{smallmatrix} \text{—C}$ 基の炭素原子であ

る[3]		の[3]
43/303	・アセタールの炭素原子が非環式炭素原子に結合しているもの[3]	45/45 縮合によるもの[3]
43/305	・アセタールの炭素原子が環を構成しているかまたは6員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[3]	45/46 ・フリーデル・クラフツ反応によるもの[3]
43/307	・アセタールの炭素原子が6員芳香環に結合しているもの[3]	45/47 ・ホスゲンを用いるもの[3]
43/313	・ハロゲンを含有するもの[3]	45/48 ・脱カルボキシル反応の関与するもの[3]
43/315	・アセタールの炭素原子以外の炭素原子に単結合している酸素原子を含有するもの[3]	45/49 ・一酸化炭素との反応によるもの[3]
		45/50 ・オキソ反応によるもの[3]
		45/51 ・熱分解, 転位または分解によるもの[3]
		45/52 ・同一分子中の2つの水酸基の関与する脱水および転位反応によるもの[3]
		45/53 ・ヒドロパーオキシドの[3]
43/317	・ $\begin{array}{c} \text{O-X} \\ \diagup \text{C} \diagdown \\ \text{O-C} \end{array}$ 基をもつもの, ただし X は水素または金属[3]	45/54 ・二重結合している酸素原子を含有する化合物の, 例. エステル[3]
		45/55 ・オキソ化合物のオリゴマーまたはポリマーの[3]
		45/56 ・複素環式化合物からのもの (C07C45/55 が優先) [3]
43/32	・ $\begin{array}{c} \text{O-} \\ \diagup \text{C} \diagdown \\ \text{O-C} \end{array}$ 基または $\begin{array}{c} \text{O-} \\ \diagup \text{C} \diagdown \\ \text{O-C} \end{array}$ 基をもつ化合物	45/57 ・異種原子として酸素原子を有するもの[3]
45/00	炭素原子または水素原子のみに結合している >C=O 基をもつ化合物の製造; それらの化合物のキレート製造[2]	45/58 ・3員環の[3]
45/26	・炭素—炭素三重結合の水和によるもの[3]	45/59 ・5員環の (オゾナイドからのもの C07C45/40) [3]
45/27	・酸化によるもの[3]	45/60 ・6員環の[3]
45/28	・CHx 部分の[3]	45/61 ・ >C=O 基の生成を伴わない反応によるもの[3]
45/29	・水酸基の[3]	45/62 ・炭素—炭素二重結合または三重結合の水素化によるもの[3]
45/30	・ハロゲン含有化合物を用いるもの, 例. ハイポハロゲネーション (hypohalogenation) [3]	45/63 ・ハロゲンの導入によるもの; ハロゲン原子を他のハロゲン原子によって置換することによるもの[3]
45/31	・水銀原子を含有する化合物を用いるもの。その化合物は, たとえば酸素によってその場で再生されたものでもよい[3]	45/64 ・単結合の酸素原子を含有する官能基の導入によるもの[3]
45/32	・分子状酸素を用いるもの[3]	45/65 ・水素原子または官能基の離脱によるもの; 官能基の水添分解によるもの[3]
45/33	・CHx 部分の[3]	45/66 ・脱水反応によるもの[3]
45/34	・不飽和化合物における[3]	45/67 ・異性化によるもの; 炭素骨格の大きさを変化させることによるもの[3]
45/35	・プロペンまたはイソブテンにおける[3]	45/68 ・炭素数の増加によるもの[3]
45/36	・6員芳香環を含有する化合物における[3]	45/69 ・炭素—炭素二重結合または三重結合への付加によるもの[3]
		45/70 ・単結合の酸素原子を含有する官能基との反応によるもの[3]
45/37	・ $\begin{array}{c} \text{O-} \\ \diagup \text{C} \diagdown \\ \text{O-} \end{array}$ 基の >C=O 基への[3]	45/71 ・水酸基であるもの[3]
45/38	・第一級水酸基の[3]	45/72 ・ >C=O 基を含有する化合物と >C=O 基を含有する同一または他の化合物との反応によるもの[3]
45/39	・第二級水酸基の[3]	45/73 ・水素化と組み合わせたもの[3]
45/40	・オゾンによる酸化によるもの; オゾン分解によるもの[3]	45/74 ・脱水と組み合わせたもの[3]
45/41	・カルボキシル基またはその官能基の誘導体の水添分解または還元によるもの[3]	45/75 ・ホルムアルデヒドとの反応[3]
45/42	・加水分解によるもの[3]	45/76 ・ケテンを用いるもの[3]
45/43	・ >CX_2 の, X はハロゲン[3]	45/77 ・アルデヒドのキレートまたはケトンのキレートの製造[3]
45/44	・ニトリルの還元および加水分解によるもの[3]	

45/78 ・分離;精製;安定化;添加剤の使用[3]
 45/79 ・固一液処理によるもの;化学吸着によるもの[3]
 45/80 ・液一液処理によるもの[3]
 45/81 ・物理的状態の変化によるもの, 例. 結晶化[3]
 45/82 ・蒸留によるもの[3]
 45/83 ・抽出蒸留によるもの[3]
 45/84 ・共沸蒸留によるもの[3]
 45/85 ・化学的変性を引き起こす処理によるもの[3]
 45/86 ・添加剤の使用, 例. 安定化のためのもの[3]
 45/87 ・ケテンまたはケテン二量体の製造[3]
 45/88 ・ケトンからのもの[3]
 45/89 ・カルボン酸, その酸無水物, エステルまたは酸ハロゲン化物からのもの[3]
 45/90 ・分離;精製;安定化;添加剤の使用[3]
 46/00 キノンの製造[3]
 46/02 ・キノン構造を生成する酸化反応によるもの[3]
 46/04 ・6 員芳香環の置換していない環炭素原子の[3]
 46/06 ・6 員芳香環上の少なくとも 1 個の水酸基の[3]
 46/08 ・分子状酸素を用いるもの[3]
 46/10 ・分離;精製;安定化;添加剤の使用[3]
 47/00 —CHO 基をもつ化合物
 47/02 ・非環式炭素原子または水素に結合している—CHO 基をもつ飽和化合物
 47/04 ・ホルムアルデヒド
 47/042 ・一酸化炭素からの製造[3]
 47/045 ・解重合による製造[3]
 47/048 ・炭化水素の酸化による製造[3]
 47/052 ・メタノールの酸化による製造[3]
 47/055 ・触媒として貴金属またはその化合物を用いるもの[3]
 47/058 ・分離;精製;安定化;添加剤の使用[3]
 A 分離, 精製, 濃縮
 B 安定化
 Z その他〔含. 廃液・廃ガスの処理〕
 47/06 ・アセトアルデヒド
 A アセチレンからの製造
 B オレフィンからの製造
 C メチルアルコールからの製造
 D 一酸化炭素及び水素からの製造〔C が優先〕
 Z その他
 47/07 ・酸化による製造[3]
 47/09 ・分離;精製;安定化;添加剤の使用[3]
 47/105 ・環を含有するもの[3]
 47/11 ・単環式のもの[3]
 47/115 ・縮合環系を含有するもの[3]
 47/12 ・2 以上の—CHO 基を含有するもの

47/127 ・グリオキサール[3]
 47/133 ・環を含有するもの[3]
 47/14 ・ハロゲンを含むもの
 47/16 ・トリクロロアセトアルデヒド
 47/17 ・環を含有するもの[3]
 47/19 ・水酸基を含有するもの[2, 3]
 47/192 ・環を含有するもの[3]
 47/195 ・ハロゲンを含有するもの[3]

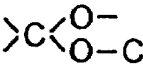
47/198 ・エーテル基, $\text{>C} \begin{smallmatrix} \text{O} \\ \diagup \diagdown \end{smallmatrix} \text{—C}$

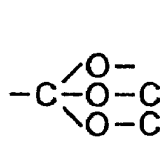
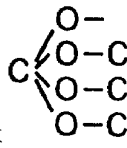
基, $\text{—C} \begin{smallmatrix} \text{O} \\ \diagup \diagdown \end{smallmatrix} \text{—C}$ 基, または

$\text{C} \begin{smallmatrix} \text{O} \\ \diagup \diagdown \end{smallmatrix} \text{—C}$ 基を含有するもの[3]

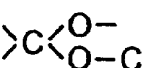
47/20 ・非環式炭素原子に結合している—CHO 基をもつ不飽和化合物
 47/21 ・不飽和結合として炭素—炭素二重結合のみを有するもの[3]
 47/22 ・アクロレイン;メタクロレイン[3]
 A Mo 及び Bi が必須の金属触媒系によりオレフィンを酸素酸化するもの
 B Mo が必須で Bi が選択的に記載されている金属触媒系によりオレフィンを酸素酸化するもの
 C Mo が必須で Bi が必ず含まれない金属触媒系によりオレフィンを酸素酸化するもの
 D Mo が選択的に記載されている金属触媒系によりオレフィンを酸素酸化するもの
 E Mo が必ず含まれず, かつ, Bi が必須又は選択的に記載されている金属触媒系によりオレフィンを酸素酸化するもの
 F Mo 及び Bi が共に必ず含まれない触媒系によりオレフィンを酸素酸化するもの
 G オレフィンを酸素酸化するもので, 触媒系の組成以外の点に特徴があるもの〔例.〔アルデヒド含有生成物の分離・回収を含む〕製造工程に特徴があるもの〕
 H オレフィンの酸素酸化以外の方法
 J プチルアルコールの酸化によるもの
 K アルデヒドの単離, 精製, 安定化〔G, H, J が優先〕
 Z その他
 47/222 ・不飽和結合として炭素—炭素三重結合のみを有するもの[3]
 47/225 ・6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
 47/228 ・6 員芳香環を含有するもの, 例. フェニルアセトアルデヒド[3]
 47/23 ・多環式のもの[3]

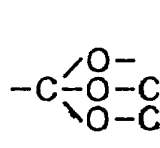
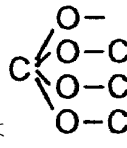
- 47/232 ・ ・ ・ 芳香環以外に不飽和結合をもつもの
[3]
- 47/235 ・ ・ 6 員芳香環および他の環を含有するもの[3]
- 47/238 ・ ・ ・ 芳香環以外に不飽和結合をもつもの
[3]
- 47/24 ・ ・ ハロゲンを含むもの
- 47/26 ・ ・ 水酸基を含有するもの[3]
- 47/263 ・ ・ ・ 非環式的もの[3]
- 47/267 ・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの
[3]
- 47/27 ・ ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
- 47/273 ・ ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]

47/277 ・ ・ エーテル基 , 

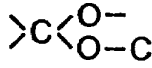
基,  基, または 
基を含有するもの[3]

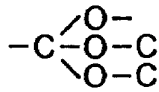
- 47/28 ・ 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合している—CHO 基をもつ飽和化合物
- 47/293 ・ ・ 3 または 4 員環を有するもの[3]
- 47/30 ・ ・ 5 員環を有するもの
- 47/32 ・ ・ 6 員環を有するもの
- 47/33 ・ ・ 7-12 員環を有するもの[3]
- 47/34 ・ ・ 多環式的もの
- 47/347 ・ ・ ・ 縮合環系上に—CHO 基をもつもの[3]
- 47/353 ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
- 47/36 ・ ・ 水酸基を含有するもの

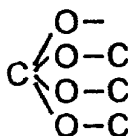
47/37 ・ ・ エーテル基 , 

基,  基, または 
基を含有するもの[3]

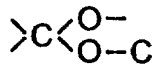
- 47/38 ・ 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合する—CHO 基をもつ不飽和化合物
- 47/395 ・ ・ 3 または 4 員環を有するもの[3]
- 47/40 ・ ・ 5 員環を有するもの[3]
- 47/42 ・ ・ 6 員環を有するもの[3]
- 47/43 ・ ・ 7-12 員環を有するもの[3]
- 47/44 ・ ・ 多環式的もの[3]
- 47/445 ・ ・ ・ 縮合環系を含有するもの[3]
- 47/45 ・ ・ 環以外に不飽和結合をもつもの[2]
- 47/453 ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
- 47/457 ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
- 47/46 ・ ・ 水酸基を含有するもの

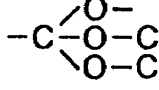
47/47 ・ ・ エーテル基 , 

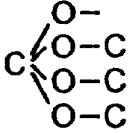
基 ,  基 , または

 基を含有するもの[3]

- 47/52 ・ 6 員芳香環の炭素原子に結合している—CHO 基をもつ化合物
- 47/54 ・ ・ ベンズアルデヒド
- 47/542 ・ ・ アルキル化ベンズアルデヒド[3]
- 47/544 ・ ・ ジホルミル—ベンゼン; そのアルキル化誘導体[3]
- 47/546 ・ ・ 多環式的もの[3]
- 47/548 ・ ・ 6 員芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
- 47/55 ・ ・ ハロゲンを含有するもの[2]
- 47/56 ・ ・ 水酸基を含有するもの
- 47/565 ・ ・ ・ すべての水酸基が環に結合してるもの[3]
- 47/57 ・ ・ ・ 多環式的もの[3]

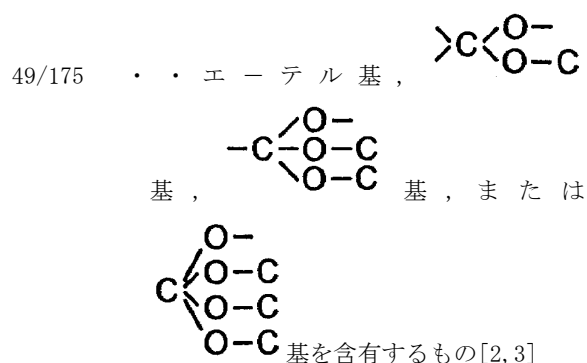
47/575 ・ ・ エーテル基 , 

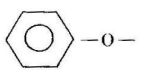
基 ,  基 , または

 基を含有するもの[3]

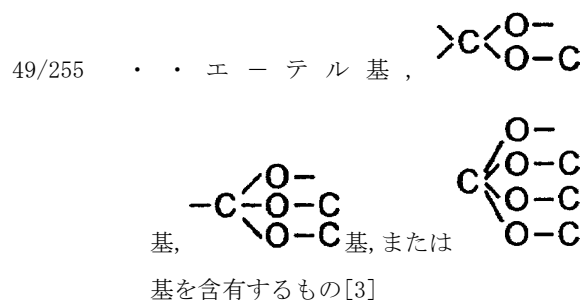
- 47/58 ・ ・ ・ バニリン
- 49/00 ケトン; ケテン; 二量化ケテン; ケトン性キレート
- 49/04 ・ 非環式炭素原子に結合しているケト基を含有する飽和化合物
- A >C=O 基の生成を伴う反応によるもの
- E >C=O 基の生成を伴わない反応によるもの
- J 分離, 精製, 安定化
- Z その他 [←新規化合物]
- 49/08 ・ ・ アセトン[3]
- A >C=O 基の生成を伴う反応によるもの
- E >C=O 基の生成を伴わない反応によるもの
- J 分離, 精製, 安定化
- Z その他のもの
- 49/10 ・ ・ メチル—エチルケトン[3]
- 49/105 ・ ・ 環を含有するもの[3]
- 49/11 ・ ・ ・ 単環式的もの[3]

- 49/115 ・ ・ ・ 縮合環系を含有するもの[3]
 49/12 ・ ・ 2 個以上のケト基を含有するケトン
 49/14 ・ ・ ・ アセチルアセトン;すなわち, 2, 4—ペ
 ンタンジオン
 49/15 ・ ・ ・ 環を含有するもの[3]
 49/16 ・ ・ ハロゲンを含むもの
 49/163 ・ ・ ・ 環を含有するもの[3]
 49/167 ・ ・ ・ ハロゲンとしてフッ素のみを含有す
 るもの[3]
 49/17 ・ ・ 水酸基を含有するもの[2]
 A >C=O 基の生成を伴う反応によるもの
 E >C=O 基の生成を伴わない反応によるもの
 J 分離, 精製, 安定化
 Z その他のもの
 49/172 ・ ・ ・ 環を含有するもの[3]
 49/173 ・ ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]

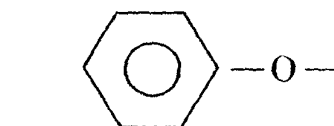


- A $-(C)_n-O-(C)_n-$, $n \geq 1$
- B 
- Z その他のもの
 49/185 ・ ・ —CHO 基を含有するもの[3]
 49/20 ・ 非環式炭素原子に結合しているケト基を
 含有する不飽和化合物
 A >C=O 基の生成を伴う反応によるもの
 E >C=O 基の生成を伴わない反応によるもの
 J 分離, 精製, 安定化
 Z その他のもの
 49/203 ・ ・ 不飽和結合として炭素—炭素二重結合
 のみを有するもの[3]
 A >C=O 基の生成を伴う反応によるもの
 E >C=O 基の生成を伴わない反応によるもの
 J 分離, 精製, 安定化
 Z その他のもの
 49/205 ・ ・ ・ メチルービニルケトン[3]
 49/207 ・ ・ 不飽和結合として炭素—炭素三重結合
 のみを有するもの[3]
 49/21 ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
 49/213 ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
 49/215 ・ ・ ・ 多環式のもの[3]
 49/217 ・ ・ ・ 芳香環以外に不飽和結合をもつもの

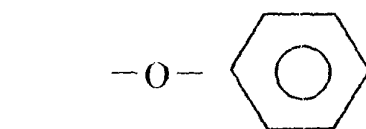
- [3]
 49/223 ・ ・ ・ 多環式のもの[3]
 49/225 ・ ・ 6 員芳香環および他の環を含有するも
 の[3]
 49/227 ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
 49/23 ・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの
 [3]
 49/233 ・ ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
 49/235 ・ ・ ・ ・ 芳香環以外に不飽和結合をもつも
 の[3]
 49/237 ・ ・ ・ 6 員芳香環および他の環を含有する
 もの[3]
 49/24 ・ ・ 水酸基を含有するもの
 49/242 ・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの
 [3]
 49/245 ・ ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
 49/248 ・ ・ ・ ・ 芳香環以外に不飽和結合をもつも
 の[3]
 49/252 ・ ・ ・ 6 員芳香環および他の環を含有する
 もの[3]



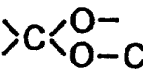
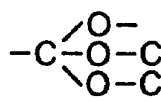
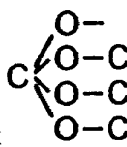
- A $-(C)_n-O-(C)_n-$, $n \geq 1$

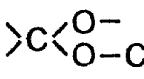
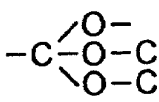
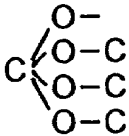
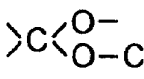
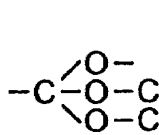
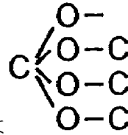


また は

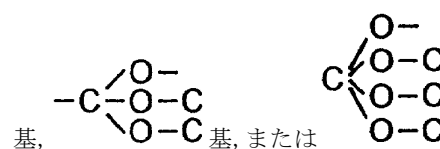


- Z その他のもの
 49/258 ・ ・ —CHO 基を含有するもの[3]
 49/29 ・ 環に結合しているケト基を含有する飽和
 化合物[3]
 49/293 ・ ・ 3 または 4 員環に[3]
 49/297 ・ ・ 5 員環に[3]
 49/303 ・ ・ 6 員環に[3]
 49/307 ・ ・ 7-12 員環に[3]
 49/313 ・ ・ 多環式のもの[3]
 49/317 ・ ・ ・ ケト基に結合している炭素原子がと
 もに環に属しているもの[3]
 49/323 ・ ・ ・ 縮合環系に結合しているケト基をも

- 49/327 つもの[3]
 49/333 ・ ・ ・ 多環式のもの[3]
 49/337 ・ ・ 水酸基を含有するもの[3]
 49/345 ・ ・ ・ 多環式のもの[3]
- 49/35 ・ ・ エーテル基 , 
- 基,  基, または 
- 基を含有するもの[3]
 49/355 ・ ・ -CHO 基を含有するもの[3]
 49/385 ・ 環部分を構成しているケト基を含有する飽和化合物[3]
 A >C=O 基の生成を伴う反応によるもの
 E >C=O 基の生成を伴わない反応によるもの
 J 分離, 精製, 安定化
 Z その他のもの [←新規化合物]
 49/39 ・ ・ 3 または 4 員環の[3]
 49/395 ・ ・ 5 員環の[3]
 49/403 ・ ・ 6 員環の[3]
 A >C=O 基の生成を伴う反応によるもの
 E >C=O 基の生成を伴わない反応によるもの
 J 分離, 精製, 安定化
 Z その他のもの [←新規化合物]
 49/407 ・ ・ ・ メントン[3]
 49/413 ・ ・ 7-12 員環の[3]
 49/417 ・ ・ 多環式のもの[3]
 49/423 ・ ・ ・ ケト基が縮合環系の一部を構成しているもの[3]
 49/427 ・ ・ ・ ・ 2 個の環をもつもの[3]
 49/433 ・ ・ ・ ・ 縮合環系が 7 個の炭素原子を含有するもの[3]
 49/437 ・ ・ ・ ・ ・ 樟脳; フェンコン[3]
 49/443 ・ ・ ・ ・ 縮合環系が 8 または 9 個の炭素原子を含有するもの[3]
 49/447 ・ ・ ・ ・ 縮合環系が 10 個の炭素原子を含有するもの[3]
 49/453 ・ ・ ・ ・ 3 個の環をもつもの[3]
 49/457 ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
 49/463 ・ ・ ・ ケト基が 6 員環の環部分を構成しているもの[3]
 49/467 ・ ・ ・ 多環式のもの[3]
 49/473 ・ ・ ・ ・ ケト基が縮合環系の環部分を構成しているもの[3]
 49/477 ・ ・ ・ ・ 2 個の環をもつもの[3]
 49/483 ・ ・ ・ ・ 3 個の環をもつもの[3]
 49/487 ・ ・ 水酸基を含有するもの[3]
 49/493 ・ ・ ・ ケト基が 3-5 員環の環部分を構成しているもの[3]

- 49/497 ・ ・ ・ ケト基が 6 員環の環部分を構成しているもの[3]
 49/503 ・ ・ ・ ケト基が 7-12 員環の環部分を構成しているもの[3]
 49/507 ・ ・ ・ 多環式のもの[3]
 49/513 ・ ・ ・ ・ ケト基が縮合環系の環部分を構成しているもの[3]
- 49/517 ・ ・ エーテル基 , 
- 基 ,  基 , または 
- 基を含有するもの[3]
 49/523 ・ ・ -CHO 基を含有するもの[3]
 49/527 ・ 6 員芳香環以外の環に結合しているケト基を含有する不飽和化合物[3]
 49/533 ・ ・ 3 または 4 員環に[3]
 49/537 ・ ・ 5 員環に[3]
 49/543 ・ ・ 6 員環に[3]
 49/547 ・ ・ 7-12 員環に[3]
 49/553 ・ ・ 多環式のもの[3]
 49/557 ・ ・ 環以外に不飽和結合をもつもの[3]
 49/563 ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
 49/567 ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
 49/573 ・ ・ 水酸基を含有するもの[3]
- 49/577 ・ ・ エーテル基 , 
- 基,  基, または 
- 基を含有するもの[3]
 49/583 ・ ・ -CHO 基を含有するもの[3]
 49/587 ・ 環部分を構成しているケト基を含有する不飽和化合物[3]
 A >C=O 基の生成を伴う反応によるもの
 E >C=O 基の生成を伴わない反応によるもの
 J 分離, 精製, 安定化
 Z その他のもの [←新規化合物]
 49/593 ・ ・ 3 または 4 員環の[3]
 49/597 ・ ・ 5 員環の[3]
 49/603 ・ ・ 6 員環の[3]
 49/607 ・ ・ 7-12 員環の[3]
 49/613 ・ ・ 多環式のもの[3]
 49/617 ・ ・ ・ ケト基が縮合環系の環部分を構成しているもの[3]

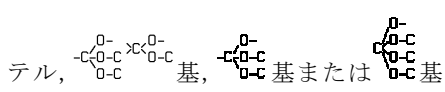


- 49/623 ・・・・2個の環をもつもの[3]
 49/627 ・・・・縮合環系が7個の炭素原子を含有するもの[3]
 49/633 ・・・・縮合環系が8または9個の炭素原子を含有するもの[3]
 49/637 ・・・・縮合環系が10個の炭素原子を含有するもの[3]
 49/643 ・・・・3個の環をもつもの[3]
 49/647 ・環以外に不飽和結合をもつもの[3]
 49/653 ・・・・多環式のもの[3]
 49/657 ・6員芳香環を含有するもの[3]
 49/665 ・・・・ケト基が縮合環系の環部分を構成しているもの[3]
 49/67 ・・・・2個の環をもつもの, 例. テトラロン[3]
 49/675 ・・・・3個の環をもつもの[3]
 49/683 ・・・・芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
 49/687 ・ハロゲンを含有するもの[3]
 49/693 ・・・・多環式のもの[3]
 49/697 ・・・・6員芳香環を含有するもの[3]
 49/703 ・水酸基を含有するもの[3]
 49/707 ・・・・ケト基が3-5員環の環部分を構成しているもの[3]
 49/713 ・・・・ケト基が6員環の環部分を構成しているもの[3]
 49/717 ・・・・ケト基が7-12員環の環部分を構成しているもの[3]
 49/723 ・・・・多環式のもの[3]
 49/727 ・・・・ケト基が縮合環系の環部分を構成しているもの[3]
 49/733 ・・・・2個の環をもつもの[3]
 49/737 ・・・・3個の環をもつもの[3]
 49/743 ・・・・環以外に不飽和結合をもつもの, 例. フムロン, ルブロン[3]
 A 3-5員環
 B 6員環以上
 C 多環式
 Z その他のもの
 49/747 ・・・・6員芳香環を含有するもの[3]
 A ケト基が3-5員環の環部分を構成しているもの
 B ケト基が6員環以上の環部分を構成しているもの
 C ケト基が縮合環系の環部分を構成しているもの
 Z その他のもの
 49/753 ・・・・エーテル基, $\text{>C} \begin{smallmatrix} \text{O}- \\ \text{O}-\text{C} \end{smallmatrix}$



- 基を含有するもの[3]
 A すべてのエーテル基の酸素原子が非環式炭素原子に結合しているもの
 B エーテル基の酸素原子が6員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの
 C エーテル基の酸素原子が6員芳香環の炭素原子に結合しているもの
 Z その他のもの
 49/755 ・・・・ケト基が, 少なくとも1個の環が6員芳香環である2または3個の環を有する縮合環系の環部分を構成しているもの[3]
 49/757 ・・・・CH=O基を含有するもの[3]
 49/76 ・6員芳香環に結合しているケト基を含有するケトン(縮合環系の環部分を構成し, 6員芳香環に結合しているケト基をもつ化合物 C07C49/657-C07C49/757)
 A >C=O基の生成を伴う反応によるもの
 B ・縮合のみによる反応によるもの
 E >C=O基の生成を伴わない反応によるもの
 J 分離, 精製, 安定化
 Z その他のもの [←新規化合物]
 49/78 ・アセトフェノン
 49/782 ・・・・多環式のもの[3]
 49/784 ・・・・すべてのケト基が非縮合環に結合しているもの[3]
 49/786 ・・・・ベンゾフェノン[3]
 49/788 ・・・・ケト基が縮合環系に結合しているもの[3]
 49/792 ・・・・6員芳香環以外の環を含有するもの[3]
 49/794 ・・・・芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
 49/796 ・・・・多環式のもの[3]
 49/798 ・・・・6員芳香環以外の環を含有するもの[3]
 49/80 ・ハロゲンを含むもの
 49/807 ・・・・すべてのハロゲン原子が環に結合しているもの[3]
 49/813 ・・・・多環式のもの[3]
 49/82 ・水酸基を含有するもの[3]
 49/825 ・・・・すべての水酸基が環に結合しているもの[3]
 49/83 ・・・・多環式のもの[3]
 A

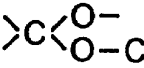
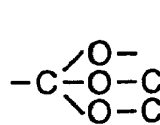
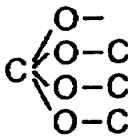




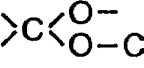
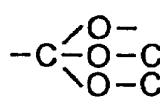
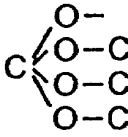
		$\text{C}=\text{O}$		50/16	例. ビタミン K ₁ [3]
	骨格を有するもの			50/18	・キノイド構造が 3 個の環を含有する縮合環系の環部分を構成しているもの [3]
Z	その他のもの			50/20	・アントラキノン, すなわち, C ₁₄ H ₈ O ₂ [3]
49/835	・芳香環以外に不飽和結合をもつもの [3]			50/22	・環系以外に不飽和結合を有するもの [3]
				50/24	・キノイド構造が 4 個以上の環を含有する縮合環系の環部分を構成しているもの [3]
49/84	・エーテル基,			50/26	・ハロゲンを含有するもの [3]
				50/28	・炭素原子に単結合している酸素原子をもつ基を含有するもの [3]
				50/30	・単環式キノイド構造を有するもの [3]
	基,			50/32	・多環式非縮合キノイド構造を有するもの [3]
				50/34	・キノイド構造が 2 個の環をもつ縮合環系の環部分を構成しているもの [3]
	基, または			50/36	・キノイド構造が 3 個の環をもつ縮合環系の環部分を構成しているもの [3]
	基を含有するもの [2, 3]			50/38	・キノイド構造が 4 個以上の環をもつ縮合環系の環部分を構成しているもの [3]
A	すべてのエーテル基の酸素原子が非環式炭素原子に結合しているもの			51/00	・—CHO または非キノイドケト基を含有するもの [3]
B	エーテル基の酸素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの			51/02	カルボン酸またはその塩, 酸ハロゲン化物または酸無水物の製造 [2]
C	エーテル基の酸素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの			51/04	・カルボン酸の塩から
D	・ハロゲンを含有するもの			51/06	・カルボン酸ハロゲン化物から
E	・水酸基を含有するもの			51/08	・カルボン酸アミドのけん化によるもの
F	エーテル基の酸素原子が 6 員芳香環の炭素原子および 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの			51/083	・ニトリルから
G	エーテル基の酸素原子がともに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの			51/087	・カルボン酸無水物から [3]
Z	その他のもの			51/09	・加水分解によるもの [3]
49/86	・—CHO 基を含有するもの [3]			51/097	・カルボン酸エステルまたはラクトンから (カルボン酸エステルのけん化 C07C27/02)
49/88	・ケテン; 二量化ケテン [3]			51/093	・—CX ₃ 基 (X はハロゲン) の加水分解によるもの [3]
49/90	・ケテン, すなわち, C ₂ H ₂ O [3]			51/097	・ニトロ置換有機化合物からまたはそれを經由するもの [3]
49/92	・ケトン性キレート [3]			51/10	・一酸化炭素との反応によるもの
50/00	キノン (キノンメチドに対しては, 環部分を構成しているケト基を有する不飽和ケトン参照) [3]			51/12	・有機化合物中の酸素含有基におけるもの, 例. アルコール
注	このグループにおいては, キンヒドロンはそのキノイド部分にしたがって分類する。 [3]			51/14	・有機化合物中の炭素—炭素不飽和結合におけるもの [3]
50/02	・単環式キノイド構造を有するもの [3]			51/145	・酸化を同時に伴うもの [3]
50/04	・ベンゾキノン, すなわち, C ₆ H ₄ O ₂ [3]			51/15	・有機化合物と二酸化炭素との反応によるもの, 例. コルベ—シュミット合成 [2]
50/06	・キノイド構造以外に不飽和結合を有するもの [3]			51/16	・酸化によるもの (C07C51/145 が優先) [3]
50/08	・多環式非縮合キノイド構造を有するもの [3]			51/21	・分子状酸素を用いるもの [3]
50/10	・キノイド構造が 2 個の環を含有する縮合環系の環部分を構成しているもの [3]			51/215	・飽和ヒドロカルビル基の [3]
50/12	・ナフトキノン, すなわち, C ₁₀ H ₆ O ₂ [3]			51/225	・パラフィンワックスの [3]
50/14	・環系以外に不飽和結合を有するもの,			51/23	・酸素含有基のカルボキシル基への [3]
				51/235	・—CHO 基または第一級アルコール基の [3]
				51/245	・ケト基または第二級アルコール基


- の[3]
- 51/25 ・ ・ ・ 6 員芳香環を含有しない不飽和化合物の[3]
- 51/255 ・ ・ ・ 6 員芳香環を含有する化合物の環開裂を伴わないもの[3]
- 51/265 ・ ・ ・ ・ アルキル側鎖を酸化してカルボキシル基にするもの[3]
- 51/27 ・ ・ 窒素酸化物または窒素を含有する鉱酸を用いるもの[3]
- 51/275 ・ ・ ・ 炭化水素基の[3]
- 51/285 ・ ・ 過酸化物を用いるもの[3]
- 51/29 ・ ・ その場で形成してもよいハロゲンを含む化合物を用いるもの[3]
- 51/295 ・ ・ 無機塩基を用いるもの, 例. アルカリ熔融によるもの[3]
- 51/305 ・ ・ 硫黄または硫黄を含有する化合物を用いるもの[3]
- 51/31 ・ ・ 環式化合物の環開裂を伴うもの[3]
- 51/34 ・ オゾン酸化によるもの; オゾニドの加水分解によるもの[3]
- 51/347 ・ カルボキシル基の生成を伴わない反応によるもの[3]
- 51/353 ・ ・ 異性化によるもの; 炭素骨格の大きさを変化させることによるもの[3]
- 51/36 ・ ・ 炭素-炭素不飽和結合の水素添加によるもの[3]
- 51/363 ・ ・ ハロゲンの導入によるもの; ハロゲン原子を他のハロゲン原子によって置換することによるもの[3]
- 51/367 ・ ・ 単結合の酸素を含有する官能基の導入によるもの[3]
- 51/373 ・ ・ 二重結合の酸素を含有する官能基の導入によるもの[3]
- 51/377 ・ ・ 水素または官能基の離脱によるもの; 官能基の水添分解によるもの[3]
- 51/38 ・ ・ ・ 脱炭酸によるもの[3]
- 51/41 ・ 酸またはその塩をその酸部分において塩に変換することによるカルボン酸塩の製造 (石けんの製造 C11D) [3]
- 51/42 ・ 分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[3]
- 51/43 ・ ・ 物理的状態の変化によるもの, 例. 結晶化[3]
- 51/44 ・ ・ ・ 蒸留によるもの[3]
- 51/46 ・ ・ ・ ・ 共沸蒸留によるもの[3]
- 51/47 ・ ・ 固-液処理によるもの; 化学吸着によるもの[3]
- 51/48 ・ ・ 液-液処理によるもの
- 51/487 ・ ・ 化学的変化をひきおこす処理によるもの (化学吸着によるもの C07C51/47) [3]
- 51/493 ・ ・ ・ カルボン酸エステルを形成することによるもの[3]
- 51/50 ・ ・ 添加剤の使用, 例. 安定化のためのもの[3]
- 51/54 ・ カルボン酸無水物の製造 (酸化によるもの C07C51/16)
- 51/56 ・ ・ 有機酸, その塩またはそのエステルからのもの
- 51/567 ・ ・ カルボン酸無水物基の関与しない反応によるもの[3]
- 51/573 ・ ・ 分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[3]
- 51/58 ・ カルボン酸ハロゲン化物の製造
- 51/60 ・ ・ カルボン酸またはその無水物をその酸部分においてハロゲン化物に変換することによるもの[3]
- 51/62 ・ ・ カルボン酸ハロゲン化物基の関与しない反応によるもの[3]
- 51/64 ・ ・ 分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[3]
- 53/00 非環式炭素原子または水素に結合している 1 個のカルボキシル基をもつ飽和化合物
- 53/02 ・ ぎ酸
- 53/04 ・ ・ 一酸化炭素からの製造
- 53/06 ・ ・ その塩
- 53/08 ・ 酢酸
- 53/10 ・ ・ その塩
- 53/12 ・ 無水酢酸 (ケテン C07C49/90)
- 53/122 ・ プロピオン酸[3]
- 53/124 ・ 4 個の炭素原子を含有する酸[3]
- 53/126 ・ 5 個以上の炭素原子を含有する酸[3]
- 53/128 ・ ・ カルボキシル基が少なくとも 2 個の他の炭素原子に結合している炭素原子に結合しているもの, 例. ネオ酸[3]
- 53/132 ・ 環を含有するもの[3]
- 53/134 ・ ・ 単環式のもの[3]
- 53/136 ・ ・ 縮合環系を含有するもの[3]
- 53/138 ・ ・ ・ アダマンタン環系を含有するもの[3]
- 53/15 ・ ハロゲンを含有するもの[3]
- 53/16 ・ ・ ハロ酢酸[3]
- 53/18 ・ ・ ・ フッ素を含有するもの[3]
- 53/19 ・ ・ 3 個以上の炭素原子を含有する酸[3]
- 53/21 ・ ・ ・ フッ素を含有するもの[3]
- 53/23 ・ ・ 環を含有するもの[3]
- 53/38 ・ 酸ハロゲン化物[3]
- 53/40 ・ ・ 酢酸ハロゲン化物[3]
- 53/42 ・ ・ 3 個以上の炭素原子を含有する酸の[3]
- 53/44 ・ ・ 環を含有するもの[3]
- 53/46 ・ ・ カルボニルハライド基以外にハロゲンを含有するもの[3]
- 53/48 ・ ・ ・ ハロゲン化酢酸ハロゲン化物[3]
- 53/50 ・ ・ ・ 3 個以上の炭素原子を含有する酸の[3]
- 55/00 非環式炭素原子に結合している 2 個以上のカルボキシル基をもつ飽和化合物[2]
- 55/02 ・ 二塩基性カルボン酸
- 55/06 ・ ・ しゅう酸
- 55/07 ・ ・ ・ その塩[3]
- 55/08 ・ ・ マロン酸

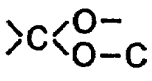
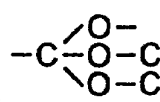
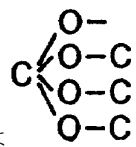
55/10	・ ・ こはく酸		
55/12	・ ・ グルタル酸	57/26	・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
55/14	・ ・ アジピン酸	57/28	・ ・ アダマンタン環系を含有するもの[3]
55/16	・ ・ ピメリン酸	57/30	・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
55/18	・ ・ アゼライン酸	57/32	・ ・ フェニル酢酸[3]
55/20	・ ・ セバシン酸	57/34	・ ・ 2 個以上のカルボキシル基を含有するもの[3]
55/21	・ ・ 12 個の炭素原子をもつ二塩基性カルボン酸[3]	57/36	・ ・ ・ フェニルマロン酸[3]
55/22	・ 三塩基性カルボン酸	57/38	・ ・ 多環式のもの[3]
55/24	・ 4 個以上のカルボキシル基を含有するもの	57/40	・ ・ ・ 縮合環系を含有するもの[3]
55/26	・ 環を含有するもの[3]	57/42	・ ・ 環以外に不飽和結合をもつもの[3]
55/28	・ ・ 単環式のもの[3]	57/44	・ ・ ・ 桂皮酸[3]
55/30	・ ・ 縮合環系を含有するもの[3]	57/46	・ 6 員芳香環および他の環を含有するもの、例. シクロヘキシルフェニル酢酸[3]
55/32	・ ハロゲンを含有するもの[3]	57/48	・ ・ 芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
55/34	・ ・ 環を含有するもの[3]	57/50	・ ・ 縮合環系を含有するもの[3]
55/36	・ 酸ハロゲン化物[3]	57/52	・ ハロゲンを含有するもの[3]
55/38	・ ・ 環を含有するもの[3]	57/54	・ ・ ハロアクリル酸またはハロメタクリル酸[3]
55/40	・ ・ カルボニルハライド基以外にハロゲンを含有するもの[3]	57/56	・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
57/00	非環式炭素原子に結合しているカルボキシル基をもつ不飽和化合物[2]	57/58	・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
57/02	・ 不飽和結合として炭素—炭素二重結合のみを有するもの	57/60	・ ・ ・ 環以外に不飽和結合をもつもの[3]
57/03	・ ・ 一塩基性カルボン酸[3]	57/62	・ ・ 6 員芳香環および他の環を含有するもの[3]
57/04	・ ・ ・ アクリル酸;メタクリル酸[3]	57/64	・ 酸ハロゲン化物[3]
57/045	・ ・ ・ ・ 液相酸化による製造[3]	57/66	・ ・ 不飽和結合として炭素—炭素二重結合のみを有するもの[3]
57/05	・ ・ ・ ・ 気相酸化による製造[3]	57/68	・ ・ 不飽和結合として炭素—炭素三重結合のみを有するもの[3]
57/055	・ ・ ・ ・ ・ 不飽和アルデヒドを原料とするもの[3]	57/70	・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
A	アクリル酸の製法	57/72	・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
B	メタクリル酸の製法	57/74	・ ・ 6 員芳香環および他の環を含有するもの[3]
Z	その他	57/76	・ ・ カルボニルハライド基以外にハロゲンを含有するもの[3]
57/065	・ ・ ・ ・ H—X (X はハロゲン, OR または NR ₂ (R は水素または炭化水素基)) の脱離による製造[3]	59/00	非環式炭素原子に結合しているカルボキシル基および OH, O—金属, —CHO, ケト, エーテル,  基,  基または  基
57/07	・ ・ ・ ・ 分離;精製;安定化;添加剤の使用[3]		のうちのいずれかの基を含有する化合物[2]
57/075	・ ・ ・ ・ ・ 添加剤の使用, 例. 安定化のためのもの[3]	59/01	・ 1 個のカルボキシル基をもち, 水酸基または O—金属基を含有する飽和化合物[3]
57/08	・ ・ ・ クロトン酸[3]	59/06	・ ・ グリコール酸[3]
57/10	・ ・ ・ ソルビン酸[3]	59/08	・ ・ 乳酸[3]
57/12	・ ・ ・ 18 個の炭素原子を含有する直鎖カルボン酸[3]	59/10	・ ・ ポリヒドロキシカルボン酸
57/13	・ ・ 二塩基性カルボン酸[3]	59/105	・ ・ ・ 5 個以上の炭素原子をもつもの, 例. アルドン酸[3]
57/145	・ ・ ・ マレイン酸[3]	59/11	・ ・ 環を含有するもの[3]
57/15	・ ・ ・ フマル酸[3]	59/115	・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
57/155	・ ・ ・ シトラコン酸[3]	59/125	・ 1 個のカルボキシル基をもち, エーテル
57/16	・ ・ ・ ムコン酸[3]		
57/18	・ 不飽和結合として炭素—炭素三重結合のみをもつもの		
57/20	・ ・ プロピオール酸		
57/22	・ ・ アセチレンジカルボン酸		
57/24	・ ・ ジアセチレンまたはポリアセチレンジ		

	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ >\text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基, $\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ -\text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基, $\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基または $\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基を含有する飽和化合物[3]
A	HOOC—R' —O—R''
C	HOOC—R' —O—R'' —X
E	HOOC—R' —O—R'' — [O]
F	ジグリコール酸 HOOCCH ₂ OCH ₂ COOH
Z	その他のもの R' :アルキレン基, R'' :脂肪族又は脂環式炭化水素基, X:ハロゲン, [O] :酸素含有基 (カルボキシル基, エーテル基を含む)
59/13	・ ・ 環を含有するもの[3]
59/135	・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
59/147	・ 1 個のカルボキシル基をもち, —CHO 基を含有する飽和化合物[3]
59/153	・ ・ グリオキシル酸[3]
59/185	・ 1 個のカルボキシル基をもち, ケト基を含有する飽和化合物[3]
59/19	・ ・ ピルビン酸[3]
59/195	・ ・ アセト酢酸[3]
59/205	・ ・ 環を含有するもの[3]
59/21	・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
59/215	・ ・ 単結合の酸素を含有する基を含有するもの[3]
59/225	・ ・ —CHO 基を含有するもの[3]
59/235	・ 2 個以上のカルボキシル基をもつ飽和化合物[3]
59/245	・ ・ 水酸基または O—金属基を含有するもの[3]
59/255	・ ・ ・ 酒石酸[3]
59/265	・ ・ ・ クエン酸[3]
59/285	・ ・ ・ 5 個以上の炭素原子をもつポリヒドロキシ二塩基性カルボン酸, 例. 糖酸[3]
59/29	・ ・ ・ 環を含有するもの[3]
59/295	・ ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
59/305	・ ・ エーテル基, $\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ >\text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基, $\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ -\text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基または $\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基を含有する飽和化合物[3]
59/31	・ ・ ・ 環を含有するもの[3]
59/315	・ ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
59/325	・ ・ —CHO 基を含有するもの[3]

59/347	・ ・ ケト基を含有するもの[3]
59/353	・ ・ ・ 環を含有するもの[3]
59/40	・ 不飽和化合物[3]
59/42	・ ・ 水酸基または O—金属基を含有するもの[3]
59/44	・ ・ ・ リシノール酸[3]
59/46	・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
59/48	・ ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
59/50	・ ・ ・ マンデル酸[3]
59/52	・ ・ ・ 水酸基または O—金属基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[3]
59/54	・ ・ ・ 6 員芳香環および他の環を含有するもの[3]
59/56	・ ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
59/58	・ ・ エーテル基, $\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ >\text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基, $\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ -\text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基または $\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{C} < \text{O}-\text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$ 基を含有する不飽和化合物[3]
59/60	・ ・ ・ エーテルの非カルボキシル基部分が不飽和であるもの[3]
59/62	・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
59/64	・ ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
59/66	・ ・ ・ エーテルの非カルボキシル基部分が 6 員芳香環を含有するもの[3]
59/68	・ ・ ・ エーテル基の酸素原子が非縮合 6 員芳香環に結合しているもの[3]
59/70	・ ・ ・ ヒドロキシ酢酸のエーテル[3]
59/72	・ ・ ・ 6 員芳香環および他の環を含有するもの[3]
59/74	・ ・ —CHO 基を含有するもの[3]
59/76	・ ・ ケト基を含有するもの[3]
59/80	・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
59/82	・ ・ ・ ケト基が環部分を構成しているもの[3]
59/84	・ ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]
59/86	・ ・ ・ 6 員芳香環と他の環を含有するもの[3]
59/88	・ ・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]
59/90	・ ・ ・ 単結合の酸素含有基を含有するもの[3]
59/92	・ ・ ・ —CHO 基を含有するもの[3]
61/00	6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているカルボキシル基をもつ化合物
61/04	・ 3 員環または 4 員環に結合しているカルボキシル基をもつ飽和化合物[3]

61/06	・ 5 員環に結合しているカルボキシル基をもつ飽和化合物[3]	62/14	・ ・ ・ 縮合環系上にカルボキシル基をもつもの[3]
61/08	・ 6 員環に結合しているカルボキシル基をもつ飽和化合物[3]	62/16	・ —CHO 基を含有する飽和化合物[3]
61/09	・ ・ 完全に水素化されたベンゼンジカルボン酸[2, 3]	62/18	・ ケト基を含有する飽和化合物[3]
61/10	・ 7-12 員環に結合しているカルボキシル基をもつ飽和化合物[3]	62/20	・ ・ 6 員環を有するもの[3]
61/12	・ 飽和多環式化合物[3]	62/22	・ ・ 多環式のもの[3]
61/125	・ ・ 縮合環系に結合しているカルボキシル基をもつもの[3]	62/24	・ ・ ケト基が環部分を構成しているもの[3]
61/13	・ ・ ・ 2 個の環をもつもの[3]	62/26	・ ・ 単結合の酸素含有基を含有するもの[3]
61/135	・ ・ ・ 3 個の環をもつもの[3]	62/28	・ ・ —CHO 基を含有するもの[3]
61/15	・ ハロゲンを含有する飽和化合物[3]	62/30	・ 不飽和化合物[3]
61/16	・ 不飽和化合物[3]	62/32	・ ・ 水酸基または O—金属基を含有するもの[3]
61/20	・ ・ 5 員環に結合しているカルボキシル基をもつもの[3]	62/34	・ ・ エーテル基 , 
61/22	・ ・ 6 員環に結合しているカルボキシル基をもつもの[3]		 基,  基または
61/24	・ ・ ・ 部分的に水素化されたベンゼンジカルボン酸[3]		基を含有するもの[3]
61/26	・ ・ 7-12 員環に結合しているカルボキシル基をもつもの[3]	62/36	・ ・ —CHO 基を含有するもの[3]
61/28	・ ・ 多環式のもの[3]	62/38	・ ・ ケト基を含有するもの[3]
61/29	・ ・ ・ 縮合環系に結合しているカルボキシル基をもつもの[3]	63/00	6 員芳香環の炭素原子に結合しているカルボキシル基をもつ化合物[2]
61/35	・ ・ 環以外に不飽和結合をもつもの[3]	A	酸ハロゲン化物
61/37	・ ・ ・ 菊酸[3]	B	精製、分離、安定化
61/39	・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]	Z	その他のもの
61/40	・ ・ ハロゲンを含有するもの[3]	63/04	・ 単環式一塩基性カルボン酸
62/00	6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているカルボキシル基をもち, OH, O—金属, —CHO, ケト, エーテル,  基,  基,  基または  基のうちいずれかの基を含有する化合物[3]	63/06	・ ・ 安息香酸
62/02	・ 水酸基または O—金属基を含有する飽和化合物[3]	63/08	・ ・ ・ その塩
62/04	・ ・ 6 員環を有するもの[3]	63/10	・ ・ ・ そのハロゲン化物
62/06	・ ・ 多環式のもの[3]	63/14	・ 単環式二塩基性カルボン酸
62/08	・ エーテル基 , 	63/15	・ ・ すべてのカルボキシル基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[3]
	 基,  基または	A	酸ハロゲン化物
	基を含有するもの[3]	B	精製、分離、安定化
62/10	・ ・ 6 員環を有するもの[3]	Z	その他のもの
62/12	・ ・ 多環式のもの[3]	63/16	・ ・ ・ 1, 2—ベンゼンジカルボン酸[3]
		63/20	・ ・ ・ ・ その塩[3]
		63/22	・ ・ ・ ・ そのハロゲン化物[3]
		63/24	・ ・ ・ 1, 3—ベンゼンジカルボン酸[3]
		63/26	・ ・ ・ 1, 4—ベンゼンジカルボン酸[3]
		A	酸化以外の方法
		B	酸化
		C	・ 分子状 O ₂ による酸化
		D	・ 分子状 O ₂ によるアルキル側鎖の酸化
		E	・ ・ 触媒として Co, Mn, Br を用いるもの
		F	・ ・ 触媒として Co, Mn, Br 以外のものを用いるもの
		G	精製
		H	・ 回収・循環
		J	・ 物理的状态変化による精製

K	・液処理・吸着による精製
L	・化学変化処理による精製
M	・再酸化
N	・アルキル側鎖の酸化及び精製
Z	その他のもの
63/28	・・・・その塩[3]
63/30	・・・・そのハロゲン化物[3]
63/307	・単環式三塩基性カルボン酸[3]
63/313	・4 個以上のカルボキシル基を含有する単環式の酸[3]
63/33	・多環式の酸[2, 3]
63/331	・すべてのカルボキシル基が非縮合環に結合しているもの[3]
63/333	・・・・4, 4' —ビフェニルジカルボン酸[2, 3]
63/337	・カルボキシル基が縮合環系に結合しているもの[2, 3]
63/34	・・・・2 個の環を含有するもの[3]
63/36	・・・・1 個のカルボキシル基を含有するもの[3]
63/38	・・・・縮合環系の炭素原子に結合しているカルボキシル基を 2 個含有するもの[3]
63/40	・・・・縮合環系の炭素原子に結合しているカルボキシル基を 3 個以上含有するもの[3]
63/42	・・・・3 個以上の環を含有するもの[3]
63/44	・・・・1 個のカルボキシル基を含有するもの[3]
63/46	・・・・縮合環系の炭素原子に結合しているカルボキシル基を 2 個含有するもの[3]
63/48	・・・・縮合環系の炭素原子に結合しているカルボキシル基を 3 個以上含有するもの[3]
63/49	・6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
63/64	・芳香環以外に不飽和結合を有する単環式カルボン酸[3]
63/66	・芳香環以外に不飽和結合を有する多環式カルボン酸[3]
63/68	・ハロゲン含有するもの[3]
63/70	・一塩基酸[3]
63/72	・多塩基酸[3]
63/74	・芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
65/00	6 員芳香環の炭素原子に結合しているカルボキシル基をもち, OH, O—金属, —CHO, ケト, エーテル, $\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ -\text{C}-\text{O}-\text{C}- \\ \parallel \\ \text{O} \end{array}$ 基, $\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ -\text{C}-\text{O}-\text{C}- \\ \parallel \\ \text{O} \end{array}$ 基または  基のいずれかの官能基を含有する化合物
65/01	・水酸基または O—金属基を含有するもの[3]

65/03	・すべての水酸基または O—金属基が環に結合している単環式のもの[3]
A	—COOH を生成するもの
B	—COOH を生成しないもの
C	分離, 精製, 安定化
D	化合物
Z	その他
65/05	・・・・o—ヒドロキシカルボン酸[3]
65/10	・・・・サリチル酸[3]
65/105	・多環式のもの[3]
65/11	・・・・2 個の環からなる縮合環系にカルボキシル基を有するもの[3]
65/15	・・・・3 個以上の環からなる縮合環系にカルボキシル基を有するもの[3]
65/17	・6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
65/19	・芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
65/21	・エーテル基,  基,  基, または  基を含有するもの[3]
A	製法に特徴
B	触媒に特徴
C	化合物
D	O—芳香環化合物
E	・OH 基をも有するもの
Z	その他
65/24	・多環式のもの[3]
65/26	・・・・6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
65/28	・芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
65/30	・—CHO 基を含有するもの[3]
65/32	・ケト基を含有するもの[3]
A	製法
C	化合物
Z	その他
65/34	・多環式のもの[3]
65/36	・・・・6 員芳香環以外の環を含有するもの[3]
65/38	・芳香環以外に不飽和結合をもつもの[3]
65/40	・単結合の酸素含有基を含有するもの[3]
65/42	・・・・—CHO 基を含有するもの[3]
66/00	キノンカルボン酸[2]
66/02	・アントラキノンカルボン酸[2]
67/00	カルボン酸エステル製造
<u>注</u>	
このグループにおいては, 原料として使用されるラクトンはエステルとみなす。[3]	
67/02	・エステル基相互の反応によるもの, すなわ

- ちエステル交換反応によるもの
- 67/03 ・エステル基と水酸基との反応によるもの[2]
- 67/035 ・カルボン酸または対称無水物と飽和炭化水素との反応によるもの[3]
- 67/04 ・カルボン酸または対称無水物と炭素—炭素不飽和結合との反応によるもの[2]
- 67/05 ・・酸化によるもの[2, 3]
- 67/055 ・・・白金族金属またはそれらの化合物の存在下に行なうもの[3]
- 67/08 ・カルボン酸または対称無水物と有機化合物の水酸基または O—金属基との反応によるもの[2]
- 67/10 ・カルボン酸または対称無水物とエステル基または炭素—ハロゲン結合との反応によるもの[2]
- 67/11 ・・銲酸エステル基であるもの[3]
- 67/12 ・非対称無水物からのもの[2]
- 67/14 ・カルボン酸ハロゲン化物からのもの[2]
- 67/16 ・1 個の酸素原子が硫黄, セレンまたはテルル原子で置換されているカルボン酸, エステルまたは無水物からのもの[2]
- 67/18 ・窒素含有基のエステルへの転換によるもの[2]
- 67/20 ・・アミドまたはラクタムからのもの[2]
- 67/22 ・・ニトリルからのもの[2]
- 67/24 ・カルボン酸またはその誘導体と炭素—酸素エーテル結合, 例. アセタール, テトラヒドロフラン, との反応によるもの[2]
- 67/26 ・・オキシラン環を用いるもの[2]
- 67/27 ・オルトエステルからのもの[3]
- 67/28 ・エステル基を導入することなくエステルのヒドロキシル部分を変化させることによるもの[2]
- 67/283 ・・炭素—炭素不飽和結合の水素添加によるもの[3]
- 67/287 ・・ハロゲンの導入によるもの; ハロゲン原子を他のハロゲン原子によって置換させることによるもの[3]
- 67/29 ・・酸素含有官能基の導入によるもの[3]
- 67/293 ・・異性化によるもの; 炭素骨格の大きさを変化させるもの[3]
- 67/297 ・・水素または官能基の離脱によるもの; 官能基の水添分解によるもの[3]
- 67/30 ・エステル基を導入することなくエステルの酸部分を変化させることによるもの[2]
- 67/303 ・・炭素—炭素不飽和結合の水素添加によるもの[3]
- 67/307 ・・ハロゲンの導入によるもの; ハロゲン原子を他のハロゲン原子で置換することによるもの[3]
- 67/31 ・・単結合の酸素を含有する官能基の導入によるもの[3]
- 67/313 ・・二重結合の酸素を含有する官能基の導入によるもの, 例. カルボキシル基[3]
- 67/317 ・・水素または官能基の離脱によるもの; 官能基の水添分解によるもの[3]
- 67/32 ・・・脱カルボキシル基化[2, 3]
- 67/327 ・・・単結合の酸素を含有する官能基の離脱によるもの[3]
- 67/333 ・・異性化によるもの; 炭素骨格の大きさを変化させることによるもの (カルボキシル基の導入または離脱によるもの C07C67/313, C07C67/32) [3]
- 67/34 ・・・分子中の  基の移動 [2, 3]
- 67/343 ・・・炭素原子数が増加することによるもの[3]
- 67/347 ・・・炭素—炭素不飽和結合への付加によるもの[3]
- 67/36 ・一酸化炭素またはホルメートとの反応によるもの (C07C67/02, C07C67/03, C07C67/10 が優先) [2]
- 67/37 ・・一酸化炭素とエーテルとの反応によるもの[2]
- 67/38 ・・炭素—炭素不飽和結合への付加によるもの[2]
- 67/39 ・エステルの酸部分に変化する官能基の酸化によるもの[3]
- 67/40 ・・第一級アルコールの酸化によるもの[2, 3]
- 67/42 ・・第二級アルコールまたはケトンの酸化によるもの[2, 3]
- 67/44 ・アルデヒドの酸化—還元によるもの, 例. ティシエンコ反応[2]
- 67/46 ・ケテンまたはポリケテンからのもの[2]
- 67/465 ・低量重合によるもの[3]
- 67/47 ・テロメリ化によるもの (高分子化合物 C08) [3]
- 67/475 ・炭素—炭素結合の開裂および再分配によるもの, 例. 不均化反応または異種の分子間における  基の移動 [3]
- 67/48 ・分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用 [2, 3]
- 67/52 ・・物理状態の変化によるもの, 例. 結晶化 [3]
- 67/54 ・・・蒸留によるもの[3]
- 67/56 ・・固—液処理によるもの; 化学吸着によるもの[3]
- 67/58 ・・液—液処理によるもの[3]

- 67/60 ・化学的变化をひきおこす処理によるもの（化学吸着 C07C67/56）[3]
- 67/62 ・添加剤の使用, 例. 安定化のためのもの[3]
- 68/00 炭酸またはハロギ酸のエステルの製造[2020. 01]
- A 一酸化炭素からの
- C カルバミン酸エステル, すなわちウレタン類からの
- D 尿素からの
- Z その他のもの
- 68/01 ・一酸化炭素および酸素からの[2020. 01]
- 68/02 ・ホスゲンまたはハロホルメートからの[2]
- A ホスゲンからの
- B ハロホルメートからの
- Z その他のもの
- 68/04 ・二酸化炭素または無機カーボネートからの[2]
- A 二酸化炭素からの
- B 無機カーボネートからの
- C 二酸化炭素および無機カーボネートからの
- Z その他のもの
- 68/06 ・有機カーボネートからの[2020. 01]
- 68/065 ・アルキレンカーボネートからの[2020. 01]
- 68/08 ・精製; 分離; 安定化[2]
- 69/00 カルボン酸のエステル; 炭酸またはハロギ酸のエステル

注

このサブクラスのタイトルに続く注 (6) に注意すること。[5]

- 69/003 ・エステル化されている水酸基が非環式炭素原子に結合している飽和アルコールのエステル[3]
- A エステル化されているカルボキシル基が非環式炭素原子または水素に結合しているもの
- B ・飽和カルボン酸のエステル
- C ・不飽和カルボン酸のエステル
- D エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香族環以外の環の炭素原子に結合しているもの
- E エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香族環の炭素原子に結合しているもの
- Z その他のもの
- 69/007 ・エステル化されている水酸基が非環式炭素原子に結合している不飽和アルコールのエステル[3]
- A エステル化されているカルボキシル基が非環式炭素原子または水素に結合しているもの
- B ・飽和カルボン酸のエステル
- C ・不飽和カルボン酸のエステル

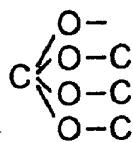
- D エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香族環以外の環の炭素原子に結合しているもの
- E エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香族環の炭素原子に結合しているもの
- Z その他のもの
- 69/01 ・ビニルエステル[3]
- 69/013 ・エステル化されている水酸基が 6 員芳香族環以外の環の炭素原子に結合しているアルコールのエステル[3]
- A エステル化されているカルボキシル基が非環式炭素原子または水素に結合しているもの
- B ・飽和カルボン酸のエステル
- C ・不飽和カルボン酸のエステル
- D エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香族環以外の環の炭素原子に結合しているもの
- E エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香族環の炭素原子に結合しているもの
- Z その他のもの
- 69/017 ・エステル化されている水酸基が 6 員芳香族環の炭素原子に結合しているヒドロキシ化合物のエステル[3]
- A エステル化されているカルボキシル基が非環式炭素原子または水素に結合しているもの
- B ・飽和カルボン酸のエステル
- C ・不飽和カルボン酸のエステル
- D エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香族環以外の環の炭素原子に結合しているもの
- E エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香族環の炭素原子に結合しているもの
- Z その他のもの

注

・択一的に特定された酸部分をもつエステル, すなわち 69/02, 69/34, 69/52, 69/608, 69/612, 69/62, 69/66, 69/74, 69/76, 69/95, 69/96 の 2 以上のグループに包含されるエステルは, それらのアルコール部分に応じて 69/003 から 69/017 までのグループに包含される。[3]

- 69/02 ・カルボキシル基が非環式炭素原子または水素に結合している非環式飽和一塩基酸のエステル
- 69/025 ・エステル化されている水酸基が非環式炭素原子に結合している不飽和アルコールでエステル化されているもの[3]
- A 不飽和アルコールが環を含むもの
- Z その他のもの
- 69/03 ・エステル化されている水酸基が 6 員芳香族環以外の環の炭素原子に結合しているもの

	香環以外の環の炭素原子に結合しているアルコールでエステル化されているもの[3]		飽和カルボン酸のエステル[3]
69/035	・ ・ エステル化されている水酸基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているヒドロキシ化合物でエステル化されているもの[3]	69/527	・ ・ 不飽和ヒドロキシ化合物の[3]
69/04	・ ・ ぎ酸エステル	69/533	・ ・ 炭素—炭素二重結合を 1 個もつ一塩基酸のエステル[3]
69/06	・ ・ ・ 1 個の水酸基を有する化合物の	69/54	・ ・ ・ アクリル酸エステル;メタクリル酸エステル[3]
69/07	・ ・ ・ ・ 不飽和アルコールのもの[2]	A	多価カルボン酸を併用したもの
69/08	・ ・ ・ 2 個の水酸基を有する化合物の	B	環に結合した水酸基によってエステル化されているもの
69/10	・ ・ ・ 3 個の水酸基を有する化合物の	Z	その他のもの
69/12	・ ・ 酢酸エステル	69/56	・ ・ ・ クロトン酸エステル;ビニル酢酸エステル[3]
69/14	・ ・ ・ 1 個の水酸基を有する化合物の	69/58	・ ・ ・ 酸部分に 18 個の炭素原子をもつ直鎖カルボン酸のエステル[3]
69/145	・ ・ ・ ・ 不飽和アルコールのもの[2]	69/587	・ ・ 炭素—炭素二重結合を少なくとも 2 個有する一塩基酸のエステル[3]
69/15	・ ・ ・ ・ ・ 酢酸ビニル[2]	69/593	・ ・ 炭素—炭素二重結合を 1 個有する二塩基酸のエステル[3]
69/155	・ ・ ・ ・ ・ 酢酸アリル[2]	69/60	・ ・ ・ マレイン酸エステル;フマル酸エステル[3]
69/157	・ ・ ・ ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[3]	69/602	・ ・ 炭素—炭素二重結合を少なくとも 2 個有する二塩基酸のエステル[3]
69/16	・ ・ ・ 2 個の水酸基を有する化合物の	69/604	・ ・ 多塩基酸のエステル, 酸部分に 3 個以上のカルボキシル基を含有するもの[3]
69/18	・ ・ ・ 3 個の水酸基を有する化合物の	69/606	・ ・ カルボン酸部分に不飽和結合として炭素—炭素三重結合のみを有するもの[3]
69/21	・ ・ ・ 4 個以上の水酸基を有する化合物の[2]	69/608	・ カルボキシル基が非環式炭素原子に結合し, 酸部分に 6 員芳香環以外の環を有するカルボン酸のエステル[3]
69/22	・ ・ 酸部分に 3 個以上の炭素原子をもつものの	69/612	・ カルボキシル基が非環式炭素原子に結合し, 酸部分に 6 員芳香環を有するカルボン酸のエステル[3]
69/24	・ ・ ・ 1 個の水酸基を有する化合物でエステル化されているもの	69/614	・ ・ フェニル酢酸の[3]
69/26	・ ・ ・ ・ 合成ろう	69/616	・ ・ 多環式のもの[3]
69/28	・ ・ ・ 2 個の水酸基を有する化合物でエステル化されているもの	69/618	・ ・ 6 員芳香環以外に不飽和結合をもつものの[3]
69/30	・ ・ ・ 3 個の水酸基を有する化合物でエステル化されているもの	69/62	・ ハロゲン含有エステル[2]
69/33	・ ・ ・ 4 個以上の水酸基を有する化合物でエステル化されているもの[2]	69/63	・ ・ 飽和酸のもの[2]
69/34	・ エステル化されているカルボキシル基が非環式炭素原子に結合している非環式飽和多塩基酸のエステル[3]	69/635	・ ・ ・ 酸部分に環を含有するもの[3]
69/347	・ ・ エステル化されている水酸基が非環式炭素原子に結合している不飽和アルコールでエステル化されているもの[3]	69/65	・ ・ 不飽和酸のもの[2]
69/353	・ ・ エステル化されている水酸基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているヒドロキシ化合物でエステル化されているもの[3]	69/653	・ ・ ・ アクリル酸エステル;メタクリル酸エステル;ハロアクリル酸エステル;ハロメタクリル酸エステル[3]
69/36	・ ・ しゅう酸エステル[3]	69/657	・ ・ ・ マレイン酸エステル;フマル酸エステル;ハロマレイン酸エステル;ハロフマル酸エステル[3]
69/38	・ ・ マロン酸エステル[3]	69/66	・ エステル化されているカルボキシル基が非環式炭素原子に結合し, 酸部分に OH, O—金属, —CHO, ケト, エーテル, アシルオキシ,
69/40	・ ・ こはく酸エステル[3]		$\begin{array}{c} \diagup \text{C} \diagdown \text{O} \\ \diagdown \text{O} \diagup \text{C} \end{array}$ 基,
69/42	・ ・ グルタル酸エステル[3]		$\begin{array}{c} \text{O} \\ \diagdown \text{C} \diagup \text{O} \\ \diagup \text{O} \diagdown \text{C} \end{array}$
69/44	・ ・ アジピン酸エステル[3]		
69/46	・ ・ ピメリン酸エステル[3]		
69/48	・ ・ アゼライン酸エステル[3]		
69/50	・ ・ セバシン酸エステル[3]		
69/52	・ エステル化されているカルボキシル基が非環式炭素原子に結合している非環式不		

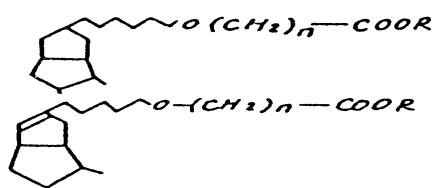


基または $\text{O}-\text{C}$ 基のいずれかをもつカルボン酸のエステル

- 69/67 ・ ・ 飽和酸のもの[2]
 69/675 ・ ・ ・ 飽和ヒドロキシカルボン酸の[3]
 69/68 ・ ・ ・ ・ 乳酸エステル[3]
 69/70 ・ ・ ・ ・ 酒石酸エステル[3]
 69/704 ・ ・ ・ ・ クエン酸エステル[3]
 69/708 ・ ・ ・ エーテル[3]

A フッ素原子を含有する飽和酸のもの

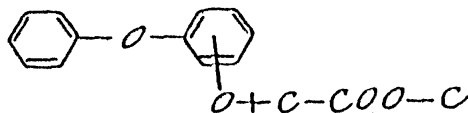
B エステルの水酸基が、ビシクロオクタン環またはビシクロオクテン環を含有するヒドロキシ化合物でエーテル化されているもの



Z その他のもの

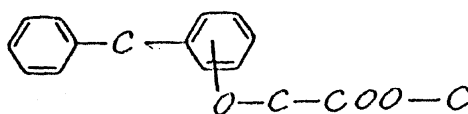
- 69/712 ・ ・ ・ ・ エーテルの水酸基が 6 員芳香環の炭素原子に結合する水酸基をもつヒドロキシ化合物でエーテル化されているもの[3]

A



骨格をもつもの

B

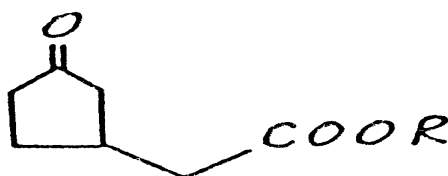


骨格をもつもの

Z その他のもの

- 69/716 ・ ・ ・ ケトカルボン酸のエステル[3]

A シクロペンタノン環を含むカルボン酸のエステル



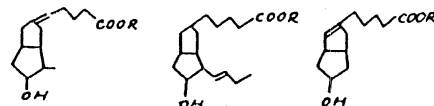
Z その他のもの

- 69/72 ・ ・ ・ アセト酢酸エステル[3]

- 69/73 ・ ・ 不飽和酸のもの[2]

- 69/732 ・ ・ ・ 不飽和ヒドロキシカルボン酸の[3]

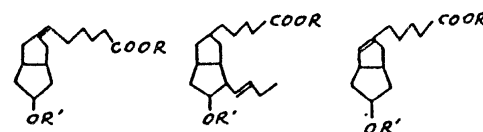
A ビシクロオクタン環またはビシクロオクテン環を有するカルボン酸の



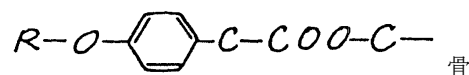
Z その他のもの

- 69/734 ・ ・ ・ エーテル[3]

A ビシクロオクタン環またはビシクロオクテン環を含むカルボン酸の



B



骨

格をもつもの

Z その他のもの

- 69/736 ・ ・ ・ ・ エーテルの水酸基が 6 員芳香環の炭素原子に結合する水酸基をもつヒドロキシ化合物でエーテル化されているもの[3]

- 69/738 ・ ・ ・ ケトカルボン酸のエステル[3]

A シクロペンタノン環またはシクロペンテン環を含むカルボン酸のエステル



Z その他のもの

- 69/74 ・ エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているカルボン酸のエステル

A 製法に特徴を有するもの

Z その他のもの

- 69/743 ・ ・ 3 員環を有し、環以外に不飽和結合を有する酸の[3]

- 69/747 ・ ・ ・ 菊酸エステル[3]

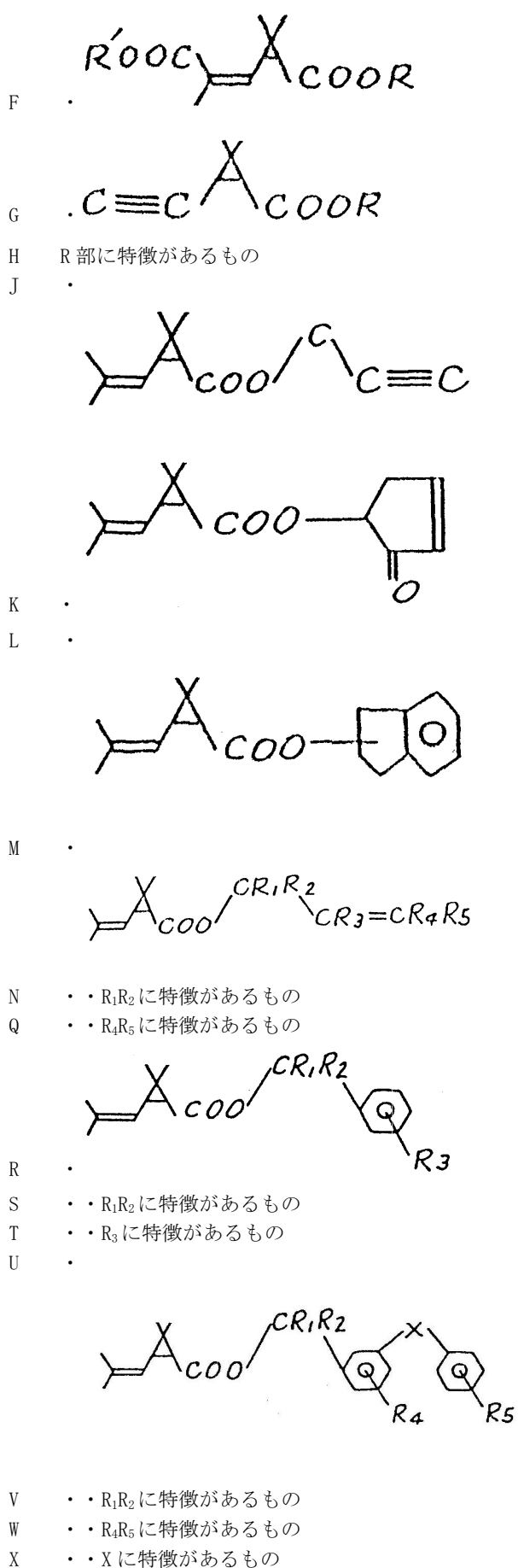
A 1 位に特徴があるもの

B 2 位に特徴があるもの

C 3 位に特徴があるもの

D 1' 位に特徴があるもの

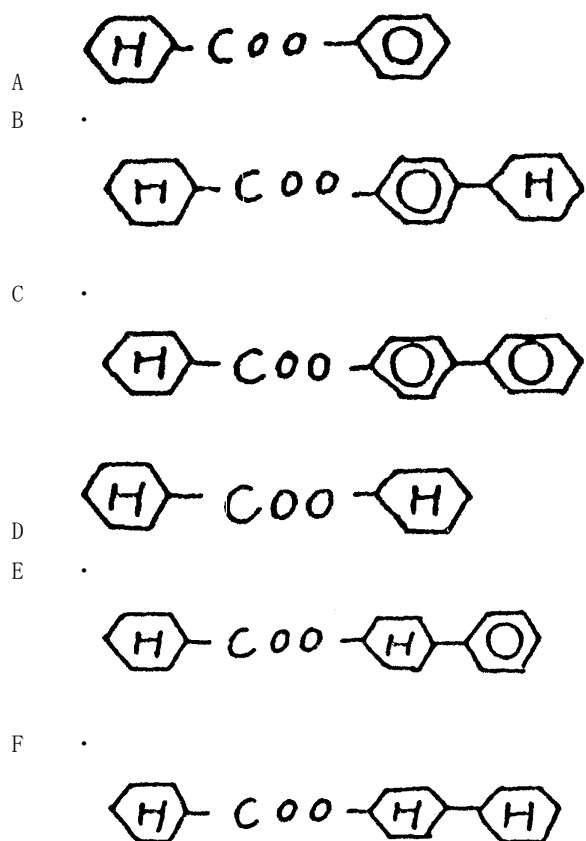
E 2' 位に特徴があるもの



Y • R がその他のもの

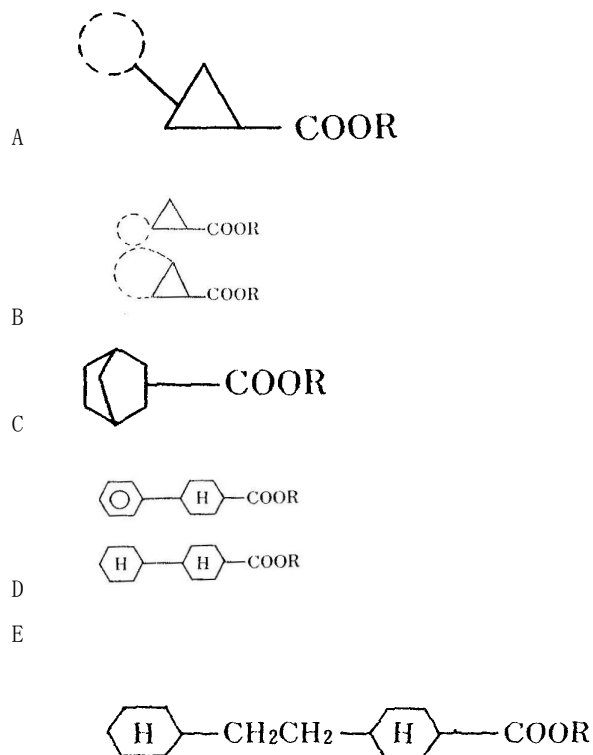
Z その他のもの

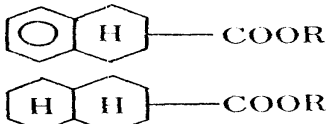
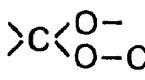
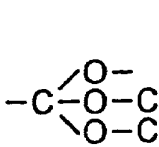
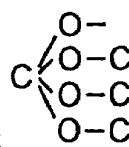
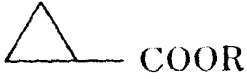
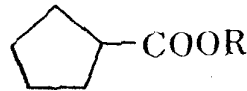
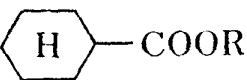
69/75 • • 6 員環を有する酸の[3]



Z その他のもの

69/753 • • 多環式酸の[3]



- F 
- Z その他のもの
- 69/757 ・ ・ 酸部分に OH, O—金属, —CHO, ケト, エーテル, アシルオキシ, 
- 基,  基または 
- 基のいずれかの基をもつもの[3]
- A 
- B 
- C 
- Z その他のもの
- 69/76 ・ ・ エステル化されているカルボキシル基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているカルボン酸のエステル
- A 多環式酸の
- Z その他のもの
- 69/767 ・ ・ エステル化されている水酸基が非環式炭素原子に結合している不飽和アルコールでエステル化されているもの[3]
- 69/773 ・ ・ エステル化されている水酸基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているヒドロキシ化合物でエステル化されているもの[3]
- 69/78 ・ ・ 安息香酸エステル
- 69/80 ・ ・ フタル酸エステル[2]
- A 一価アルコールのエステル
- B 多価アルコールのエステル
- Z その他のもの
- 69/82 ・ ・ ・ テレフタル酸エステル
- A 一価アルコールのエステル
- B 多価アルコールのエステル
- Z その他のもの
- 69/83 ・ ・ ・ 不飽和アルコールのエステル[2]
- 69/84 ・ ・ 水酸基とカルボキシル基がともに 6 員芳香環の炭素原子に結合している単環式ヒドロキシカルボン酸の

- 69/86 ・ ・ ・ エステル化された水酸基をもつもの
- 69/88 ・ ・ ・ エステル化されたカルボキシル基をもつもの
- 69/90 ・ ・ ・ エステル化された水酸基とカルボキシル基をもつもの
- 69/92 ・ ・ ・ エーテル化された水酸基をもつもの[2]
- 69/94 ・ ・ 水酸基とカルボキシル基がともに 6 員芳香環の炭素原子に結合している多環式ヒドロキシカルボン酸の[2]
- 69/95 ・ キノンカルボン酸のエステル[2]
- 69/96 ・ 炭酸またはハロギ酸のエステル[2]
- A ハロギ酸のエステル
- Z その他のもの
- 71/00 ハロゲンのオキシ酸のエステル

炭素および窒素を含有し、水素、ハロゲンまたは酸素を有するかまたは有しない化合物[5]

- 201/00 硝酸もしくは亜硝酸のエステルまたは炭素骨格に結合しているニトロまたはニトロソ基を含有する化合物の製造[5]
- 201/02 ・ 硝酸エステルの製造[5]
- 201/04 ・ 亜硝酸エステルの製造[5]
- 201/06 ・ ニトロ化合物の製造[5]
- 201/08 ・ ・ 水素原子をニトロ基で置換するもの[5]
- 201/10 ・ ・ 官能基をニトロ基で置換するもの[5]
- 201/12 ・ ・ ニトロ基の形成が関与しない反応によるもの[5]
- 201/14 ・ ・ ニトロ基の形成が関与しない反応とニトロ基の形成反応が同時に起こるもの[5]
- 201/16 ・ ・ 分解; 精製; 安定化; 添加剤の使用[5]
- 203/00 硝酸または亜硝酸のエステル[5]
- 203/02 ・ 硝酸のエステル[5]
- 203/04 ・ ・ 非環式炭素原子に結合している硝酸基をもつもの[5]
- 203/06 ・ ・ ・ 三硝酸グリセリン[5]
- 203/08 ・ ・ 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合している硝酸基をもつもの[5]
- 203/10 ・ ・ 6 員芳香環の炭素原子に結合している硝酸基をもつもの[5]
- 205/00 炭素骨格に結合しているニトロ基を含有する化合物[5]
- 205/01 ・ 非環式炭素原子に結合しているニトロ基をもつもの[5]
- 205/02 ・ ・ 飽和炭素骨格の[5]
- 205/03 ・ ・ 不飽和炭素骨格の[5]
- 205/04 ・ ・ ・ 6 員芳香環を含有するもの[5]
- 205/05 ・ 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているニトロ基をもつもの[5]
- 205/06 ・ 6 員芳香環の炭素原子に結合しているニ

	トロ基をもつもの[5]		の[5]
205/07	・炭素骨格がさらにハロゲン原子で置換されているもの[5]	205/32	・非環式炭素原子に結合しているニトロ基と炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているエーテル化された水酸基をもつもの[5]
205/08	・非環式炭素原子に結合しているニトロ基をもつもの[5]		
205/09	・不飽和炭素骨格の[5]	205/33	・炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているニトロ基またはエーテル化された水酸基をもつもの[5]
205/10	・6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているニトロ基をもつもの[5]		
205/11	・6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基をもつもの[5]	205/34	・6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基と炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているエーテル化された水酸基をもつもの[5]
205/12	・6 員芳香環または縮合環系がハロゲン原子で置換されているもの[5]		
205/13	・炭素骨格がさらに水酸基で置換されているもの[5]	205/35	・炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基とエーテル化された水酸基をもつもの[5]
205/14	・非環式炭素原子に結合しているニトロ基と水酸基をもつもの[5]	205/36	・同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子または同じ縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
205/15	・飽和炭素骨格の[5]		
205/16	・6 員芳香環を含有する炭素骨格の[5]	205/37	・1 個以上のエーテル化された水酸基の酸素原子がさらに非環式炭素原子に結合しているもの[5]
205/17	・非環式炭素原子に結合しているニトロ基と 6 員芳香環の炭素原子に結合している水酸基をもつもの[5]	205/38	・1 個以上のエーテル化された水酸基の酸素原子がさらに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの, 例. ニトロジフェニルエーテル[5]
205/18	・6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているニトロ基または水酸基をもつもの[5]	205/39	・炭素骨格がさらにエステル化された水酸基で置換されているもの[5]
205/19	・6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基と非環式炭素原子に結合している水酸基をもつもの[5]	205/40	・炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているニトロ基とエステル化された水酸基をもつもの[5]
205/20	・6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基と水酸基をもつもの[5]	205/41	・炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているニトロ基またはエステル化された水酸基をもつもの[5]
205/21	・同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基と水酸基をもつもの[5]	205/42	・炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基またはエステル化された水酸基をもつもの[5]
205/22	・環に結合している 1 個のニトロ基をもつもの[5]	205/43	・同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子または同じ縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
205/23	・環に結合している 2 個のニトロ基をもつもの[5]	205/44	・炭素骨格がさらに—CHO 基で置換されているもの[5]
205/24	・環に結合している 3 個のニトロ基をもつもの[5]	205/45	・炭素骨格がさらに—CHO 基の一部ではない少なくとも 1 個の二重結合の酸素原子で置換されているもの[5]
205/25	・縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基をもつもの[5]	205/46	・炭素骨格がキノン環の炭素原子を含有するもの[5]
205/26	・そしてさらにハロゲン原子で置換されているもの[5]	205/47	・ニトロ基を含有するアントラキノ[5]
205/27	・炭素骨格がさらにエーテル化された水酸基で置換されているもの[5]	205/48	・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されているもの[5]
205/28	・炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているニトロ基とエーテル化された水酸基をもつもの[5]	205/49	・炭素骨格がさらにカルボキシル基で置換されているもの[5]
205/29	・炭素骨格が飽和であるもの[5]	205/50	・炭素骨格の非環式炭素原子に結合して
205/30	・少なくとも 1 個のエーテル化された水酸基の酸素原子がさらに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]		
205/31	・炭素骨格が 6 員芳香環を含有するも		

	いるニトロ基とカルボキシル基をもつもの[5]		
205/51	・炭素骨格が飽和のもの[5]	209/18	・6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基を形成するものまたは 6 員芳香環の炭素原子に結合している窒素原子をもつアミンからのもの[5]
205/52	・ニトロ酢酸[5]		
205/53	・炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの[5]	209/20	・第 4 アンモニウム化合物の形成によるもの[5]
205/54	・炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているニトロ基と 6 員芳香環の炭素原子に結合しているカルボキシル基をもつもの[5]	209/22	・他の官能基を置換するもの[5]
205/55	・炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているニトロ基またはカルボキシル基をもつもの[5]	209/24	・アンモニア, アミンまたはアミノ基に還元可能な官能基をもつ化合物のカルボニル化合物による還元アルキル化によるもの[5]
205/56	・炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基と非環式炭素原子に結合しているカルボキシル基をもつもの[5]	209/26	・水素による還元によるもの[5]
205/57	・炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基とカルボキシル基をもつもの[5]	209/28	・他の還元剤による還元によるもの[5]
205/58	・炭素骨格がさらにハロゲン原子で置換されているもの[5]	209/30	・窒素—酸素結合または窒素—窒素結合の還元によるもの[5]
205/59	・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されているもの[5]	209/32	・ニトロ基の還元によるもの[5]
205/60	・カルボキシル基のオルト位にあるもの, 例. ニトロ—サリチル酸[5]	209/34	・非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素に結合しているニトロ基の還元によるもの[5]
205/61	・炭素骨格がさらに二重結合の酸素原子で置換されているもの[5]	209/36	・6 員芳香環の炭素原子に結合しているニトロ基の還元によるもの[5]
207/00	炭素骨格に結合しているニトロソ基を含有する化合物[5]	209/38	・ニトロソ基の還元によるもの[5]
207/02	・炭素骨格がさらに置換されていないもの[5]	209/40	・ヒドロキシルアミノ基またはオキシイミノ基の還元によるもの[5]
207/04	・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されているもの[5]	209/42	・窒素—窒素結合の還元によるもの[5]
209/00	炭素骨格に結合しているアミノ基を含有する化合物の製造[5]	209/44	・カルボン酸またはそのエステル、アンモニアまたはアミン存在下における還元によるもの, またはニトリル、カルボン酸アミド、イミンまたはイミノ—エーテルの還元によるもの[5]
209/02	・水素原子をアミノ基で置換するもの[5]	209/46	・カルボン酸またはそのエステル、アンモニアまたはアミン存在下における還元によるもの[5]
209/04	・官能基をアミノ基で置換するもの[5]	209/48	・ニトリルの還元によるもの[5]
209/06	・ハロゲン原子を置換するもの[5]	209/50	・カルボン酸アミドの還元によるもの[5]
209/08	・非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基を形成するもの[5]	209/52	・イミンまたはイミノ—エーテルの還元によるもの (C07C209/24 優先) [5]
209/10	・6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基を形成するものまたは 6 員芳香環の炭素原子に結合している窒素原子をもつアミンからのもの[5]	209/54	・転位反応によるもの[5]
209/12	・第 4 アンモニウム化合物の形成によるもの[5]	209/56	・ホフマン、クルチウス、シュミットまたはロッセン型の転位が関与するカルボン酸からのもの[5]
209/14	・水酸基またはエーテル化もしくはエステル化された水酸基を置換するもの[5]	209/58	・アミドからのものまたはアミドを経由するもの[5]
209/16	・非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基の形成によるもの[5]	209/60	・縮合反応または付加反応によるもの, 例. マンニッヒ反応, アルケンまたはアルキンへのアンモニアまたはアミンの付加, シッフ塩基, キノンイミンまたはアジランへの活性水素原子を含有する化合物の付加[5]
		209/62	・炭素—窒素結合, 硫黄—窒素結合またはリン—窒素結合の開裂によるもの, 例. アミドの加水分解, アミンまたは 4 級アンモニウム化合物の N—脱アルキル化

	(C07C209/24 優先) [5]		ているもの[5]
209/64	・不均化によるもの[5]	211/16	・ 6 員芳香環以外の環を含有する飽和炭素骨格の[5]
209/66	・有機金属化合物からのものまたは有機金属化合物を経由するもの[5]	211/17	・ ・ ・ 非縮合環のみを含有するもの[5]
209/68	・アミノ基の関与しない反応によるアミノからのもの, 例. 不飽和アミンの還元, 芳香族化または炭素骨格の置換[5]	211/18	・ ・ ・ 炭素骨格に結合している少なくとも 2 個のアミノ基を含有するもの[5]
209/70	・ 不飽和アミンの還元によるもの[5]	211/19	・ ・ ・ 縮合環系を含有するもの[5]
209/72	・ ・ ・ 6 員芳香環の還元によるもの[5]	211/20	・ 非環式不飽和炭素骨格の[5]
209/74	・ ・ ハロゲン化, ハロゲン化水素化, 脱ハロゲン化または脱ハロゲン化水素化によるもの[5]	211/21	・ ・ ・ モノアミン[5]
209/76	・ ・ ニトロ化によるもの[5]	211/22	・ ・ ・ 炭素骨格に結合している少なくとも 2 個のアミノ基を含有するもの[5]
209/78	・ ・ カルボニル化合物, 例. ホルムアルデヒド, と 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつアミンからメチレン—ジアリールアミンを形成するもの[5]	211/23	・ ・ ・ 炭素骨格が炭素—炭素三重結合を含有するもの[5]
209/80	・光化学反応によるもの;遊離基を用いるもの[5]	211/24	・ ・ ・ 炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]
209/82	・精製;分離;安定化;添加剤の使用[5]	211/25	・ 6 員芳香環以外の環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
209/84	・ ・ 精製[5]	211/26	・ 少なくとも 1 個の 6 員芳香環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
209/86	・ ・ 分離[5]	211/27	・ ・ ・ 飽和炭素鎖によって 6 員芳香環に結合しているアミノ基をもつもの[5]
209/88	・ ・ ・ 光学異性体の分離[5]	211/28	・ ・ ・ 不飽和炭素鎖によって 6 員芳香環に結合しているアミノ基をもつもの[5]
209/90	・ ・ 安定化;添加物の使用[5]	211/29	・ ・ ・ 炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]
211/00	炭素骨格に結合しているアミノ基を含有する化合物[5]	211/30	・ ・ ・ 6 員芳香環が 2 個の環からなる縮合環系の一部であるもの[5]
211/01	・非環式炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの[5]	211/31	・ ・ ・ 6 員芳香環が少なくとも 3 個の環からなる縮合環系の一部であるもの[5]
211/02	・ ・ 非環式飽和炭素骨格の[5]	211/32	・ ・ ・ ・ ジベンゾシクロヘプタンまたはジベンゾシクロヘプテン環系またはそれらの縮合誘導体を含有するもの[5]
211/03	・ ・ ・ モノアミン[5]	211/33	・ 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの[5]
211/04	・ ・ ・ ・ モノ—, ジ—, またはトリ—メチルアミン[5]	211/34	・ 飽和炭素骨格の[5]
211/05	・ ・ ・ ・ モノ—, ジ—, またはトリ—エチルアミン[5]	211/35	・ ・ ・ 非縮合環のみを含有するもの[5]
211/06	・ ・ ・ ・ n—またはイソ—プロピル基のみを含有するもの[5]	211/36	・ ・ ・ 炭素骨格に結合している少なくとも 2 個のアミノ基を含有するもの[5]
211/07	・ ・ ・ ・ 1 個, 2 個または 3 個のアルキル基を含有し, そのアルキル基のそれぞれが 3 個を超える同数の炭素原子をもつもの[5]	211/37	・ ・ ・ 炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]
211/08	・ ・ ・ ・ 異なった数の炭素原子をもつアルキル基を含有するもの[5]	211/38	・ ・ ・ 縮合環系を含有するもの[5]
211/09	・ ・ ・ ・ ジアミン[5]	211/39	・ 不飽和炭素骨格の[5]
211/10	・ ・ ・ ・ ジアミノエタン[5]	211/40	・ ・ ・ 非縮合環のみを含有するもの[5]
211/11	・ ・ ・ ・ ジアミノプロパン[5]	211/41	・ ・ ・ 縮合環系を含有するもの[5]
211/12	・ ・ ・ ・ 1, 6—ジアミノヘキサン[5]	211/42	・ ・ ・ ・ 6 員芳香環が縮合環系の一部となっているもの[5]
211/13	・ ・ ・ 炭素骨格に結合している 3 個以上のアミノ基を含有するアミン[5]	211/43	・炭素骨格の 6 員芳香環系の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの[5]
211/14	・ ・ ・ 少なくとも 2 個のアミノアルキル基に結合しているアミノ基を含有するアミン, 例. ジエチレントリアミン[5]	211/44	・ ・ ただ 1 個の 6 員芳香環に結合しているアミノ基をもつもの[5]
211/15	・ ・ ・ 炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換され		

211/45	・ ・ ・モノアミン[5]		化またはエステル化が関与する反応によるもの[5]
211/46	・ ・ ・アニリン[5]		
211/47	・ ・ ・トルイジン;その同族体[5]	213/08	・アミノ基, 水酸基またはエーテル化もしくはエステル化された水酸基のいずれの形成も関与しない反応によるもの[5]
211/48	・ ・ ・N—アルキル化アミン[5]	213/10	・分離;精製;安定化;添加剤の使用[5]
211/49	・ ・ ・炭素骨格に結合している少なくとも2個のアミノ基をもつもの[5]	215/00	同じ炭素骨格に結合しているアミノ基と水酸基を含有する化合物[5]
211/50	・ ・ ・炭素骨格の6員芳香環の炭素原子に結合している少なくとも2個のアミノ基をもつもの[5]	215/02	・同じ炭素骨格の非環式炭素原子に結合している水酸基とアミノ基をもつもの[5]
211/51	・ ・ ・ ・フェニレンジアミン[5]	215/04	・炭素骨格が飽和のもの[5]
211/52	・ ・ ・炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]	215/06	・ ・ ・そして非環式のもの[5]
211/53	・ ・ ・さらにアミノ基置換炭化水素基に結合している少なくとも1個のアミノ基の窒素原子をもつもの[5]	215/08	・ ・ ・炭素骨格に結合しているただ1個の水酸基と1個のアミノ基を有するもの[5]
211/54	・ ・ 2個または3個の6員芳香環に結合しているアミノ基をもつもの[5]	215/10	・ ・ ・炭素骨格に結合している1個のアミノ基と少なくとも2個の水酸基を有するもの[5]
211/55	・ ・ ・ジフェニルアミン[5]	215/12	・ ・ ・アミノ基の窒素原子がさらに水酸基で置換された炭化水素基に結合しているもの[5]
211/56	・ ・ ・炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]	215/14	・ ・ ・アミノ基の窒素原子がさらにアミノ基で置換された炭化水素基に結合しているもの[5]
211/57	・炭素骨格の縮合環系の一部である6員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの[5]	215/16	・ ・ ・アミノ基の窒素原子がさらに6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
211/58	・ ・ ・ナフチルアミン;そのN—置換誘導体[5]	215/18	・ ・ ・炭素骨格に結合している水酸基と少なくとも2個のアミノ基を有するもの[5]
211/59	・ ・ ・炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]	215/20	・ ・ ・炭素骨格が飽和で環を含有するもの[5]
211/60	・ ・ ・少なくとも1個の縮合環系の一部を形成している6員芳香環以外の環を含有するもの[5]	215/22	・炭素骨格が不飽和のもの[5]
211/61	・ ・ ・少なくとも1個の縮合環系が3個以上の環で形成されているもの[5]	215/24	・ ・ ・そして非環式のもの[5]
211/62	・4級アンモニウム化合物[5]	215/26	・ ・ ・そして6員芳香環以外の環を含有するもの[5]
211/63	・非環式炭素原子に結合している4級窒素原子をもつもの[5]	215/28	・ ・ ・そして6員芳香環を含有するもの[5]
211/64	・6員芳香環の炭素原子に結合している4級窒素原子をもつもの[5]	215/30	・ ・ ・炭素骨格の同じ炭素原子に結合している水酸基と6員芳香環の炭素原子を含有するもの[5]
211/65	・アミンの金属錯体[5]	215/32	・ ・ ・炭素骨格の同じ炭素原子に結合している水酸基と2個の6員芳香環の炭素原子を含有するもの[5]
213/00	同じ炭素骨格に結合しているアミノ基と水酸基, アミノ基とエーテル化された水酸基またはアミノ基とエステル化された水酸基を含有する化合物の製造[5]	215/34	・ ・ ・炭素骨格の同じ炭素原子に結合している水酸基と6員芳香環の炭素原子を含有し, さらに炭素骨格の別の炭素原子に結合している水酸基を少なくとも1個含有するもの[5]
213/02	・水酸基またはエーテル化もしくはエステル化された水酸基を含有する化合物からのアミノ基の形成が関与する反応によるもの[5]	215/36	・ ・ ・ ・1—アリール—2—アミノ—1,3—プロパンジオール[5]
213/04	・アンモニアまたはアミンと, オレフィンオキシドまたはハロヒドリンの反応によるもの[5]	215/38	・ ・ ・炭素骨格の一部である6員芳香環以外の環を有するもの[5]
213/06	・ヒドロキシアミンから水酸基のエーテル	215/40	・炭素骨格の炭素原子に結合している4

	級窒素原子を有するもの[5]	215/74	・ 同じ炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合している水酸基とアミノ基をもつもの[5]
215/42	・ 同じ炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基または水酸基をもつもの[5]	215/76	・ ・ 同じ非縮合 6 員芳香環の[5]
215/44	・ ・ 同じ環または同じ縮合環系の炭素原子に結合しているもの[5]	215/78	・ ・ ・ 炭素骨格に結合している水酸基を少なくとも 2 個含有するもの[5]
215/46	・ 6 員芳香環の炭素原子に結合している少なくとも 1 個の水酸基と、同じ炭素骨格の非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの[5]	215/80	・ ・ ・ 炭素骨格に結合しているアミノ基を少なくとも 2 個含有するもの[5]
215/48	・ ・ 6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系に、それ以上水酸基で置換されていない炭素鎖で結合されているアミノ基を有するもの[5]	215/82	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のアミノ基の窒素原子がさらに他の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
215/50	・ ・ ・ 炭素鎖の同じ炭素原子に結合しているアミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系を有するもの[5]	215/84	・ ・ 縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの[5]
215/52	・ ・ ・ アミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系が 2 個の炭素原子をもつ炭素鎖で結合されているもの[5]	215/86	・ ・ ・ 2 個の環からなるもの[5]
215/54	・ ・ ・ アミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系が 3 個以上の炭素原子をもつ炭素鎖で結合されているもの[5]	215/88	・ ・ ・ 少なくとも 3 個の環からなるもの[5]
215/56	・ ・ 6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系にさらに水酸基で置換された炭素鎖で結合されているアミノ基を有するもの[5]	215/90	・ ・ 炭素骨格に結合している 4 級化アミノ基を有するもの[5]
215/58	・ ・ ・ 炭素鎖の同じ炭素原子に結合している水酸基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系を有するもの[5]	217/00	同じ炭素骨格に結合しているアミノ基とエーテル化された水酸基を含有する化合物[5]
215/60	・ ・ ・ ・ アミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系の間の炭素鎖が 2 個の炭素原子をもつもの[5]	217/02	・ 同じ炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているエーテル化された水酸基とアミノ基をもつもの[5]
215/62	・ ・ ・ ・ アミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系の間の炭素鎖が少なくとも 3 個の炭素原子をもつもの[5]	217/04	・ ・ 炭素骨格が非環式で飽和のもの[5]
215/64	・ ・ 炭素骨格の一部である 6 員芳香環以外の環を有するもの[5]	217/06	・ ・ ・ 炭素骨格に結合しているただ 1 個のエーテル化された水酸基と 1 個のアミノ基をもち、その炭素骨格がそれ以上置換されていないもの[5]
215/66	・ ・ 炭素骨格に結合している 4 級化アミノ基を有するもの[5]	217/08	・ ・ ・ ・ エーテル化された水酸基の酸素原子がさらに非環式炭素原子に結合しているもの[5]
215/68	・ 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基と、同じ炭素骨格の非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合している水酸基をもつもの[5]	217/10	・ ・ ・ ・ ・ 6 員芳香環を含有する炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
215/70	・ ・ 炭素骨格の一部である 6 員芳香環以外の環を有するもの[5]	217/12	・ ・ ・ ・ エーテル化された水酸基の酸素原子がさらに 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
215/72	・ ・ 炭素骨格に結合している 4 級化アミノ基を有するもの[5]	217/14	・ ・ ・ ・ エーテル化された水酸基の酸素原子がさらに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
		217/16	・ ・ ・ ・ ・ 6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系がそれ以上置換されていないもの[5]
		217/18	・ ・ ・ ・ ・ 6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系がさらに置換されているもの[5]
		217/20	・ ・ ・ ・ ・ ハロゲン原子またはトリハロメチル、ニトロもしくはニトロソ基または単結合の酸素原子によるもの[5]
		217/22	・ ・ ・ ・ ・ 酸素原子との結合を少なくとも 2 個もつ炭素原子によるもの[5]
		217/24	・ ・ ・ ・ ・ 6 員芳香環が 6 員芳香環以外の

- 環を含有する縮合環系の一部であるもの[5]
- 217/26 ・・・・炭素骨格に結合しているただ 1 個のエーテル化された水酸基と 1 個のアミノ基をもち、その炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]
- 217/28 ・・・・炭素骨格に結合している 1 個のアミノ基と少なくとも 2 個の単結合の酸素原子をもち、その酸素原子のうち少なくとも 1 個はエーテル化された水酸基の一部であるもの、例. ポリヒドロキシアミンのエーテル[5]
- 217/30 ・・・・エーテル化された水酸基の少なくとも 1 個の酸素原子がさらに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 217/32 ・・・・6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系がさらに置換されているもの[5]
- 217/34 ・・・・ハロゲン原子, トリハロメチル, ニトロもしくはニトロソ基または単結合の酸素原子によるもの[5]
- 217/36 ・・・・酸素原子との結合を少なくとも 2 個もつ炭素原子によるもの[5]
- 217/38 ・・・・6 員芳香環が 6 員芳香環以外の環を含有する縮合環系の一部であるもの[5]
- 217/40 ・・・・炭素骨格の同じ炭素原子に結合している少なくとも 2 個の単結合の酸素原子をもち、その酸素原子の少なくとも 1 個はエーテル化された水酸基の一部であるもの、例. アミノケタール, オルトエステル[5]
- 217/42 ・・・・炭素骨格に結合しているエーテル化された水酸基と少なくとも 2 個のアミノ基をもつもの[5]
- 217/44 ・炭素骨格が飽和で環を含有するもの[5]
- 217/46 ・炭素骨格が非環式で不飽和のもの[5]
- 217/48 ・炭素骨格が不飽和で環を含有するもの[5]
- 217/50 ・構造が未決定のヒドロキシアミンのエーテル, 例. エポキシドとヒドロキシアミンの反応によって得られたもの[5]
- 217/52 ・同じ炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているエーテル化された水酸基またはアミノ基をもつもの[5]
- 217/54 ・少なくとも 1 個の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているエーテル化された水酸基と、同じ炭素骨格の非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの[5]
- 217/56 ・6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系にそれ以上単結合の酸素原子
- 217/58 ・炭素鎖の同じ炭素原子に結合しているアミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する結合環系を有するもの[5]
- 217/60 ・・・・アミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系が 2 個の炭素原子をもつ炭素鎖で結合されているもの[5]
- 217/62 ・・・・アミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系が 3 個以上の炭素原子をもつ炭素鎖で結合されているもの[5]
- 217/64 ・6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系にさらに単結合の酸素原子で置換されている炭素鎖で結合されているアミノ基をもつもの[5]
- 217/66 ・・・・炭素鎖の同じ炭素原子に単結合の酸素原子と 6 員芳香環が結合しているもの[5]
- 217/68 ・・・・炭素鎖の同じ炭素原子に単結合の酸素原子, 6 員芳香環およびアミノ基が結合しているもの[5]
- 217/70 ・・・・アミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系が 2 個の炭素原子をもつ炭素鎖で結合されているもの[5]
- 217/72 ・・・・アミノ基と 6 員芳香環もしくは 6 員芳香環を含有する縮合環系が 3 個以上の炭素原子をもつ炭素鎖で結合されているもの[5]
- 217/74 ・炭素骨格の一部である 6 員芳香環以外の環を有するもの[5]
- 217/76 ・6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基と、同じ炭素骨格の非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているエーテル化された水酸基をもつもの[5]
- 217/78 ・同じ炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基とエーテル化された水酸基をもつもの[5]
- 217/80 ・非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基とエーテル化された水酸基をもつもの[5]
- 217/82 ・・・・同じ非縮合 6 員芳香環の[5]
- 217/84 ・・・・少なくとも 1 個のエーテル化された水酸基の酸素原子がさらに非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 217/86 ・・・・6 員芳香環を含有する炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 217/88 ・・・・少なくとも 1 個のエーテル化され

	た水酸基の酸素原子がさらに 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの [5]	219/26	・少なくとも 1 個の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているエステル化された水酸基と, 同じ炭素骨格の非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの [5]
217/90	・・・・少なくとも 1 個のエーテル化された水酸基の酸素原子がさらに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの, 例. アミノジフェニルエーテル [5]	219/28	・炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの [5]
217/92	・・・・少なくとも 1 個のアミノ基の窒素原子がさらに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]	219/30	・・・・6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系にさらに単結合の酸素原子で置換された炭素鎖で結合されたアミノ基をもつもの [5]
217/94	・縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基と, 同じ炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているエーテル化された水酸基をもつもの [5]	219/32	・6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基と, 同じ炭素骨格の非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているエステル化された水酸基をもつもの [5]
219/00	同じ炭素骨格に結合しているアミノ基とエステル化された水酸基を含有する化合物 [5]	219/34	・同じ炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基とエステル化された水酸基をもつもの [5]
219/02	・同じ炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているエステル化された水酸基とアミノ基をもつもの [5]	221/00	同じ炭素骨格に結合しているアミノ基と二重結合の酸素原子を含有する化合物の製造 [5]
219/04	・炭素骨格が非環式で飽和のもの [5]	223/00	同じ炭素骨格に結合しているアミノ基と—CHO 基を含有する化合物 [5]
219/06	・・・・水素原子または非環式飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているエステル化カルボキシル基をもつカルボン酸でエステル化された水酸基をもつもの [5]	223/02	・炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの [5]
219/08	・・・・非環式不飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているエステル化カルボキシル基をもつカルボン酸でエステル化された少なくとも 1 個の水酸基をもつもの [5]	223/04	・炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの [5]
219/10	・・・・環を含有する炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているエステル化カルボキシル基をもつカルボン酸でエステル化された少なくとも 1 個の水酸基をもつもの [5]	223/06	・炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの [5]
219/12	・・・・6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているエステル化カルボキシル基をもつカルボン酸でエステル化された少なくとも 1 個の水酸基をもつもの [5]	225/00	同じ炭素骨格に結合しているアミノ基と二重結合の酸素原子を含有する化合物で, 二重結合の酸素原子の少なくとも 1 個が—CHO 基の一部でないもの, 例. アミノケトン [5]
219/14	・・・・6 員芳香環の炭素原子に結合しているエステル化カルボキシル基をもつカルボン酸でエステル化された少なくとも 1 個の水酸基をもつもの [5]	225/02	・炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの [5]
219/16	・・・・無機酸またはその誘導体でエステル化された少なくとも 1 個の水酸基をもつもの [5]	225/04	・炭素骨格が飽和のもの [5]
219/18	・炭素骨格が飽和で環を含有するもの [5]	225/06	・・・・非環式のもの [5]
219/20	・炭素骨格が不飽和のもの [5]	225/08	・・・・環を含有するもの [5]
219/22	・・・・そして 6 員芳香環を含有するもの [5]	225/10	・・・・環の一部ではない炭素原子に結合している二重結合の酸素原子をもつもの [5]
219/24	・同じ炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているエステル化された水酸基またはアミノ基をもつもの [5]	225/12	・・・・環の一部である炭素原子に結合している二重結合の酸素原子をもつもの [5]
		225/14	・炭素骨格が不飽和のもの [5]
		225/16	・・・・6 員芳香環を含有するもの [5]
		225/18	・・・・炭素骨格が 6 員芳香環以外の環も含有するもの [5]
		225/20	・炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの [5]

	[5]	227/30	・光学異性体の製造[5]
225/22	・炭素骨格の6員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの[5]	227/32	・・立体特異的合成によるもの[5]
225/24	・炭素骨格がキノン環の炭素原子を含有するもの[5]	227/34	・・光学異性体の分離によるもの[5]
225/26	・・キノン環またはキノン環を含有する縮合環系の炭素原子に結合しているアミノ基をもつもの[5]	227/36	・光学異性体のラセミ化[5]
225/28	・・・非縮合キノン環のもの[5]	227/38	・分離;精製;安定化;添加剤の使用(光学異性体の分離 C07C227/34) [5]
225/30	・・・2個の環からなる縮合キノン環のもの[5]	227/40	・・分離;精製[5]
225/32	・・・少なくとも3個の環からなる縮合キノン環のもの[5]	227/42	・・・結晶化[5]
225/34	・・・・アミノアントラキノン[5]	227/44	・・安定化;添加剤の使用[5]
225/36	・・・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されているもの[5]	229/00	同じ炭素骨格に結合しているアミノ基とカルボキシル基を含有する化合物[5]
227/00	同じ炭素骨格に結合しているアミノ基とカルボキシル基を含有する化合物の製造[5]	229/02	・同じ炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているアミノ基とカルボキシル基をもつもの[5]
227/02	・アミノ基を含有する化合物におけるカルボキシル基の形成, 例. アミノアルコールの酸化[5]	229/04	・・炭素骨格が非環式で飽和のもの[5]
227/04	・カルボキシル基を含有する化合物におけるアミノ基の形成[5]	229/06	・・・炭素骨格に結合しているただ1個のアミノ基と1個のカルボキシル基をもつもの[5]
227/06	・・酸の炭素骨格の炭素原子数の増加を伴わない付加または置換反応によるもの[5]	229/08	・・・・アミノ基の窒素原子がさらに水素原子に結合しているもの[5]
227/08	・・・アンモニアまたはアミンと官能基を含有する酸との反応によるもの[5]	229/10	・・・・アミノ基の窒素原子がさらに非環式炭素原子または6員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
227/10	・・炭素骨格における炭素原子数の増加が同時におこるもの[5]	229/12	・・・・・非環式炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
227/12	・アミノ基とカルボキシル基の形成[5]	229/14	・・・・・環を含有する炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
227/14	・すでにアミノ基とカルボキシル基を含有している化合物またはその誘導体からのもの[5]	229/16	・・・・・アミノ基またはカルボキシル基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの, 例. エチレンジアミン 4 酢酸, イミノジ酢酸[5]
227/16	・・アミノ基およびカルボキシル基が関与しない反応によるもの[5]	229/18	・・・・・アミノ基の窒素原子がさらに6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
227/18	・・アミノ基またはカルボキシル基が関与する反応によるもの, 例. エステルまたはアミドの加水分解, ハライド, 塩またはエステルの形成[5]	229/20	・・・炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]
227/20	・・・N-アシル化アミノ酸またはその誘導体の加水分解によるもの, 例. カルバマーの加水分解[5]	229/22	・・・炭素骨格がさらに酸素原子で置換されているもの[5]
227/22	・ラクタム, 環式ケトンまたは環式オキシムからのもの, 例. ベックマン転位が関与する反応によるもの[5]	229/24	・・・炭素骨格に結合している2個以上のカルボキシル基をもつもの, 例. アスパラギン酸[5]
227/24	・ヒダントインからのもの[5]	229/26	・・・炭素骨格に結合している2個以上のアミノ基をもつもの, 例. リジン[5]
227/26	・カルボキシル基を含有する化合物とHCNもしくはその塩およびアミンとの反応によるもの, またアミノニトリルからのもの[5]	229/28	・・炭素骨格が飽和で環を含有するもの[5]
227/28	・天然物からのもの[5]	229/30	・・炭素骨格が非環式で不飽和のもの[5]
		229/32	・・炭素骨格が不飽和で, 6員芳香環以外の環を含有するもの[5]
		229/34	・・炭素骨格が6員芳香環を含有するもの[5]
		229/36	・・・炭素骨格の同じ炭素原子に結合している少なくとも1個のアミノ基と1個のカルボキシル基をもつもの[5]

229/38	・ 同じ炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているアミノ基と 6 員芳香環の炭素原子に結合しているカルボキシル基をもつもの[5]		ンカルボン酸[5]
229/40	・ 同じ炭素骨格の少なくとも 1 個の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基と、非環式炭素原子に結合しているカルボキシル基をもつもの[5]	229/76	・ アミノカルボン酸の金属錯体[5]
229/42	・ ・ 6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系に、飽和炭素鎖で連結しているカルボキシル基をもつもの[5]	231/00	カルボン酸アミドの製造[5]
229/44	・ ・ 6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系に、不飽和炭素鎖で連結しているカルボキシル基をもつもの[5]	231/02	・ アンモニアまたはアミンとの反応によるカルボン酸そのエステル、無水物またはハロゲン化物からの製造[5]
229/46	・ 同じ炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているアミノ基またはカルボキシル基をもつもの[5]	231/04	・ アンモニアまたはアミンとの反応によるケテンからの製造[5]
229/48	・ ・ 同じ非縮合環の炭素原子に結合しているアミノ基とカルボキシル基をもつもの[5]	231/06	・ シアノ基のカルボン酸アミド基への変換によるニトリルからの製造[5]
229/50	・ ・ 同じ縮合環系の一部である炭素原子に結合しているアミノ基とカルボキシル基をもつもの[5]	231/08	・ カルボン酸アミド基の窒素原子における反応によるアミドからの製造[5]
229/52	・ 同じ炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基とカルボキシル基をもつもの[5]	231/10	・ C07C231/02-C07C231/08 に含まれない化合物からの製造[5]
229/54	・ ・ 同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基とカルボキシル基をもつもの[5]	231/12	・ カルボン酸アミド基の形成の関与しない反応による製造[5]
229/56	・ ・ ・ オルト位に結合しているアミノ基とカルボキシル基をもつもの[5]	231/14	・ カルボン酸アミド基の形成の関与しない反応を伴う、カルボン酸アミド基の形成による製造[5]
229/58	・ ・ ・ ・ 少なくとも 1 個のアミノ基の窒素原子がさらに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの、例. N-フェニル-アントラニル酸[5]	231/16	・ 光学異性体の製造[5]
229/60	・ ・ ・ メタまたはパラ位に結合しているアミノ基とカルボキシル基をもつもの[5]	231/18	・ ・ 立体特異的合成によるもの[5]
229/62	・ ・ ・ 同じ 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基と少なくとも 2 個のカルボキシル基をもつもの[5]	231/20	・ ・ 光学異性体の分離によるもの[5]
229/64	・ ・ ・ 炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されているもの[5]	231/22	・ 分離;精製;安定化;添加剤の使用 (光学異性体の分離 C07C231/20) [5]
229/66	・ ・ ・ 炭素骨格がさらに二重結合の酸素原子で置換されているもの[5]	231/24	・ ・ 分離;精製[5]
229/68	・ ・ 同じ縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているアミノ基とカルボキシル基をもつもの[5]	233/00	カルボン酸アミド[5]
229/70	・ ・ ・ 炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されているもの[5]	233/01	・ カルボン酸アミド基の炭素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
229/72	・ ・ ・ 炭素骨格がさらに二重結合の酸素原子で置換されているもの[5]	233/02	・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非置換炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
229/74	・ ・ ・ ・ 縮合環系が少なくとも 3 個の環で形成されたもの、例. アミノアントラキノ	233/03	・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が水素原子に結合しているもの[5]
		233/04	・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が非環式飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
		233/05	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
		233/06	・ ・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
		233/07	・ ・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
		233/08	・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が環を含有する飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
		233/09	・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が非環式不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
		A	[メタ] アクリル酸アミド

B	・製造方法〔触媒の使用〕				アミド基の窒素原子に 6 員芳香環の炭素原子によって結合しているもの[5]
C	・精製				
D	・原料ニトリルの精製	233/25			・カルボン酸アミド基の炭素原子が水素原子または非環式飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
E	・生成物の精製				
Z	その他				
233/10	・カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環を含有する不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/26			・カルボン酸アミド基の炭素原子が環を含有する飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
233/11	・カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環を含有する不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/27			・カルボン酸アミド基の炭素原子が非環式不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
233/12	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	233/28			・カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環を含有する不飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
233/13	・置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に非環式炭素原子によって結合しているもの[5]	233/29			・カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環を含有する炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
233/14	・置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環以外の環の炭素原子によって結合しているもの[5]	233/30			・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が二重結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/15	・置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環の環の炭素原子によって結合しているもの[5]	233/31			・置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に非環式炭素原子によって結合しているもの[5]
233/16	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	233/32			・置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環以外の環の炭素原子によって結合しているもの[5]
233/17	・置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に非環式炭素原子によって結合しているもの[5]	233/33			・置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環の炭素原子によって結合しているもの[5]
233/18	・カルボン酸アミド基の炭素原子が水素原子または非環式飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/34			・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がアミノ基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/19	・カルボン酸アミド基の炭素原子が環を含有する飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]	233/35			・置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に非環式炭素原子によって結合しているもの[5]
233/20	・カルボン酸アミド基の炭素原子が非環式不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/36			・カルボン酸アミド基の炭素原子が水素原子または非環式飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
233/21	・カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環を含有する不飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]	233/37			・カルボン酸アミド基の炭素原子が環を含有する飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
233/22	・カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環を含有する炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]	233/38			・カルボン酸アミド基の炭素原子が非環式不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
233/23	・置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環以外の環の炭素原子によって結合しているもの[5]	233/39			・カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環を含有する不飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
233/24	・置換された炭化水素基がカルボン酸	233/40			・カルボン酸アミド基の炭素原子が

	6 員芳香環を含有する炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]		の, 例, オキサミド[5]
233/41	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環以外の環の炭素原子によって結合しているもの[5]	233/57	・ カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
233/42	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環の炭素原子によって結合しているもの[5]	233/58	・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非置換炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/43	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が水素原子または飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/59	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/44	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/60	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/45	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がカルボキシル基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	233/61	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が二重結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/46	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に非環式炭素原子によって結合しているもの[5]	233/62	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がアミノ基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/47	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が水素原子または非環式飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/63	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がカルボキシル基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/48	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が環を含有する飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]	233/64	・ カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
233/49	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が非環式不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/65	・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非置換炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/50	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環を含有する不飽和炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]	233/66	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/51	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環を含有する炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]	233/67	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
233/52	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環以外の環の炭素原子によって結合しているもの[5]	233/68	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に非環式炭素原子によって結合しているもの[5]
233/53	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香の環の炭素原子によって結合しているもの[5]	233/69	・ ・ ・ ・ 非環式飽和炭素骨格の非環式炭素原子[5]
233/54	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が水素原子または飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/70	・ ・ ・ ・ 環を含有する飽和炭素骨格の非環式炭素原子[5]
233/55	・ ・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	233/71	・ ・ ・ ・ 非環式不飽和炭素骨格の非環式炭素原子[5]
233/56	・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子がカルボキシル基の炭素原子に結合しているもの[5]	233/72	・ ・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有する不飽和炭素骨格の非環式炭素原子[5]
		233/73	・ ・ ・ ・ 6 員芳香環を含有する炭素骨格の非環式炭素原子[5]

233/74	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環以外の環の炭素原子によって結合しているもの [5]		の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]
233/75	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環の炭素原子によって結合しているもの [5]	235/00	酸部分の炭素骨格がさらに酸素原子で置換されているカルボン酸アミド [5]
233/76	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が、二重結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの [5]	235/02	・ カルボン酸アミド基の炭素原子が非環式炭素原子に結合し、それと同じ炭素骨格に単結合の酸素原子が結合しているもの [5]
233/77	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が、アミノ基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの [5]	235/04	・ ・ 炭素骨格が非環式で飽和のもの [5]
233/78	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に非環式炭素原子によって結合しているもの [5]	235/06	・ ・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの [5]
233/79	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環以外の環の炭素原子によって結合しているもの [5]	235/08	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの [5]
233/80	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に 6 員芳香環の炭素原子によって結合しているもの [5]	235/10	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がニトロ基またはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの [5]
233/81	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がカルボキシル基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの [5]	235/12	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がカルボキシル基で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの [5]
233/82	・ ・ ・ 置換された炭化水素基がカルボン酸アミド基の窒素原子に非環式炭素原子によって結合しているもの [5]	235/14	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの [5]
233/83	・ ・ ・ 非環式飽和炭素骨格の非環式炭素原子 [5]	A	窒素原子に結合する炭素骨格が単結合の酸素原子で置換されたもの
233/84	・ ・ ・ 環を含有する飽和炭素骨格の非環式炭素原子 [5]	B	窒素原子に結合する炭素骨格がニトロ基またはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置換されたもの
233/85	・ ・ ・ 非環式不飽和炭素骨格の非環式炭素原子 [5]	C	窒素原子に結合する炭素骨格がカルボキシル基で置換されたもの
233/86	・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有する不飽和炭素骨格の非環式炭素原子 [5]	Z	その他
233/87	・ ・ ・ 6 員芳香環を含有する炭素骨格の非環式炭素原子 [5]	235/16	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]
233/88	・ カルボン酸アミド基の窒素原子が非環式炭素原子と、少なくとも 1 個のオルト位の水素原子が置換されている 6 員芳香環の炭素原子とに結合しているもの [5]	A	窒素原子に結合する炭素骨格が単結合の酸素原子で置換されたもの
233/89	・ カルボン酸アミド基の窒素原子が 4 級化されているもの [5]	B	窒素原子に結合する炭素骨格がニトロ基またはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置換されたもの
233/90	・ カルボン酸アミド基の窒素原子がさらにアシル化されているもの [5]	C	窒素原子に結合する炭素骨格がカルボキシル基で置換されたもの
233/91	・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が非環式炭素原子に結合しているもの [5]	Z	その他
233/92	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基	235/18	・ ・ ・ 少なくとも 1 個の単結合の酸素原子がさらに 6 員芳香環の炭素原子と結合しているもの、例. フェノキシアセトアミド [5]
		235/20	・ ・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合し

	ているもの[5]		るもの[5]
A	窒素原子に結合する炭素骨格が単結合の酸素原子で置換されたもの	235/44	・カルボン酸アミド基の炭素原子と単結合の酸素原子が同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
B	窒素原子に結合する炭素骨格がニトロ基またはニトロ基の一部ではない窒素原子が置換されたもの	235/46	・カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
C	窒素原子に結合する炭素骨格がカルボキシル基で置換されたもの	235/48	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
Z	その他		
235/22	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	235/50	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がニトロまたはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
A	窒素原子に結合する炭素骨格が単結合の酸素原子で置換されたもの		
B	窒素原子に結合する炭素骨格がニトロ基またはニトロ基の一部ではない窒素原子で置換されたもの	235/52	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がカルボキシル基で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
C	窒素原子に結合する炭素骨格がカルボキシル基で置換されたもの		
Z	その他		
235/24	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	235/54	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
A	窒素原子に結合する炭素骨格が単結合の酸素原子で置換されたもの	235/56	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
B	窒素原子に結合する炭素骨格がニトロ基またはニトロ基の一部ではない窒素原子で置換されたもの	235/58	・カルボン酸アミド基の炭素原子と単結合の酸素原子が同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子にオルト位で結合しているもの[5]
C	窒素原子に結合する炭素骨格がカルボキシル基で置換されたもの		
Z	その他	235/60	・カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
235/26	・炭素骨格が飽和で環を含有するもの[5]		
235/28	・炭素骨格が非環式で不飽和のもの[5]		
235/30	・炭素骨格が不飽和で 6 員芳香環以外の環を含有するもの[5]	235/62	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
235/32	・炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの[5]	235/64	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
235/34	・カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]	235/66	・カルボン酸アミド基の炭素原子が縮合環系的一部分である 6 員芳香環の炭素原子に結合し、同一炭素骨格に単結合の酸素原子が同じ炭素骨格に結合しているもの[5]
235/36	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]		
235/38	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	235/68	・少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が非環式炭素原子と少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が非環式炭素原子と少なくとも 1 個のオルト位の水素原子が置換されている 6 員芳香環の炭素原子とに結合しているもの[5]
235/40	・カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合し、それと同じ炭素骨格に単結合の酸素原子が結合しているもの[5]		
235/42	・カルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合し、それと同じ炭素骨格に単結合の酸素原子が結合してい	235/70	・カルボン酸アミド基の炭素原子と二重結合の酸素原子が同じ炭素骨格に結合して

	いるもの[5]		しているもの[5]
235/72	・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]	237/14	・ ・ 炭素骨格が飽和で環を含有するもの[5]
235/74	・ ・ ・ 飽和炭素骨格の非環式炭素原子[5]	237/16	・ ・ 炭素骨格が非環式で不飽和のもの[5]
235/76	・ ・ ・ 不飽和炭素骨格の非環式炭素原子[5]	237/18	・ ・ 炭素骨格が不飽和で 6 員芳香環以外の環を含有するもの[5]
235/78	・ ・ ・ ・ 環を含有する炭素骨格[5]	237/20	・ ・ 炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの[5]
235/80	・ ・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子とケト基の炭素原子とが同じ炭素原子に結合しているもの, 例. アセト酢酸アミド[5]	237/22	・ ・ アミノ基の窒素原子が酸部分の炭素骨格に結合し, さらにアシル化されているもの[5]
235/82	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	237/24	・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の炭素原子が炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
235/84	・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	237/26	・ ・ 少なくとも 4 個の環からなる縮合環系の一部である環, 例. テトラサイクリン[5]
235/86	・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が 4 級化されているもの[5]	237/28	・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の炭素原子が炭素骨格の非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
235/88	・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がさらにアシル化されているもの[5]	237/30	・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
237/00	酸部分の炭素骨格がさらにアミノ基で置換されているカルボン酸アミド[5]	237/32	・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が酸素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
237/02	・ カルボン酸アミド基の炭素原子が炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]	237/34	・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子がニトロまたはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
237/04	・ ・ 炭素骨格が非環式で飽和のもの[5]	237/36	・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子がカルボキシル基で置換された炭化水素の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
A	窒素原子に結合する炭素骨格が 6 員芳香環で, かつ, 単結合の酸素原子で置換されたもの	237/38	・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
B	窒素原子に結合する炭素骨格が 6 員芳香環で, かつ, ニトロ基またはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置換されたもの	237/40	・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
C	窒素原子に結合する炭素骨格が 6 員芳香環で, かつ, カルボキシル基で, 置換されたもの	237/42	・ ・ アミノ基の窒素原子が酸部分の炭素骨格に結合し, さらにアシル化されているもの[5]
D	窒素原子に結合する炭素骨格が 6 員芳香環以外の環であるもの	237/44	・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子, アミノ基および単結合の酸素原子が同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
Z	その他	237/46	・ ・ カルボン酸アミド基の炭素原子, アミノ基および少なくとも 3 個の酸素またはヨウ素原子が同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
237/06	・ ・ ・ カルボン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]	237/48	・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の炭素原子が同じ炭素骨格の縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
237/08	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子が単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]		
237/10	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がニトロまたはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]		
237/12	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボン酸アミド基の窒素原子がカルボキシル基で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合		

237/50	・少なくとも1個のカルボン酸アミド基の窒素原子が4級化されているもの[5]	243/16	・・・・不飽和炭素骨格の[5]
237/52	・少なくとも1個のカルボン酸アミド基の窒素原子がさらにアシル化されているもの[5]	243/18	・・・・環を含有するもの[5]
239/00	窒素—ハロゲン結合を含有する化合物;ヒドロキシルアミノ化合物またはそのエーテルもしくはエステル[5]	243/20	・ヒドラジノ基の窒素原子が6員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
239/02	・窒素—ハロゲン結合を含有する化合物[5]	243/22	・ヒドラジノ基の窒素原子が6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
239/04	・N—ハロゲン化アミン[5]	243/24	・ヒドラジノ基の窒素原子がカルボン酸でアシル化されているヒドラジン[5]
239/06	・N—ハロゲン化カルボン酸アミド[5]	243/26	・アシル化しているカルボキシル基が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
239/08	・ヒドロキシルアミノ化合物またはそのエーテルもしくはエステル[5]	243/28	・・・・水素原子または飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
239/10	・ヒドロキシルアミノ基の窒素原子がさらに不飽和炭化水素基または、ハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	243/30	・・・・不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
239/12	・ヒドロキシルアミノ基の窒素原子がさらに単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	243/32	・・・・炭素骨格が環を含有するもの[5]
239/14	・ヒドロキシルアミノ基の窒素原子がさらに二重結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	243/34	・・・・さらに窒素原子で置換された炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
239/16	・ヒドロキシルアミノ基の窒素原子がさらにニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	243/36	・アシル化しているカルボキシル基が6員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
239/18	・ヒドロキシルアミノ基の窒素原子がさらにカルボキシル基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	243/38	・アシル化しているカルボキシル基が6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
239/20	・ヒドロキシルアミノ基の酸素原子がエーテル化されているもの[5]	243/40	・ヒドラジノ基の窒素原子が4級化されているヒドラジン[5]
239/22	・ヒドロキシルアミノ基の酸素原子がエステル化されているもの[5]	243/42	・ヒドラジノ基の窒素原子がさらに異種原子に単結合で結合しているヒドラジン[5]
241/00	互いに単結合で結合している窒素原子鎖を含有する化合物の製造, 例. ヒドラジン, トリアザン[5]	245/00	少なくとも1個の窒素—窒素多重結合をもつ窒素原子鎖を含有する化合物 (アゾキシ化合物 C07C291/08) [5]
241/02	・ヒドラジンの製造[5]	245/02	・アゾ化合物, すなわち—N=N—基が異なった原子に結合している化合物, 例. ジアゾヒドロキンド[5]
241/04	・ヒドラジドの製造[5]	245/04	・アゾ基の窒素原子が非環式炭素原子または6員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
243/00	互いに単結合で結合している窒素原子鎖を含有する化合物, 例. ヒドラジン, トリアザン[5]	245/06	・アゾ基の窒素原子が6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
243/02	・N—ニトロ化合物[5]	245/08	・・・・アゾ基の2個の窒素原子が6員芳香環に結合しているもの, 例. アゾベンゼン[5]
243/04	・N—ニトロソ化合物[5]	245/10	・・・・アゾ基の窒素原子が縮合環系の一部である6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
243/06	・N—ニトロソーアミン[5]	245/12	・ジアゾ化合物, すなわち>N ₂ 基が同じ炭素原子に結合している化合物[5]
243/08	・N—ニトロソーカルボン酸アミド[5]	245/14	・炭素骨格の非環式炭素原子に結合するジアゾ基をもつもの[5]
243/10	・ヒドラジン[5]	245/16	・・・・ジアゾメタン[5]
243/12	・ヒドラジノ基の窒素原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]	245/18	・・・・炭素骨格がさらにカルボキシル基で
243/14	・・・・飽和炭素骨格の[5]		

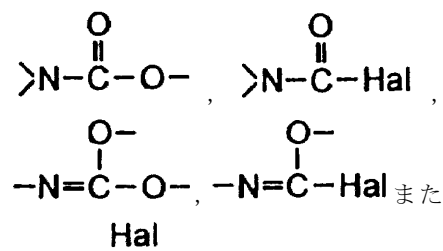
	置換されているもの[5]		いるもの[5]
245/20	・ジアゾニウム化合物[5]	251/08	・・・・炭素骨格が非環式のもの[5]
245/22	・1 個以上の窒素—窒素二重結合を持つ 3 個以上の窒素原子からなる窒素鎖を含有するもの[5]	251/10	・・・・不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
245/24	・・・・3 個の窒素原子からなる窒素鎖, 例. ジアゾアミン[5]	251/12	・・・・炭素骨格が非環式のもの[5]
247/00	アジド基を含有する化合物[5]	251/14	・・・・炭素骨格が 6 員芳香環以外の環を含有するもの[5]
247/02	・炭素骨格の非環式炭素原子に結合するアジド基をもつもの[5]	251/16	・・・・炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの[5]
247/04	・・・・飽和のもの[5]	251/18	・・・・イミノ基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
247/06	・・・・環を含有するもの[5]	251/20	・・・・イミノ基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の一部であるもの[5]
247/08	・・・・不飽和のもの[5]	251/22	・・・・キノンイミン[5]
247/10	・・・・環を含有するもの[5]	251/24	・・・・イミノ基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
247/12	・・・・さらにカルボキシル基で置換されているもの[5]	251/26	・・・・イミノ基の窒素原子がさらにハロゲン原子に結合しているもの[5]
247/14	・アジド基が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	251/28	・・・・イミノ基の窒素原子がアシル化されているもの[5]
247/16	・アジド基が炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	251/30	・・・・イミノ基の窒素原子が 4 級化されているもの[5]
247/18	・・・・さらにカルボキシル基で置換されているもの[5]	251/32	・オキシム[5]
247/20	・アジド基がカルボン酸でアシル化されているもの[5]	251/34	・・・・オキシイミノ基の酸素原子が水素原子または非置換炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
247/22	・・・・アシル化しているカルボキシル基が水素原子, 非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	251/36	・・・・オキシイミノ基の炭素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
247/24	・・・・少なくとも 1 個のアシル化しているカルボキシル基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	251/38	・・・・飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
249/00	炭素骨格に二重結合で結合している窒素原子を含有する化合物の製造 (ジアゾ化合物の製造 C07C245/12) [5]	251/40	・・・・不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
249/02	・イミノ基を含有する化合物の[5]	251/42	・・・・少なくとも 1 個のオキシイミノ基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
249/04	・オキシムの[5]	251/44	・・・・少なくとも 1 個のオキシイミノ基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の一部であるもの[5]
249/06	・・・・炭化水素または置換炭化水素のニトロソ化によるもの[5]	251/46	・・・・キノンオキシム[5]
249/08	・・・・ヒドロキシルアミンとカルボニル化合物との反応によるもの[5]	251/48	・・・・少なくとも 1 個のオキシイミノ基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
249/10	・・・・ニトロ化合物またはその塩からのもの[5]	251/50	・・・・オキシイミノ基の酸素原子が置換炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
249/12	・・・・オキシイミノ基の形成が関与しない反応によるもの[5]	251/52	・・・・炭化水素基がハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]
249/14	・・・・分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[5]	251/54	・・・・炭化水素基が単結合の酸素原子で置換されているもの[5]
249/16	・ヒドラゾンの[5]	251/56	・・・・炭化水素基が二重結合の酸素原子で置換されているもの[5]
251/00	炭素骨格に二重結合で結合している窒素原子を含有する化合物 (ジアゾ化合物 C07C245/12) [5]		
251/02	・イミノ基を含有するもの[5]		
251/04	・・・・イミノ基の炭素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]		
251/06	・・・・飽和炭素骨格の炭素原子に結合して		

251/58	・ ・ ・炭化水素基がニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換されているもの[5]		はエーテル化もしくはエステル化された水酸基を含有する化合物との反応によるもの[5]
251/60	・ ・ ・炭化水素基がカルボキシル基で置換されているもの[5]	253/18	・ アンモニアまたはアミンと, 6 員芳香環以外に炭素—炭素多重結合を含有する化合物との反応によるもの[5]
251/62	・ ・ オキシイミノ基の酸素原子がエステル化されているもの[5]	253/20	・ カルボン酸アミドの脱水によるもの[5]
251/64	・ ・ ・カルボン酸によるもの[5]	253/22	・ カルボキシル基のシアノ基による置換を伴う, アンモニアとカルボン酸の反応によるもの[5]
251/66	・ ・ ・ ・エステル化されたカルボキシル基が水素原子または, 非環式炭素原子もしくは 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	253/24	・ 炭化水素の, または置換された炭化水素のアンモキシネーションによるもの[5]
251/68	・ ・ ・ ・少なくとも 1 個のエステル化されたカルボキシル基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	253/26	・ ・ 炭素—炭素多重結合を含有するもの, 例. 不飽和アルデヒド[5]
251/70	・ ・ オキシムの金属錯体[5]	253/28	・ ・ 6 員芳香環を含有するもの, 例. スチレン[5]
251/72	・ ヒドラゾン[5]	253/30	・ シアノ基の形成の関与しない反応によるもの[5]
251/74	・ ・ ヒドラゾン基の二重結合の炭素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]	253/32	・ 分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[5]
251/76	・ ・ ・飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	253/34	・ ・ 分離; 精製[5]
251/78	・ ・ ・不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	255/00	カルボン酸ニトリル (シアンまたはその化合物 C01C3/00) [5]
251/80	・ ・ ・ ・炭素骨格が環を含有するもの[5]	255/01	・ 非環式炭素原子に結合しているシアノ基をもつもの[5]
251/82	・ ・ ヒドラゾン基の二重結合の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	255/02	・ ・ 非環式飽和炭素骨格の[5]
251/84	・ ・ ヒドラゾン基の二重結合の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の一部であるもの[5]	255/03	・ ・ ・モノニトリル[5]
251/86	・ ・ ヒドラゾン基の二重結合の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	255/04	・ ・ ・炭素骨格に結合している 2 個のシアノ基を含有するもの[5]
251/88	・ ・ 他方の窒素原子も炭素原子に二重結合で結合しているもの, 例. アジン[5]	255/05	・ ・ ・炭素骨格に結合している少なくとも 3 個のシアノ基を含有するもの[5]
253/00	カルボン酸ニトリルの製造 (シアンまたはその化合物 C01C3/00) [5]	255/06	・ ・ 非環式で不飽和の炭素骨格の[5]
253/02	・ 窒素酸化物と有機化合物との反応によるもの[5]	255/07	・ ・ ・モノニトリル[5]
253/04	・ ハロゲン化シアン, 例. ClCN , と有機化合物との反応によるもの[5]	255/08	・ ・ ・ ・アクリロニトリル; メタクリロニトリル[5]
253/06	・ N—ホルミル化アミノ化合物からのもの[5]	255/09	・ ・ ・炭素骨格に結合している少なくとも 2 個のシアノ基を含有するもの[5]
253/08	・ シアン化水素またはその塩の不飽和化合物への付加によるもの[5]	255/10	・ ・シアノ基と, 同じ非環式炭素骨格に結合しているハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基とを含有するもの[5]
253/10	・ ・ 炭素—炭素二重結合を含有する化合物への付加[5]	255/11	・ ・シアノ基と, 同じ飽和非環式炭素骨格に結合している単結合の酸素原子とを含有するもの[5]
253/12	・ ・ 炭素—炭素三重結合を含有する化合物への付加[5]	255/12	・ ・ ・シアノ基と, 炭素骨格に結合している水酸基とを含有するもの[5]
253/14	・ ハロゲン原子のシアノ基による置換を伴う, シアン化物とハロゲン含有化合物との反応によるもの[5]	255/13	・ ・ ・シアノ基と, 炭素骨格に結合しているエーテル化された水酸基とを含有するもの[5]
253/16	・ シアン化物と, ラクトンまたは水酸基また	255/14	・ ・ ・シアノ基と, 炭素骨格に結合しているエステル化された水酸基とを含有するもの[5]
		255/15	・ ・シアノ基と, 同じ飽和非環式炭素骨格に結合している単結合の酸素原子とを含有するもの[5]

- 255/16 ・・シアノ基と、非環式炭素骨格の同じ炭素原子に結合している単結合の酸素原子とを含有するもの[5]
- 255/17 ・・シアノ基と、同じ非環式炭素骨格に結合している二重結合の酸素原子とを含有するもの[5]
- 255/18 ・・カルボキシル基の炭素原子に結合しているシアノ基を含有するもの[5]
- 255/19 ・・シアノ基と、同じ飽和非環式炭素骨格に結合している、シアノ基以外のカルボキシル基とを含有するもの[5]
- 255/20 ・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されているもの[5]
- 255/21 ・・炭素骨格がさらに二重結合の酸素原子で置換されているもの[5]
- 255/22 ・・シアノ基と、炭素骨格に結合している少なくとも2個のカルボキシル基とを含有するもの[5]
- 255/23 ・・シアノ基と、同じ飽和非環式炭素骨格に結合している、シアノ基以外のカルボキシル基とを含有するもの[5]
- 255/24 ・・シアノ基と、同じ飽和非環式炭素骨格に結合しておりさらに他の異種原子に結合していない単結合の窒素原子とを含有するもの[5]
- 255/25 ・・アミノアセトニトリル[5]
- 255/26 ・・炭素骨格に結合しているシアノ基、アミノ基および単結合の酸素原子を含有するもの[5]
- 255/27 ・・炭素骨格に結合しているシアノ基、アミノ基および二重結合の酸素原子を含有するもの[5]
- 255/28 ・・炭素骨格に結合しているシアノ基、アミノ基およびシアノ基以外のカルボキシル基を含有するもの[5]
- 255/29 ・・シアノ基と、炭素骨格に結合しているアシル化されたアミノ基とを含有するもの[5]
- 255/30 ・・シアノ基と、同じ飽和非環式炭素骨格に結合しており、さらに異種原子に結合していない単結合の窒素原子とを含有するもの[5]
- 255/31 ・・シアノ基が、6員芳香環以外の環を含有する炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 255/32 ・・シアノ基が、少なくとも1個の6員芳香環を含有する炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 255/33 ・・シアノ基が、6員芳香環または6員芳香環を含有する縮合環系に飽和炭素鎖で結合しているもの[5]
- 255/34 ・・シアノ基が、6員芳香環または6員芳香環を含有する縮合環系に、不飽和炭素鎖で結合しているもの[5]
- 255/35 ・・炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているもの[5]
- 255/36 ・・炭素骨格がさらに水酸基で置換されているもの[5]
- 255/37 ・・炭素骨格がさらにエーテル化された水酸基で置換されているもの[5]
- 255/38 ・・炭素骨格がさらにエステル化された水酸基で置換されてくるもの[5]
- 255/39 ・・2,2-ジメチルシクロプロパンカルボン酸誘導体、例. 菊酸、でエステル化されている水酸基を有するもの[5]
- 255/40 ・・炭素骨格がさらに二重結合の酸素原子で置換されているもの[5]
- 255/41 ・・炭素骨格がさらにシアノ基以外のカルボキシル基で置換されているもの[5]
- 255/42 ・・炭素骨格がさらに単結合の窒素原子で置換されており、さらに他の異種原子に結合していないもの[5]
- 255/43 ・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されているもの[5]
- 255/44 ・・少なくとも1個の単結合の窒素原子がアシル化されているもの[5]
- 255/45 ・シアノ基が、6員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 255/46 ・・非縮合環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 255/47 ・・縮合環系の一部である環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 255/48 ・・2,2-ジメチルシクロプロパン環の炭素原子に結合しているもの、例. 菊酸のニトリル[5]
- 255/49 ・シアノ基が、炭素骨格の6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 255/50 ・・非縮合6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 255/51 ・・炭素骨格に結合している少なくとも2個のシアノ基を含有するもの[5]
- 255/52 ・・縮合環系の一部である6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 255/53 ・・シアノ基と、炭素骨格に結合している水酸基とを含有するもの[5]
- 255/54 ・・シアノ基と、炭素骨格に結合しているエーテル化された水酸基とを含有するもの[5]
- 255/55 ・・シアノ基と、炭素骨格に結合しているエステル化された水酸基とを含有するもの[5]
- 255/56 ・・シアノ基と、炭素骨格に結合している二重結合の酸素原子とを含有するもの[5]
- 255/57 ・・シアノ基と、炭素骨格に結合しているシアノ基以外のカルボキシル基とを含有するもの[5]

	るもの[5]	257/16	・・アミジノ基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
255/58	・・シアノ基と、炭素骨格に結合しており他の異種原子に結合していない単結合の窒素原子とを含有するもの[5]	257/18	・・アミジノ基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
255/59	・・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたもの[5]	257/20	・・アミジノ基の窒素原子がアシル化されているもの[5]
255/60	・・・少なくとも 1 個の単結合の窒素原子がアシル化されているもの[5]	257/22	・・アミジノ基の窒素原子がさらに窒素原子に結合しているもの、例、ヒドラジジン[5]
255/61	・シアノ基と、同じ炭素骨格に結合しているイミノ基の一部である窒素原子とを含有するもの[5]	259/00	カルボキシル基の酸素原子がニトロまたはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置き換えられ、その窒素原子がさらに酸素原子に結合しているカルボキシル基を含有する化合物[5]
255/62	・シアノ基と、同じ炭素骨格に結合しているオキシイミノ基の一部である酸素原子を含有をするもの[5]	259/02	・カルボキシル基の他方の酸素原子がハロゲン原子で置き換えられているもの[5]
255/63	・シアノ基と、同じ炭素骨格に結合している、ニトロもしくはニトロソ基の酸素原子以外の異種原子にさらに結合する窒素原子を有するもの[5]	259/04	・カルボキシル基の他方の酸素原子が置き換えられていないもの、例、ヒドロキサム酸[5]
255/64	・・窒素原子がさらに酸素原子に結合しているもの[5]	259/06	・・ヒドロキサム酸基の炭素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
255/65	・・窒素原子がさらに窒素原子に結合しているもの[5]	259/08	・・ヒドロキサム酸基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
255/66	・・・シアノ基と、同じ炭素骨格に結合しているヒドラジノ基またはヒドラゾノ基の一部である窒素原子とをもつもの[5]	259/10	・・ヒドロキサム酸基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
255/67	・・・シアノ基と同じ炭素骨格に結合しているアジド基をもつもの[5]	259/12	・カルボキシル基の他方の酸素原子が窒素原子で置き換えられているもの、例、N-ヒドロキシアミジン[5]
257/00	カルボキシル基の二重結合で結合している酸素原子が、二重結合で結合している窒素原子で置き換えられていて、かつその窒素原子はそれ以上酸素原子と結合していないカルボキシル基を含有する化合物、例、イミノーエーテル、アミジン[5]	259/14	・・ヒドロキシアミジン基の炭素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
257/02	・カルボキシル基の一方の酸素原子がハロゲン原子で置き換えられているもの、低、イミノーハライド[5]	259/16	・・ヒドロキシアミジン基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
257/04	・カルボキシル基の一方の酸素原子が置き換えられていないもの、例、イミノーエーテル[5]	259/18	・・ヒドロキシアミジン基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
257/06	・・イミノーカルボキシル基の炭素原子が水素原子、非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	259/20	・・ヒドロキシアミジン基の少なくとも 1 個の窒素原子が他の窒素原子に結合しているもの[5]
257/08	・・イミノーカルボキシル基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	261/00	シアン酸誘導体[5]
257/10	・カルボキシル基の他方の酸素原子が窒素原子で置き換えられているもの、例、アミジン[5]	261/02	・シアナート[5]
257/12	・・アミジノ基の炭素原子が水素原子に結合しているもの[5]	261/04	・シアナミド (非置換シアナミド C01C3/16) [5]
257/14	・・アミジノ基の炭素原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]	263/00	イソシアン酸誘導体の製造[5]
		263/02	・ハロゲン化物と、イソシアン酸またはその誘導体との反応によるもの[5]
		263/04	・カルバマートまたはカルバモイルハライドからのもの、またはそれらを経由するもの[5]

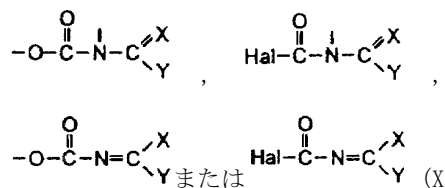
- 263/06 ・尿素からのもの、または尿素を経由するもの[5]
- 263/08 ・複素環化合物からのもの、またはそれを経由するもの、例. フロキサンの熱分解[5]
- 263/10 ・アミンとカルボニルハロゲン化物、例. ホスゲン、との反応によるもの[5]
- 263/12 ・カルボン酸の窒素誘導体、例. ヒドロキサム酸、からのものまたはそれを経由するもの、ホフマン、クルチウスまたはロッセン型転位反応を含む (C07C209/56 が優先) [5]
- 263/14 ・ニトロ化合物と一酸化炭素との触媒反応によるもの[5]
- 263/16 ・イソシアナート基の形成の関与しない反応によるもの[5]
- 263/18 ・分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[5]
- 263/20 ・ ・ 分離; 精製[5]
- 265/00 イソシアナート誘導体[5]
- 265/02 ・イソシアナート基が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 265/04 ・ ・ 飽和炭素骨格の[5]
- 265/06 ・ ・ 不飽和炭素骨格の[5]
- 265/08 ・ ・ ・ 炭素骨格が環を含有するもの[5]
- 265/10 ・イソシアナート基が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 265/12 ・イソシアナート基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 265/14 ・少なくとも 2 個のイソシアナート基が同じ炭素骨格に結合しているもの[5]
- 265/16 ・イソシアナート基がアシル化されているもの[5]
- 267/00 カルボジイミド[5]
- 269/00 カルバミン酸誘導体、すなわち以下の基のいずれかを含有する化合物、の製造
- $$\begin{array}{c} \text{O} \qquad \qquad \text{O} \\ \parallel \qquad \parallel \\ \text{>N-C-O-} \quad , \quad \text{>N-C-Hal} \quad , \\ \text{O-} \qquad \qquad \text{O-} \\ | \qquad \qquad | \\ \text{-N=C-O-} \quad , \quad \text{-N=C-Hal} \quad \text{また} \\ \text{Hal} \\ | \\ \text{-N=C-Hal} \end{array}$$
- は -N=C-Hal (窒素原子はニトロまたはニトロソ基の一部ではない) [5]
- 269/02 ・カルバマート基の形成を伴うイソシアナートからのもの[5]
- 269/04 ・カルバマート基の形成を伴うアミンからのもの[5]
- 269/06 ・カルバマート基の形成の関与しない反応によるもの[5]
- 269/08 ・分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[5]
- 271/00 カルバミン酸誘導体、すなわち、以下のいずれかを含有する化合物



は -N=C-Hal (窒素原子はニトロまたはニトロソ基の一部ではない) [5]

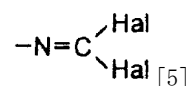
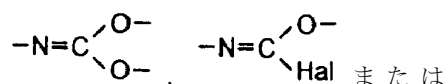
- 271/02 ・カルバミン酸; カルバミン酸の塩 (非置換カルバミン酸またはその塩 C01B21/12) [5]
- 271/04 ・カルバミン酸ハライド[5]
- 271/06 ・カルバミン酸エステル[5]
- 271/08 ・ ・ カルバマート基の酸素原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/10 ・ ・ ・ カルバマート基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/12 ・ ・ ・ 水素原子または非置換炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/14 ・ ・ ・ ハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換された炭化水素の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/16 ・ ・ ・ 単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/18 ・ ・ ・ 二重結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/20 ・ ・ ・ ニトロもしくはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換された炭素水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/22 ・ ・ ・ カルボキシル基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/24 ・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルバマート基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/26 ・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルバマート基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/28 ・ ・ ・ 非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/30 ・ ・ ・ 縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/32 ・ ・ カルバマート基の酸素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/34 ・ ・ ・ カルバマート基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]

- 271/36 ・・・・少なくとも 1 個のカルバマート基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/38 ・・・・少なくとも 1 個のカルバマート基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/40 ・・カルバマート基の酸素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/42 ・・・・カルバマート基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/44 ・・・・水素原子または非置換炭化水素の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/46 ・・・・ハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/48 ・・・・単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/50 ・・・・二重結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/52 ・・・・ニトロもしくはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/54 ・・・・カルボキシル基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/56 ・・・・少なくとも 1 個のカルバマート基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/58 ・・・・少なくとも 1 個のカルバマート基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 271/60 ・カルバマート基の酸素原子が窒素原子に結合しているもの[5]
- 271/62 ・以下の基のいずれかを含有する化合物

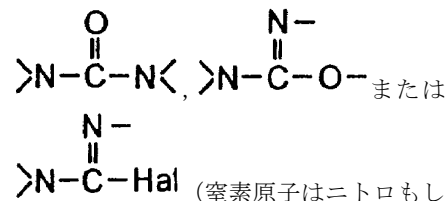


(X は異種原子, Y は任意の原子を表わす)
例. N-アシルカルバマート[5]

- 271/64 ・・Y が水素原子または炭素原子であるもの, 例. ベンゾイルカルバマート[5]
- 271/66 ・・Y が異種原子であるもの[5]
- 271/68 ・以下の基のいずれかを含有する化合物

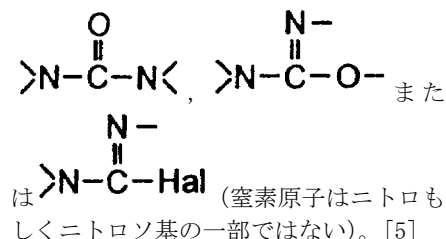


- 273/00 尿素またはその誘導体, すなわち, 以下の基のいずれかを含有する化合物, の製造



- 273/02 ・尿素, その塩, 錯体または付加化合物の製造[5]
- 273/04 ・・二酸化炭素とアンモニアからのもの[5]
- 273/06 ・・シアナミドまたはカルシウムシアナミドからのもの[5]
- 273/08 ・・アンモニア性溶液からのもの[5]
- 273/10 ・・アンモニアの合成と組み合わせたもの[5]
- 273/12 ・・メラミンの合成と組み合わせたもの[5]
- 273/14 ・・分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[5]
- 273/16 ・・・・分離; 精製[5]
- 273/18 ・置換尿素的の製造[5]

- 275/00 尿素的の誘導体, すなわち以下の基のいずれかを含有する化合物

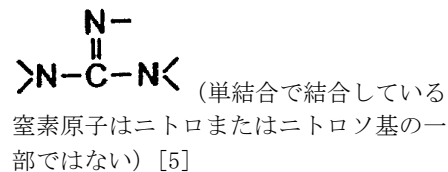


- 275/02 ・塩; 錯体; 付加化合物[5]
- 275/04 ・尿素的の窒素原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 275/06 ・・非環式で飽和の炭素骨格の[5]
- 275/08 ・・・・炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されたもの[5]
- 275/10 ・・・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたもの[5]
- 275/12 ・・・・炭素骨格がさらに二重結合の酸素原子で置換されたもの[5]
- 275/14 ・・・・炭素骨格がさらにニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換されたもの[5]
- 275/16 ・・・・炭素骨格がさらにカルボキシル基で置換されたもの[5]
- 275/18 ・・環を含有する飽和炭素骨格の[5]
- 275/20 ・・不飽和炭素骨格の[5]
- 275/22 ・・・・炭素骨格が 6 員芳香環以外の環を含有するもの[5]

- 275/24 ・・・・炭素骨格が 6 員芳香環を含有するものの[5]
- 275/26 ・尿素基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているものの[5]
- 275/28 ・尿素基の窒素原子が炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているものの[5]
- 275/30 ・・・・炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されているものの[5]
- 275/32 ・・・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたものの[5]
- 275/34 ・・・・尿素基の窒素原子と単結合の酸素原子が同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているものの[5]
- 275/36 ・・・・少なくとも 1 個の酸素原子がさらに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの、例、N-アリールオキシフェニル尿素[5]
- 275/38 ・・・・炭素骨格がさらに二重結合の酸素原子で置換されたものの[5]
- 275/40 ・・・・炭素骨格がさらにニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換されたものの[5]
- 275/42 ・・・・炭素骨格がさらにカルボキシル基で置換されたものの[5]
- 275/44 ・尿素基の窒素原子が二重結合で炭素原子に結合しているものの[5]
- 275/46 ・以下の基のいずれかを含有する化合物
- $$\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ \text{>N-C-N-C} \begin{array}{l} \nearrow \text{X} \\ \searrow \text{Y} \end{array} \end{array} \quad \text{または} \quad \begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ \text{>N-C-N=C} \begin{array}{l} \nearrow \text{X} \\ \searrow \text{Y} \end{array} \end{array} \quad (\text{X}$$
- は異種原子, Y は任意の原子を表わす) 例、アシル尿素[5]
- 275/48 ・・・・Y が水素原子または炭素原子であるものの[5]
- 275/50 ・・・・Y が水素原子または非環式炭素原子であるものの[5]
- 275/52 ・・・・Y が 6 員芳香環以外の環の炭素原子であるものの[5]
- 275/54 ・・・・Y が 6 員芳香環の炭素原子であるもの、例、ベンゾイル尿素[5]
- 275/56 ・・・・X が窒素原子であるものの[5]
- 275/58 ・・・・Y が異種原子であるものの[5]
- 275/60 ・・・・Y が酸素原子であるもの、例、アロファン酸[5]
- 275/62 ・・・・Y が窒素原子であるもの、例、ビウレット[5]
- 275/64 ・尿素基の窒素原子が単結合で酸素原子に結合しているものの[5]
- 275/66 ・尿素基の窒素がハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基に結合しているものの[5]
- 275/68 ・・・・N-ニトロソ尿素[5]

- 275/70 ・以下の基のいずれかを含有する化合物
- $$\begin{array}{c} \text{I} \\ | \\ \text{-N=C-N-} \\ | \\ \text{O-} \end{array} \quad \text{または} \quad \begin{array}{c} \text{I} \\ | \\ \text{-N=C-N-} \\ | \\ \text{Hal} \end{array} \quad \text{例、イソ尿素[5]}$$

- 277/00 グアニジンまたはその誘導体, すなわち以下の基を含む化合物の製造



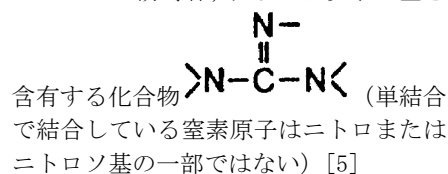
- 277/02 ・シアナミド, カルシウムシアナミドまたはジシアンジアミドからのグアニジンの製造[5]

- 277/04 ・アンモニウムチオシアナートからのグアニジンの製造[5]

- 277/06 ・グアニジンの精製または分離[5]

- 277/08 ・置換グアニジンの製造[5]

- 279/00 グアニジンの誘導体, すなわち以下の基を



- 279/02 ・グアニジン; その塩, 錯体または付加化合物[5]

- 279/04 ・グアニジン基の窒素原子が炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているものの[5]

- 279/06 ・・・・炭素骨格がさらにハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基で置換されたものの[5]

- 279/08 ・・・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたものの[5]

- 279/10 ・・・・炭素骨格がさらに二重結合の酸素原子で置換されたものの[5]

- 279/12 ・・・・炭素骨格がさらにニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換されたものの[5]

- 279/14 ・・・・炭素骨格がさらにカルボキシル基で置換されたものの[5]

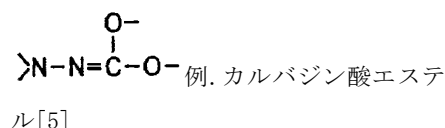
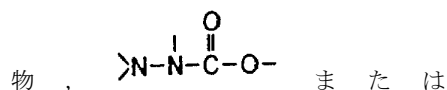
- 279/16 ・グアニジン基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているものの[5]

- 279/18 ・グアニジン基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているものの[5]

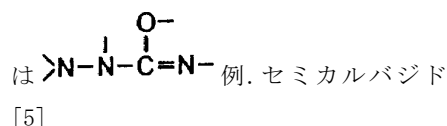
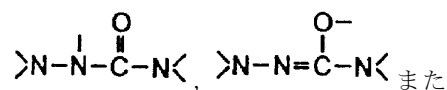
- 279/20 ・以下の基のいずれかを含有する化合物
- $$\begin{array}{c} \text{I} \\ | \\ \text{>N-C-N-} \\ | \\ \text{X} \end{array} \quad \text{または} \quad \begin{array}{c} \text{I} \\ | \\ \text{>N-C-N-} \\ | \\ \text{Y} \end{array} \quad (\text{X は異種原子, Y は任意の原子を表わす}) \quad \text{例、アシルグアニジン[5]}$$

- 279/22 ・・・・Y が水素または炭素原子であるもの、例、

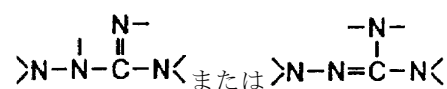
- ベンゾイルグアニジン[5]
- 279/24 ・ ・ Y が異種原子であるもの[5]
- 279/26 ・ ・ ・ X と Y が窒素原子であるもの, すなわちビグアニド[5]
- 279/28 ・ グアニジン基の窒素原子がシアノ基に結合しているもの, 例. シアノグアニジン, ジシアンジアミド[5]
- 279/30 ・ グアニジン基の窒素原子がニトロまたはニトロソ基に結合しているもの[5]
- 279/32 ・ ・ N—ニトログアニジン類[5]
- 279/34 ・ ・ ・ N—ニトログアニジン[5]
- 279/36 ・ ・ ・ 置換 N—ニトログアニジン[5]
- 281/00 その官能基の少なくとも 1 個の窒素原子がさらにニトロまたはニトロソ基の一部ではない窒素原子に結合しているグループ C07C269/00-C07C279/00 までに属する官能基を含有する炭酸誘導体[5]
- 281/02 ・ 以下の基のいずれかを含む化合物



- 281/04 ・ ・ 一方の窒素原子がさらに二重結合で炭素原子に結合しているもの[5]
- 281/06 ・ 以下の基のいずれかを含有する化合物



- 281/08 ・ ・ 上記他の窒素原子がさらに二重結合で炭素原子に結合しているもの, 例. セミカルバゾン[5]
- 281/10 ・ ・ ・ 炭素原子がさらに非環式炭素原子または 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 281/12 ・ ・ ・ 炭素原子が 6 員芳香環以外の環の一部であるもの[5]
- 281/14 ・ ・ ・ 炭素骨格がさらに 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 281/16 ・ 以下の基のいずれかを含有する化合物



例. アミノグアニジン[5]

- 281/18 ・ ・ 上記他の窒素原子がさらに二重結合で炭素原子に結合しているもの, 例. グアニルヒドラゾン[5]

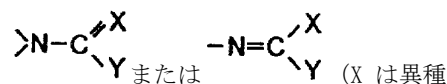
- 281/20 ・ 官能基の 2 個の窒素原子が互いに二重結合で結合しているもの, 例. アゾホルムアミド[5]
- 291/00 炭素と窒素を含有し, グループ C07C201/00-C07C281/00 に包含されない官能基をもつ化合物[5]
- 291/02 ・ 窒素—オキシド結合を含有するもの[5]
- 291/04 ・ ・ アミノ—オキシド結合を含有するもの[5]
- 291/06 ・ ・ ニトリルオキシド[5]
- 291/08 ・ ・ アゾキシ化合物[5]
- 291/10 ・ イソシアニド[5]
- 291/12 ・ 雷酸エステル[5]
- 291/14 ・ ニトロまたはニトロソ基との結合と異種原子への二重結合とをもつ少なくとも 1 個の炭素原子を含有するもの[5]

硫黄, セレンもしくはテルルとともに炭素を含有し水素, ハロゲン, 酸素もしくは窒素を有するかまたは有しない化合物[5]

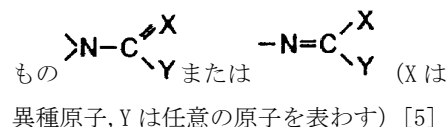
- 301/00 亜硫酸エステル[5]
- 301/02 ・ 亜硫酸基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 303/00 硫酸エステルまたはアミドの製造; スルホン酸またはそのエステル, ハライド, 無水物またはアミドの製造[5]
- 303/02 ・ スルホン酸またはそのハロゲン化物の製造[5]
- 303/04 ・ ・ 水素原子をスルホ基またはハロスルホニル基で置換することによるもの[5]
- 303/06 ・ ・ ・ 硫酸または三酸化イオウとの反応によるもの[5]
- 303/08 ・ ・ ・ ハロゲノスルホン酸との反応によるもの[5]
- 303/10 ・ ・ ・ 二酸化イオウおよびハロゲンとの反応またはハロゲン化スルフルルとの反応によるもの[5]
- 303/12 ・ ・ ・ ハロゲン化チオニルとの反応によるもの[5]
- 303/14 ・ ・ スルホキシデーションすなわちスルホ基またはハロスルホニル基の形成を伴う二酸化硫黄および酸素との反応によるもの[5]
- 303/16 ・ ・ スルホ基またはハロスルホニル基の形成を伴うチオール, スルフィド, ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィドの酸化によるもの[5]
- 303/18 ・ ・ スルホ基またはハロスルホニル基の形成を伴う置換可能な基を持つ化合物とスルフィドの反応によるもの[5]
- 303/20 ・ ・ 炭素—炭素多重結合を持つ化合物に亜

	硫酸またはその塩を付加することによるもの[5]		環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
303/22	・スルホ基またはハロスルホニル基の形成が関与しない反応によるスルホン酸からのもの[5]	307/10	・スルファミド基の窒素原子が6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
303/24	・硫酸エステルの製造[5]	309/00	スルホン酸; そのハライド, エステルまたは無水物[5]
303/26	・スルホン酸エステルの製造[5]	309/01	・スルホン酸[5]
303/28	・ヒドロキシ化合物とスルホン酸またはその誘導体との反応によるもの[5]	309/02	・スルホン酸基が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
303/30	・エステル化されたスルホ基の形成が関与しない反応によるもの[5]	309/03	・非環式飽和炭素骨格の[5]
303/32	・スルホン酸塩の製造[5]	309/04	・ただ1個のスルホン酸基を含有するもの[5]
303/34	・硫酸アミドの製造[5]	309/05	・炭素骨格に結合している少なくとも2個のスルホン酸基を含有するもの[5]
303/36	・スルホン酸アミドの製造[5]	309/06	・炭素骨格に結合しているハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基を含有するもの[5]
303/38	・アンモニアまたはアミンとスルホン酸, またはそのエステル, 無水物またはハロゲン化物との反応によるもの[5]	309/07	・炭素骨格に結合している酸素原子を含有するもの[5]
303/40	・スルホンアミド基の形成が関与しない反応によるもの[5]	309/08	・炭素骨格に結合している水酸基を含有するもの[5]
303/42	・分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[5]	309/09	・炭素骨格に結合しているエーテル化された水酸基を含有するもの[5]
303/44	・分離; 精製[5]	309/10	・少なくとも1個のエーテル化された水酸基の酸素原子がさらに非環式炭素原子に結合しているもの[5]
303/46	・鉱油を硫酸で精製する際の副生成物からのもの[5]	309/11	・少なくとも1個のエーテル化された水酸基の酸素原子がさらに6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
305/00	硫酸エステル[5]	309/12	・炭素骨格に結合しているエステル化された水酸基を含有するもの[5]
305/02	・硫酸基の酸素原子が炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]	309/13	・炭素骨格に結合しているニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子を含有するもの[5]
305/04	・非環式で飽和のもの[5]	309/14	・炭素骨格に結合しているアミノ基を含有するもの[5]
305/06	・硫酸水素エステル[5]	309/15	・少なくとも1個のアミノ基の窒素原子が以下の基のいずれかの一部と
305/08	・硫酸ジアルキル; 置換硫酸ジアルキル[5]		$\begin{array}{c} \text{X} \\ \parallel \\ \text{>N-C-Y} \end{array}$ になっているもの
305/10	・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたもの[5]		$\text{-N=C} \begin{array}{l} \nearrow \text{X} \\ \searrow \text{Y} \end{array}$ (Xは異種原子, Yは任意の原子を表わす) [5]
305/12	・飽和で環を含有するもの[5]	309/16	・炭素骨格に結合している二重結合の窒素原子を含有するもの[5]
305/14	・非環式で不飽和のもの[5]	309/17	・炭素骨格に結合しているカルボキシル基を含有するもの[5]
305/16	・不飽和で環を含有するもの[5]	309/18	・同じ炭素骨格に結合しているアミノ基を含有するもの[5]
305/18	・6員芳香環を含有するもの[5]	309/19	・環を含有する飽和炭素骨格の[5]
305/20	・硫酸基の酸素原子が6員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]		
305/22	・硫酸基の酸素原子が6員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]		
305/24	・非縮合6員芳香環の[5]		
305/26	・ハロゲン硫酸エステル, すなわちハロゲン硫酸のモノエステル[5]		
307/00	硫酸のアミド, すなわち硫酸基の単結合で結合している酸素原子がニトロまたはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置換された化合物[5]		
307/02	・硫酸またはそのエステルのモノアミド, 例. スルファミン酸[5]		
307/04	・硫酸のジアミド[5]		
307/06	・スルファミド基の窒素原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]		
307/08	・スルファミド基の窒素原子が6員芳香		

- 309/20 ・・・・非環式不飽和炭素骨格の[5]
- 309/21 ・・・・炭素骨格に結合しているニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子を含有するもの[5]
- 309/22 ・・・・炭素骨格に結合しているカルボキシル基を含有するもの[5]
- 309/23 ・・・・6 員芳香環以外の環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
- 309/24 ・・・・6 員芳香環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
- 309/25 ・・スルホン酸基が炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 309/26 ・・・・炭素骨格に結合しているニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子を含有するもの[5]
- 309/27 ・・・・炭素骨格に結合しているカルボキシル基を含有するもの[5]
- 309/28 ・・スルホン酸基が炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 309/29 ・・・・非縮合 6 員芳香環の[5]
- 309/30 ・・・・アルキル基置換 6 員芳香環の[5]
- 309/31 ・・・・少なくとも 3 個の炭素原子を含有するアルキル基で置換されたもの[5]
- 309/32 ・・・・炭素骨格に少なくとも 2 個の非縮合 6 員芳香環を含有するもの[5]
- 309/33 ・・・・6 員芳香環が縮合環系の一部であるもの[5]
- 309/34 ・・・・2 個の環から成るもの[5]
- 309/35 ・・・・ナフタレンスルホン酸[5]
- 309/36 ・・・・アルキル基で置換されているもの[5]
- 309/37 ・・・・アルキル基が少なくとも 3 個の炭素原子を含有するもの[5]
- 309/38 ・・・・少なくとも 3 個の環から成るもの[5]
- 309/39 ・・・・炭素骨格に結合しているハロゲン原子を含有するもの[5]
- 309/40 ・・・・炭素骨格に結合しているニトロまたはニトロソ基を含有するもの[5]
- 309/41 ・・・・炭素骨格に結合している単結合の酸素原子を含有するもの[5]
- 309/42 ・・・・非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているスルホン酸基をもつもの[5]
- 309/43 ・・・・縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合している少なくとも 1 個のスルホン酸基をもつもの[5]
- 309/44 ・・・・炭素骨格に結合している二重結合の酸素原子を含有するもの[5]
- 309/45 ・・・・炭素骨格に結合しているニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子を含有するもの[5]
- 309/46 ・・・・非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているスルホン酸基をもつもの[5]
- 309/47 ・・・・縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合している少なくとも 1 個のスルホン酸基をもつもの[5]
- 309/48 ・・・・炭素骨格がさらにハロゲン原子で置換されたもの[5]
- 309/49 ・・・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたもの[5]
- 309/50 ・・・・縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合している少なくとも 1 個のスルホン酸基をもつもの[5]
- 309/51 ・・・・少なくとも 1 個の窒素原子が以下の基のいずれかの一部となっているもの



- 309/52 ・・・・炭素骨格がさらに二重結合の酸素原子で置換されたもの[5]
- 309/53 ・・・・炭素骨格がキノン環の炭素原子を含有するもの[5]
- 309/54 ・・・・少なくとも 1 個の窒素原子が以下の基のいずれかの一部となっているもの



- 309/55 ・・・・Y が水素または炭素原子であるもの[5]
- 309/56 ・・・・Y が異種原子であるもの[5]
- 309/57 ・・・・炭素骨格に結合しているカルボキシル基を含有するもの[5]
- 309/58 ・・・・カルボン酸基またはそのエステル[5]
- 309/59 ・・・・カルボキシル基の窒素同族体[5]
- 309/60 ・・・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたもの[5]
- 309/61 ・・・・炭素骨格がさらにニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換されたもの[5]
- 309/62 ・・構造不明のスルホン化脂肪, 脂肪油またはワックス[5]
- 309/63 ・スルホン酸エステル[5]
- 309/64 ・・エステル化されたスルホン酸基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 309/65 ・・・・飽和炭素骨格の[5]
- 309/66 ・・・・メタンスルホン酸エステル[5]
- 309/67 ・・・・不飽和炭素骨格の[5]
- 309/68 ・・・・単結合の酸素原子で置換された炭素骨格の[5]
- 309/69 ・・・・ニトロまたはニトロソ基の一部でない

	い窒素原子で置換された炭素骨格の[5]	311/04	・ ・ ・ 単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
309/70	・ ・ ・ カルボキシル基で置換された炭素骨格の[5]	311/05	・ ・ ・ ・ ニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
309/71	・ ・ エステル化されたスルホン酸基の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	311/06	・ ・ ・ ・ カルボキシル基で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
309/72	・ ・ エステル化されたスルホン酸基の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	311/07	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
309/73	・ ・ ・ 非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	311/08	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
309/74	・ ・ ・ 縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	311/09	・ ・ ・ 炭素骨格がさらに少なくとも 2 個のハロゲン原子で置換されたもの[5]
309/75	・ ・ ・ 炭素骨格に結合している単結合の酸素原子を含有するもの[5]	311/10	・ ・ 環を含有する飽和炭素骨格の[5]
309/76	・ ・ ・ 炭素骨格に結合しているニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子を含有するもの[5]	311/11	・ ・ 非環式不飽和炭素骨格の[5]
309/77	・ ・ ・ 炭素骨格に結合しているカルボキシル基を含有するもの[5]	311/12	・ ・ 環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
309/78	・ スルホン酸ハライド[5]	311/13	・ ・ ・ 炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの[5]
309/79	・ ・ 非環式炭素原子に結合しているハロスルホニル基をもつもの[5]	311/14	・ スルホン酸アミド基の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
309/80	・ ・ ・ 飽和炭素骨格の[5]	311/15	・ スルホン酸アミド基の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
309/81	・ ・ ・ 不飽和炭素骨格の[5]	311/16	・ ・ 少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
309/82	・ ・ ・ 単結合の酸素原子で置換された炭素骨格の[5]	311/17	・ ・ ・ 単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
309/83	・ ・ ・ ニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換された炭素骨格の[5]	311/18	・ ・ ・ ニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
309/84	・ ・ ・ カルボキシル基で置換された炭素骨格の[5]	311/19	・ ・ ・ カルボキシル基で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
309/85	・ ・ 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているハロスルホニル基をもつもの[5]	311/20	・ ・ 少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
309/86	・ ・ 6 員芳香環の炭素原子に結合しているハロスルホニル基をもつもの[5]	311/21	・ ・ 少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
309/87	・ ・ ・ 炭素骨格に結合している単結合の酸素原子を含有するもの[5]	311/22	・ 酸部分の炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたスルホン酸アミド[5]
309/88	・ ・ ・ 炭素骨格に結合しているニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子を含有するもの[5]	311/23	・ ・ スルホン酸アミド基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
309/89	・ ・ ・ 炭素骨格に結合しているカルボキシル基を含有するもの[5]	311/24	・ ・ ・ 非環式飽和炭素骨格の[5]
311/00	スルホン酸アミド, すなわちスルホン酸基の単結合で結合している酸素原子がニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置き換えられている化合物[5]	311/25	・ ・ ・ 環を含有する飽和炭素の骨格の[5]
311/01	・ スルホン酸アミド基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]	311/26	・ ・ ・ 非環式不飽和炭素骨格の[5]
311/02	・ ・ 非環式飽和炭素骨格の[5]	311/27	・ ・ ・ 環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
311/03	・ ・ ・ スルホン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]		

- 311/28 ・少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/29 ・少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/30 ・酸部分の炭素骨格がさらにニトロまたはニトロソ基の一部でない単結合の窒素原子で置換されたスルホン酸アミド[5]
- 311/31 ・スルホン酸アミド基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/32 ・・・・非環式飽和炭素骨格の[5]
- 311/33 ・・・・環を含有する飽和炭素骨格の[5]
- 311/34 ・・・・非環式不飽和炭素骨格の[5]
- 311/35 ・・・・環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
- 311/36 ・少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/37 ・少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/38 ・・・・スルホン酸アミド基の硫黄原子と同じ炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合したアミノ基をもつもの[5]
- 311/39 ・・・・少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/40 ・・・・単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/41 ・・・・ニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/42 ・・・・カルボキシル基で置換された炭化水素基の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/43 ・・・・少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/44 ・・・・少なくとも 1 個のスルホン酸アミド基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/45 ・少なくとも 1 個の単結合の窒素原子が以下の基のいずれかの一部となっているもの
- $$\begin{array}{c} \text{X} \\ \diagup \\ \text{N}-\text{C} \\ \diagdown \\ \text{Y} \end{array} \quad \text{または} \quad \begin{array}{c} \text{X} \\ \diagdown \\ -\text{N}=\text{C} \\ \diagup \\ \text{Y} \end{array} \quad (\text{X は異種原子, Y は任意の原子を表わす}) \text{例. N-アシルアミノスルホンアミド[5]}$$
- 311/46 ・・・・Y が水素または炭素原子であるもの[5]
- 311/47 ・・・・Y が異種原子であるもの[5]
- 311/48 ・スルホン酸アミド基の窒素原子がさらに他の異種原子に結合しているもの[5]
- 311/49 ・・・・窒素原子に結合しているもの[5]
- 311/50 ・以下のいずれかの基を含有する化合物
- $$\begin{array}{c} \text{X} \\ \diagup \\ \text{C}-\text{SO}_2-\text{N}-\text{C} \\ \diagdown \\ \text{Y} \end{array} \quad \text{または} \quad \begin{array}{c} \text{X} \\ \diagdown \\ \text{C}-\text{SO}_2-\text{N}=\text{C} \\ \diagup \\ \text{Y} \end{array} \quad (\text{X は異種原子, Y は任意の原子を表わす}) [5]$$
- 311/51 ・・・・Y は水素または炭素原子であるもの[5]
- 311/52 ・・・・Y が異種原子であるもの[5]
- 311/53 ・・・・X と Y が窒素原子でないもの, 例. N-スルホニルカルバミン酸[5]
- 311/54 ・・・・X と Y のいずれか一方のみが窒素原子であるもの, 例. N-スルホニル尿素[5]
- 311/55 ・・・・スルホニル尿素基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/56 ・・・・スルホニル尿素基の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/57 ・・・・スルホニル尿素基の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/58 ・・・・スルホニル尿素基の窒素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/59 ・・・・スルホニル尿素基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/60 ・・・・スルホニル尿素基の窒素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 311/61 ・・・・スルホニル尿素基の窒素原子がさらに他の異種原子に結合しているもの[5]
- 311/62 ・・・・スルホニル尿素基の窒素原子がさらにアシル化されているもの[5]
- 311/63 ・・・・N-スルホニルイソ尿素[5]
- 311/64 ・・・・X と Y が窒素原子であるもの, 例. N-スルホニルグアニジン[5]
- 311/65 ・N-スルホニルイソシアナート[5]
- 313/00 スルフィン酸;スルフェン酸;それらのハライド, エステルまたは無水物;スルフィン酸またはスルフェン酸のアミド, すなわちスルフィン酸またはスルフェン酸の単結合で結合している酸素原子がニトロ基またはニトロソ基の一部でない窒素原子で置き換えられている化合物[5]
- 313/02 ・スルフィン酸;その誘導体[5]
- 313/04 ・・・・スルフィン酸;そのエステル[5]
- 313/06 ・・・・スルフィン酸アミド[5]

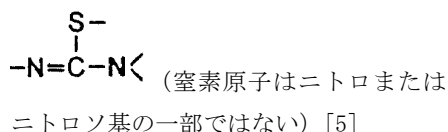
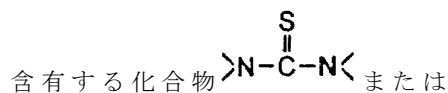
- 313/08 ・スルフェン酸;その誘導体[5]
- 313/10 ・・スルフェン酸;そのエステル[5]
- 313/12 ・・・スルフェン酸の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 313/14 ・・・スルフェン酸の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 313/16 ・・・スルフェン酸の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 313/18 ・・スルフェン酸アミド[5]
- 313/20 ・・・スルフェン酸アミド基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 313/22 ・・・スルフェン酸アミド基の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 313/24 ・・・スルフェン酸アミド基の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 313/26 ・・・以下のいずれかの基を含有する化合物
- $$\begin{array}{c} \text{X} \\ | \\ \text{>C-S-N-C-Y} \\ || \\ \text{X} \end{array} \quad \text{または} \quad \begin{array}{c} \text{X} \\ | \\ \text{>C-S-N=C-Y} \end{array} \quad (\text{X は異種原子, Y は任意の原子を表わす}) [5]$$
- 313/28 ・・・Y が水素または炭素原子であるもの[5]
- 313/30 ・・・・Y が異種原子であるもの[5]
- 313/32 ・・・・X と Y が窒素原子でないもの, 例. N—スルフェニルカルバミン酸[5]
- 313/34 ・・・・・X と Y のいずれか一方のみ窒素原子であるもの, 例. N—スルフェニル尿素[5]
- 313/36 ・・・スルフェン酸アミド基の窒素原子がさらに他の異種原子に結合しているもの[5]
- 313/38 ・・・N—スルフェニルイソシアナート[5]
- 315/00 スルホンの製造;スルホキシドの製造[5]
- 315/02 ・スルフィドの酸化によるスルホンまたはスルホキシド基の形成, またはスルホキシドの酸化によるスルホン基の形成によるもの[5]
- 315/04 ・スルホンまたはスルホキシド基の形成が関与しない反応によるもの[5]
- 315/06 ・分離;精製;安定化;添加剤の使用[5]
- 317/00 スルホン;スルホキシド[5]
- 317/02 ・スルホンまたはスルホキシド基が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/04 ・・非環式飽和炭素骨格の[5]
- 317/06 ・・環を含有する飽和炭素骨格の[5]
- 317/08 ・・非環式不飽和炭素骨格の[5]
- 317/10 ・・環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
- 317/12 ・スルホンまたはスルホキシド基が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/14 ・スルホンまたはスルホキシド基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/16 ・スルホンまたはスルホキシド基と単結合の酸素原子が同じ炭素骨格に結合しているもの[5]
- 317/18 ・・スルホンまたはスルホキシド基が炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/20 ・・スルホンまたはスルホキシド基が炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/22 ・・スルホンまたはスルホキシド基が炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/24 ・スルホンまたはスルホキシド基と二重結合の酸素原子が同じ炭素骨格に結合しているもの[5]
- 317/26 ・スルホンまたはスルホキシド基とニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子が同じ炭素骨格に結合しているもの[5]
- 317/28 ・・スルホンまたはスルホキシド基が炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/30 ・・スルホンまたはスルホキシド基が炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/32 ・・スルホンまたはスルホキシド基が炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/34 ・・・スルホンまたはスルホキシド基とアミノ基が同じ非縮合環の一部である 6 員芳香環または 6 員芳香環を含有する縮合環系の炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/36 ・・・・アミノ基の窒素原子が水素原子または炭素原子に結合しているもの[5]
- 317/38 ・・・少なくとも 1 個のアミノ基の窒素原子が以下の基のいずれかの一部であるもの
- $$\begin{array}{c} \text{X} \\ || \\ \text{>N-C-Y} \end{array} \quad \text{または} \quad \begin{array}{c} \text{X} \\ \diagup \\ \text{-N=C} \\ \diagdown \\ \text{Y} \end{array} \quad (\text{X は異種原子, Y は任意の原子を表わす}) \text{ 例. N—アシルアミノスルホン} [5]$$
- 317/40 ・・・・・Y が水素または炭素原子であるもの[5]
- 317/42 ・・・・・Y が異種原子であるもの[5]
- 317/44 ・スルホンまたはスルホキシド基とカルボキシル基が同じ炭素骨格に結合しているもの[5]
- 317/46 ・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたもの[5]

- 317/48 ・炭素骨格がさらにニトロまたはニトロソ基の一部でない単結合の窒素原子で置換されたもの[5]
- 317/50 ・少なくとも 1 個の窒素原子が以下の基のいずれかの一部となっているもの
- $$\begin{array}{c} \text{X} \\ \diagup \\ \text{N}-\text{C} \\ \diagdown \\ \text{Y} \end{array} \quad \text{または} \quad \begin{array}{c} \text{X} \\ \diagup \\ -\text{N}=\text{C} \\ \diagdown \\ \text{Y} \end{array} \quad (\text{X は異種原子, Y は任意の原子を表わす}) [5]$$
- 319/00 チオール, スルフィド, ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィドの製造[5]
- 319/02 ・チオールの製造[5]
- 319/04 ・不飽和化合物に硫化水素またはその塩を付加させることによるもの[5]
- 319/06 ・スルフィド, ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィドからのもの[5]
- 319/08 ・水酸基またはエーテル化もしくはエステル化された水酸基の置換によるもの[5]
- 319/10 ・6 員芳香環の炭素原子に結合した水酸基またはエーテル化もしくはエステル化された水酸基の置換によるもの[5]
- 319/12 ・メルカプト基の形成が関与しない反応によるもの[5]
- 319/14 ・スルフィドの製造[5]
- 319/16 ・不飽和化合物に硫化水素またはその塩を付加させることによるもの[5]
- 319/18 ・不飽和化合物にチオールを付加させることによるもの[5]
- 319/20 ・スルフィド基の形成が関与しない反応によるもの[5]
- 319/22 ・ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィドの製造[5]
- 319/24 ・硫黄—硫黄結合の形成が関与する反応によるもの[5]
- 319/26 ・分離; 精製; 安定化; 添加剤の使用[5]
- 319/28 ・分離; 精製[5]
- 319/30 ・鉱油精製の副産物からのもの[5]
- 321/00 チオール, スルフィド, ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィド[5]
- 321/02 ・非環式炭素原子に結合しているメルカプト基をもつチオール[5]
- 321/04 ・非環式飽和炭素骨格の[5]
- 321/06 ・環を含有する飽和炭素骨格の[5]
- 321/08 ・非環式不飽和炭素骨格の[5]
- 321/10 ・環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
- 321/12 ・非環式炭素原子に結合したチオ基をもつスルフィド, ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィド[5]
- 321/14 ・非環式飽和炭素骨格の[5]
- 321/16 ・環を含有する飽和炭素骨格の[5]
- 321/18 ・非環式不飽和炭素骨格の[5]
- 321/20 ・環を含有する不飽和炭素骨格の[5]
- 321/22 ・6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているチオ基をもつチオール, スルフィド, ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィド[5]
- 321/24 ・6 員芳香環の炭素原子に結合しているチオ基をもつチオール, スルフィド, ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィド[5]
- 321/26 ・チオール[5]
- 321/28 ・6 員芳香環の炭素原子に結合しているチオ基をもつスルフィド, ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィド[5]
- 321/30 ・少なくとも 1 個のチオ基の硫黄原子が 6 員芳香環の 2 個の炭素原子に結合しているスルフィド[5]
- 323/00 ハロゲン, 酸素, 窒素原子またはチオ基の一部でない硫黄原子で置換されたチオール, スルフィド, ヒドロポリスルフィドまたはポリスルフィド[5]
- 323/01 ・チオ基と同じ炭素骨格に結合しているハロゲン原子またはニトロもしくはニトロソ基を含有するもの[5]
- 323/02 ・チオ基の硫黄原子が炭素骨格の非環式炭素原子結合しているもの[5]
- 323/03 ・炭素骨格が非環式で飽和のもの[5]
- 323/04 ・炭素骨格が飽和で環を含有するもの[5]
- 323/05 ・炭素骨格が非環式で不飽和のもの[5]
- 323/06 ・炭素骨格が不飽和で 6 員芳香環以外の環を含有するもの[5]
- 323/07 ・炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの[5]
- 323/08 ・チオ基の硫黄原子が炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 323/09 ・チオ基の硫黄原子が炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 323/10 ・チオ基と同じ炭素骨格に結合している単結合の酸素原子を含有するもの[5]
- 323/11 ・チオ基の硫黄原子が炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの[5]
- 323/12 ・炭素骨格が非環式で飽和のもの[5]
- 323/13 ・炭素骨格が飽和で環を含有するもの[5]
- 323/14 ・炭素骨格が非環式で不飽和のもの[5]
- 323/15 ・炭素骨格が不飽和で 6 員芳香環以外の環を含有するもの[5]
- 323/16 ・炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの[5]
- 323/17 ・少なくとも 1 個のチオ基の硫黄原子が炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
- 323/18 ・少なくとも 1 個のチオ基の硫黄原子が

	炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]		原子, Y は任意の原子を表わす) [5]
323/19	・ ・ ・ 炭素骨格の非環式炭素原子に結合している単結合の酸素原子をもつもの [5]	323/40	・ ・ ・ Y が水素または炭素原子であるもの [5]
323/20	・ ・ ・ 同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合している単結合の酸素原子をもつもの [5]	323/41	・ ・ ・ ・ Y が水素または非環式炭素原子であるもの [5]
323/21	・ ・ ・ チオ基の硫黄原子が縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]	323/42	・ ・ ・ ・ Y が 6 員芳香環の炭素原子であるもの [5]
323/22	・ チオ基と同じ炭素骨格に結合している二重結合の酸素原子を含有するもの [5]	323/43	・ ・ ・ Y が異種原子であるもの [5]
323/23	・ チオ基と同じ炭素骨格に結合しているニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子を含有するもの [5]	323/44	・ ・ ・ ・ X または Y が窒素原子であるもの [5]
323/24	・ ・ チオ基の硫黄原子が炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの [5]	323/45	・ ・ 少なくとも 1 個の窒素原子が炭素骨格に二重結合で結合しているもの [5]
323/25	・ ・ ・ 炭素骨格が非環式で飽和のもの [5]	323/46	・ ・ 少なくとも 1 個の窒素原子がさらに他の異種原子に結合し, ニトロまたはニトロソ基の一部でないもの [5]
323/26	・ ・ ・ 炭素骨格が飽和で環を含有するもの [5]	323/47	・ ・ ・ 酸素原子に結合しているもの [5]
323/27	・ ・ ・ 炭素骨格が非環式で不飽和のもの [5]	323/48	・ ・ ・ 窒素原子に結合しているもの [5]
323/28	・ ・ ・ 炭素骨格が不飽和で 6 員芳香環以外の環を含有するもの [5]	323/49	・ ・ ・ 硫黄原子に結合しているもの [5]
323/29	・ ・ ・ 炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの [5]	323/50	・ チオ基と同じ炭素骨格に結合しているカルボキシル基を含有するもの [5]
323/30	・ ・ 少なくとも 1 個のチオ基の硫黄原子が炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの [5]	323/51	・ ・ チオ基の硫黄原子が炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの [5]
323/31	・ ・ 少なくとも 1 個のチオ基の硫黄原子が炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]	323/52	・ ・ ・ 炭素骨格が非環式で飽和のもの [5]
323/32	・ ・ ・ 少なくとも 1 個の窒素原子が炭素骨格の非環式炭素原子に結合しているもの [5]	323/53	・ ・ ・ 炭素骨格が飽和で環を含有するもの [5]
323/33	・ ・ ・ 少なくとも 1 個の窒素原子が同じ非縮合 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]	323/54	・ ・ ・ 炭素骨格が非環式で不飽和のもの [5]
323/34	・ ・ ・ ・ チオ基がメルカプト基であるもの [5]	323/55	・ ・ ・ 炭素骨格が不飽和で 6 員芳香環以外の環を含有するもの [5]
323/35	・ ・ ・ ・ チオ基がスルフィド基であるもの [5]	323/56	・ ・ ・ 炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの [5]
323/36	・ ・ ・ ・ ・ スルフィド基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの [5]	323/57	・ ・ ・ 炭素骨格がさらにニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換されているもの [5]
323/37	・ ・ ・ ・ ・ スルフィド基の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]	323/58	・ ・ ・ ・ 炭素骨格に結合しているアミノ基をもつもの [5]
323/38	・ ・ ・ チオ基の硫黄原子が縮合環系の一部である 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]	323/59	・ ・ ・ ・ ・ 炭素骨格に結合しているアシル化されたアミノ基をもつもの [5]
323/39	・ ・ 少なくとも 1 個の窒素原子が以下の基のいずれかの一部となっているもの	323/60	・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボキシル基の炭素原子が窒素原子に結合しているもの [5]
	$\begin{array}{c} \text{X} \\ \parallel \\ \text{>N-C-Y} \end{array} \quad \text{または} \quad \begin{array}{c} \text{X} \\ \diagup \\ \text{-N=C} \\ \diagdown \\ \text{Y} \end{array} \quad (\text{X は異種})$	323/61	・ ・ 少なくとも 1 個のチオ基の硫黄原子が炭素骨格の 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの [5]
		323/62	・ ・ 少なくとも 1 個のチオ基の硫黄原子が炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの [5]
		323/63	・ ・ ・ 炭素骨格がさらにニトロまたはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換されたもの [5]
		323/64	・ チオ基と同じ炭素骨格に結合したチオ基の一部でない硫黄原子を含有するもの [5]
		323/65	・ ・ スルホンまたはスルホキシド基の硫黄

	原子が炭素骨格に結合しているもの[5]	327/34	・ ・ ・ 同一炭化水素基に結合しているアミノ基をもつもの[5]
323/66	・ ・ スルホン酸基, エステル化されたスルホン酸基またはハロスルホニル基の硫黄原子が炭素骨格に結合しているもの[5]	327/36	・ ジチオカルボン酸のエステル[5]
323/67	・ ・ スルホン酸アミド基の硫黄原子が炭素骨格に結合しているもの[5]	327/38	・ チオカルボン酸のアミド[5]
325/00	チオアルデヒド; チオケトン; チオキノン; それらのオキシド[5]	327/40	・ ・ チオカルボキサミド基の炭素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]
325/02	・ チオケトン; それらのオキシド[5]	327/42	・ ・ ・ 水素原子または飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
325/04	・ チオキノン; それらのオキシド[5]	327/44	・ ・ ・ 不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]
327/00	チオカルボン酸[5]	327/46	・ ・ チオカルボキサミド基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
327/02	・ モノチオカルボン酸[5]	327/48	・ ・ チオカルボキサミド基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
327/04	・ ・ チオカルボキシル基の炭素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]	327/50	・ ・ ・ 以下のいずれかの基を含有する化合物
327/06	・ ・ ・ 水素原子または非環式飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]		$\begin{array}{c} \text{S} \quad \text{X} \\ \parallel \quad \\ -\text{C}-\text{N}-\text{C}-\text{Y} \end{array} \text{または} \begin{array}{c} \text{S} \\ \parallel \\ -\text{C}-\text{N}=\text{C} \begin{array}{l} \nearrow \text{X} \\ \searrow \text{Y} \end{array} \end{array} \quad (\text{X} \text{ は異種原子, Y は任意の原子を表わす}) [5]$
327/08	・ ・ ・ 環を含有する飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	327/52	・ ・ ・ Y が水素または炭素原子であるもの[5]
327/10	・ ・ ・ 非環式不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	327/54	・ ・ ・ Y が異種原子であるもの[5]
327/12	・ ・ ・ 環を含有する不飽和炭素骨格の炭素原子に結合しているもの[5]	327/56	・ ・ チオカルボキサミド基の窒素原子がさらに他の異種原子に結合しているもの[5]
327/14	・ ・ チオカルボキシル基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	327/58	・ 二重結合の酸素原子が窒素原子で置換されたチオカルボン酸誘導体, 例. イミノチオエーテル[5]
327/16	・ ・ チオカルボキシル基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	327/60	・ チオカルボキシル基の硫黄原子がさらに二重結合で酸素原子に結合しているチオカルボン酸[5]
327/18	・ ジチオカルボン酸[5]	329/00	チオ炭酸; それらのハライド, エステル, または無水物[5]
327/20	・ モノチオカルボン酸のエステル[5]	329/02	・ モノチオ炭酸; その誘導体[5]
327/22	・ ・ エステル化されたチオカルボキシル基の炭素原子が水素原子または非環式炭素原子に結合しているもの[5]	329/04	・ ・ モノチオ炭酸のエステル[5]
327/24	・ ・ エステル化されたチオカルボキシル基の炭素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]	329/06	・ ・ ・ チオ炭酸基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
327/26	・ ・ エステル化されたチオカルボキシル基の炭素原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]	329/08	・ ・ ・ チオ炭酸基の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
327/28	・ ・ エステル化されたチオカルボキシル基の硫黄原子が単結合の酸素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	329/10	・ ・ ・ チオ炭酸基の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
327/30	・ ・ エステル化されたチオカルボキシル基の硫黄原子がニトロ基またはニトロソ基の一部ではない窒素原子で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	329/12	・ ジチオ炭酸; その誘導体[5]
327/32	・ ・ エステル化されたチオカルボキシル基の硫黄原子がカルボキシル基で置換された炭化水素基の炭素原子に結合しているもの[5]	329/14	・ ・ ・ ジチオ炭酸のエステル[5]
		329/16	・ ・ ・ ジチオ炭酸基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]
		329/18	・ ・ ・ ジチオ炭酸基の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
		329/20	・ ・ ・ ジチオ炭酸基の硫黄原子が 6 員芳香

335/00 チオ尿素, すなわち以下のいずれかの基を



335/02 ・チオ尿素[5]

335/04 ・チオ尿素の誘導体[5]

335/06 ・・チオ尿素基の窒素原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]

335/08 ・・・飽和炭素骨格の[5]

335/10 ・・・不飽和炭素骨格の[5]

335/12 ・・・炭素骨格が 6 員芳香環を含有するもの[5]

335/14 ・・チオ尿素基の窒素原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]

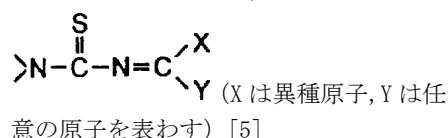
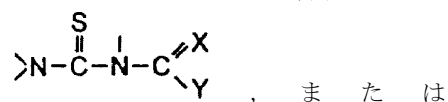
335/16 ・・チオ尿素基の窒素原子が炭素骨格の 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]

335/18 ・・・炭素骨格がさらに単結合の酸素原子で置換されたもの[5]

335/20 ・・・炭素骨格がさらにニトロ基またはニトロソ基の一部でない窒素原子で置換されたもの[5]

335/22 ・・・炭素骨格がさらにカルボキシル基で置換されたもの[5]

335/24 ・以下のいずれかの基を含有するもの



335/26 ・・・Y は水素または炭素原子であるもの, 例. ベンジイルチオ尿素[5]

335/28 ・・・Y が異種原子であるもの, 例. チオビウレット[5]

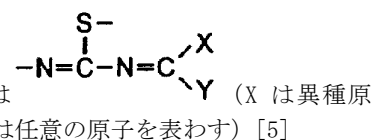
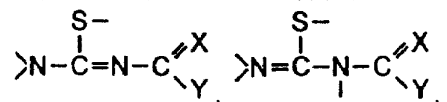
335/30 ・イソチオ尿素[5]

335/32 ・・イソチオ尿素基の硫黄原子が非環式炭素原子に結合しているもの[5]

335/34 ・・イソチオ尿素基の硫黄原子が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]

335/36 ・・イソチオ尿素基の硫黄原子が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]

335/38 ・以下のいずれかの基を含有するもの



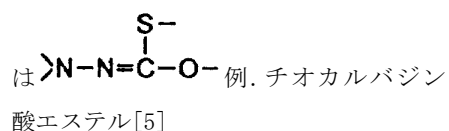
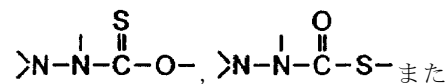
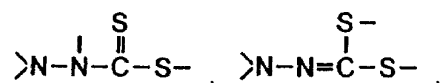
335/40 ・チオ尿素基またはイソチオ尿素基の窒素原子がさらに他の異種原子と結合しているもの[5]

335/42 ・・スルホニルチオ尿素; スルホニルイソチオ尿素[5]

335/44 ・・スルフェニルチオ尿素; スルフェニルイソチオ尿素[5]

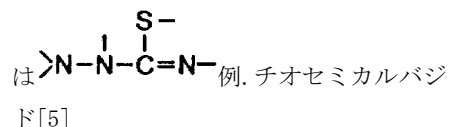
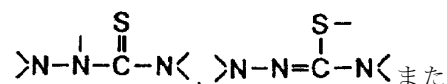
337/00 その官能基の少なくとも 1 個の窒素原子がさらにニトロまたはニトロソ基の一部ではない他の窒素原子に結合しているグループ C07C333/00 または C07C335/00 に包含される官能基を含有するチオ炭酸誘導体[5]

337/02 ・以下のいずれかの基を含有する化合物



337/04 ・・上記他の窒素原子がさらに二重結合で炭素原子に結合しているもの[5]

337/06 ・以下のいずれかの基を含有する化合物



337/08 ・・上記他の窒素原子がさらに二重結合で炭素原子に結合しているもの, 例. チオセミカルバゾン[5]

337/10 ・官能基の 2 個の窒素原子が互いに二重結合で結合しているもの[5]

381/00 炭素 および 硫黄 を 含 有 し, C07C301/00-C07C337/00 のグループに包含されない官能基をもつ化合物[5]

381/02 ・チオ硫酸エステル[5]

381/04 ・チオスルホン酸[5]

381/06 ・2 個の窒素原子のみに結合している硫黄原子を含有する化合物[5]

381/08 ・・少なくとも 1 個の窒素原子がアシル化されているもの[5]

381/10 ・窒素原子に二重結合で結合している硫黄

- 原子を含有する化合物[5]
- 381/12 ・スルホニウム化合物[5]
- 381/14 ・異種原子に対する二重結合をもち、さらに酸素原子に対する二重結合をもつ硫黄原子に対して少なくとも 1 個の結合をもつ、異種原子に対して 4 個の結合を有する炭素原子を含有する化合物[5]
- 391/00 セレンを含有する化合物[5]
- 391/02 ・6 員芳香環の炭素原子に結合しているセレン原子をもつもの[5]
- 395/00 テルルを含有する化合物[5]

-
- 401/00 コレステロールまたはその誘導体の照射産物;照射をせずに化学的製造によって得られたビタミン D 誘導体, 9, 10-セコシクロペンタ [a] フェナントレンまたはその類似体[5]
- 403/00 シクロヘキサン環またはシクロヘキセン環に直接結合した少なくとも 4 個の炭素原子よりなる非環式不飽和部分を含有する側鎖をもつシクロヘキサンまたはシクロヘキセン誘導体, 例. ビタミンA, β -カロチン, β -イオノン[5]
- 403/02 ・側鎖が炭素と水素原子のみを含有するもの[5]
- 403/04 ・側鎖がハロゲン原子で置換されたもの[5]
- 403/06 ・側鎖が単結合の酸素原子で置換されたもの[5]
- 403/08 ・水酸基で置換されたもの[5]
- 403/10 ・エーテル化された水酸基で置換されたもの[5]
- 403/12 ・エステル化された水酸基で置換されたもの[5]
- 403/14 ・側鎖が二重結合の酸素原子で置換されたもの[5]
- 403/16 ・-CHO 基の一部でないもの[5]
- 403/18 ・側鎖が窒素原子で置換されたもの[5]
- 403/20 ・側鎖がカルボキシル基で置換されたもの[5]
- 403/22 ・側鎖が硫黄原子で置換されたもの[5]
- 403/24 ・側鎖が 6 員非芳香環で置換されたもの, 例. β -カロチン[5]
- 405/00 互いにオルト位にある 2 個の側鎖と、その側鎖の 1 個の対するオルト位に環に直接結合する酸素原子をもつ 5 員環を含有する化合物であって、その 1 個の側鎖は、異種原子に対する 3 個の結合を有しそのうち多くても 1 個の結合はハロゲンに対する結合である炭素原子であって環に直接結合しないものを含有し、他の側鎖は環に対し γ -位の位置に結合する酸素原子を

- 有するもの, 例. プロスタグランジン[5]
- 501 ・プロスタグランジン系化合物
- 501 Aカルボン酸側に特徴 [1-7 位]
- 501 D5 員環に特徴 [8-12 位]
- 501 E・9 位
- 501 F・11 位
- 501 Jアルキル鎖側に特徴 [13-20 位]
- 501 K・15 位
- 501 L・16 位
- 501 M・末端
- 501 Pその他の構造的特徴
- 501 T製法
- 501 U分離, 精製, 安定化
- 501 V中間体
- 501 W中間体の製法
- 501 Zその他
- 502 ・・5 員環中に二重結合を有しないもの
- 502 Aカルボン酸側に特徴 [1-7 位]
- 502 D5 員環に特徴 [8-12 位]
- 502 E・9 位
- 502 F・11 位
- 502 Jアルキル鎖側に特徴 [13-20 位]
- 502 K・15 位
- 502 L・16 位
- 502 M・末端
- 502 Pその他の構造的特徴
- 502 T製法
- 502 U分離, 精製, 安定化
- 502 Zその他
- 503 ・・・5 員環に直接結合する水酸基を有するもの
- 503 Aカルボン酸側に特徴 [1-7 位]
- 503 D5 員環に特徴 [8-12 位]
- 503 E・9 位
- 503 F・11 位
- 503 Jアルキル鎖側に特徴 [13-20 位]
- 503 K・15 位
- 503 L・16 位
- 503 M・末端
- 503 Pその他の構造的特徴
- 503 T製法
- 503 U分離, 精製, 安定化
- 503 Zその他
- 504 ・・・5 員環に直接結合するオキソ基を有するもの
- 504 Aカルボン酸側に特徴 [1-7 位]
- 504 D5 員環に特徴 [8-12 位]
- 504 E・9 位
- 504 F・11 位
- 504 Jアルキル鎖側に特徴 [13-20 位]
- 504 K・15 位
- 504 L・16 位
- 504 M・末端

504 Pその他の構造的特徴		
504 T製法	409/08	・ ・ ・ 6 員芳香環を含有する化合物[5]
504 U分離, 精製, 安定化	409/10	・ ・ ・ ・ クメンハイドロパーオキシド[5]
504 Zその他	409/12	・ ・ ・ ・ 2 個の α , α -ジアルキルメチルハイドロパーオキシ基が同じ 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
505 ・ ・ ・ 5 員環中に二重結合を有するもの		
505 Aカルボン酸側に特徴 [1-7 位]		
505 D5 員環に特徴 [8-12 位]	409/14	・ ・ その炭素原子が 6 員芳香環以外の環に属するもの[5]
505 E・9 位		
505 F・11 位	409/16	・ —O—O—基がさらに酸素で置換されていない 2 個の炭素原子の間に結合しているもの, すなわち, パーオキサイド[5]
505 Jアルキル鎖側に特徴 [13-20 位]		
505 K・15 位		
505 L・16 位	409/18	・ ・ 少なくとも 1 個の炭素原子が 6 員芳香環以外の環に属するもの[5]
505 M・末端		
505 Pその他の構造的特徴	409/20	・ —O—O—基がさらに単結合の酸素原子で置換されている炭素原子に結合しているもの[5]
505 T製法		
505 U分離, 精製, 安定化		
505 Zその他	409/22	・ ・ 炭素原子に結合している 2 個の —O—O—基をもつもの[5]
506 ・ ・ ・ 5 員環に直接結合する水酸基を有するもの	409/24	・ —O—O—基が $>C=O$ 基と水素原子との間に結合しているもの, すなわち過酸[5]
506 Aカルボン酸側に特徴 [1-7 位]		
506 D5 員環に特徴 [8-12 位]	409/26	・ ・ 過酢酸[5]
506 E・9 位	409/28	・ ・ 1 個の $>C=O$ 基が 6 員芳香環以外の環の炭素原子に結合しているもの[5]
506 F・11 位		
506 Jアルキル鎖側に特徴 [13-20 位]	409/30	・ ・ 1 個の $>C=O$ 基が 6 員芳香環の炭素原子に結合しているもの[5]
506 K・15 位		
506 L・16 位	409/32	・ —O—O—基が 2 個の $>C=O$ 基の間に結合しているもの[5]
506 M・末端		
506 Pその他の構造的特徴	409/34	・ ・ 両者ともカルボン酸に属しているもの[5]
506 T製法		
506 U分離, 精製, 安定化	409/36	・ ・ ・ ジアセチルパーオキサイド[5]
506 Zその他	409/38	・ —O—O—基が $>C=O$ 基とさらに酸素原子で置換されていない炭素原子との間に結合しているもの, すなわち, 過酸のエステル[5]
507 ・ ・ ・ 5 員環に直接結合するオキシ基を有するもの		
507 Aカルボン酸側に特徴 [1-7 位]		
507 D5 員環に特徴 [8-12 位]	409/40	・ 窒素原子を含有するもの[5]
507 E・9 位	409/42	・ 硫黄原子を含有するもの[5]
507 F・11 位	409/44	・ ・ 硫黄原子が直接—O—O—基に結合しているもの, 例. 過スルホン酸[5]
507 Jアルキル鎖側に特徴 [13-20 位]		
507 K・15 位		
507 L・16 位		
507 M・末端		
507 Pその他の構造的特徴		
507 T製法		
507 U分離, 精製, 安定化		
507 Zその他		
407/00 パーオキシ化合物の製造[5]		
409/00 パーオキシ化合物[5]		
409/02 ・ —O—O—基が, さらに酸素で置換されていない炭素原子と水素原子との間に結合しているもの, すなわちハイドロパーオキサイド[5]		
409/04 ・ ・ その炭素原子が非環式のもの[5]		
409/06 ・ ・ ・ 6 員芳香環以外の環を含有する化合物[5]		